

第35図 SB3

SB3 (第35図, PL.18 - 1, 表4)

2区北東側 A 7 ~ B 7 グリッド、標高 60.6 ~ 60.7 m に位置する梁行 1 間、桁行 1 間の掘立柱建物跡である。梨耕作に伴う攪乱土を除去した後、層上面で検出した。主軸は N - 28° - W で、各柱穴間距離は P 1 2 の順に 2.8m、3.5m、2.8m、3.5m を測る。本建物跡の北東約 1 m には、桁方向をほぼ同じくする SB1 が隣接する。柱穴の規模は表 4 の通りである。深さは検出面からの計測値を表している。

埋土は暗褐色土を主体としていた。埋土中には微細炭化物をわずかに含んでおり、一部ホーキブロックも混じっていた。遺物はいずれのピットからも出土しなかった。そのため出土遺物からは本遺構の時期を明らかにできないが、弥生時代後期後葉頃の SB1 と主軸をほぼ等しくすることから、SB1 と同様の時期の弥生時代後期後葉頃の可能性も考えられる。(瀨本)

表 4 SB3ピット計測表

P番号	長軸 × 短軸 - 深さ(cm)
P 1	55 × 35 - 110
P 2	42 × 34 - 94
P 3	40 × 32 - 90
P 4	60 × 40 - 100

第3節 古墳時代以降の調査成果

概要

調査地内に広がる平坦面の中央からやや北よりを中心として竪穴住居跡5棟（SI8～12）、段状遺構1棟（SS1）、掘立柱建物跡8棟（SB4～11）が展開する。

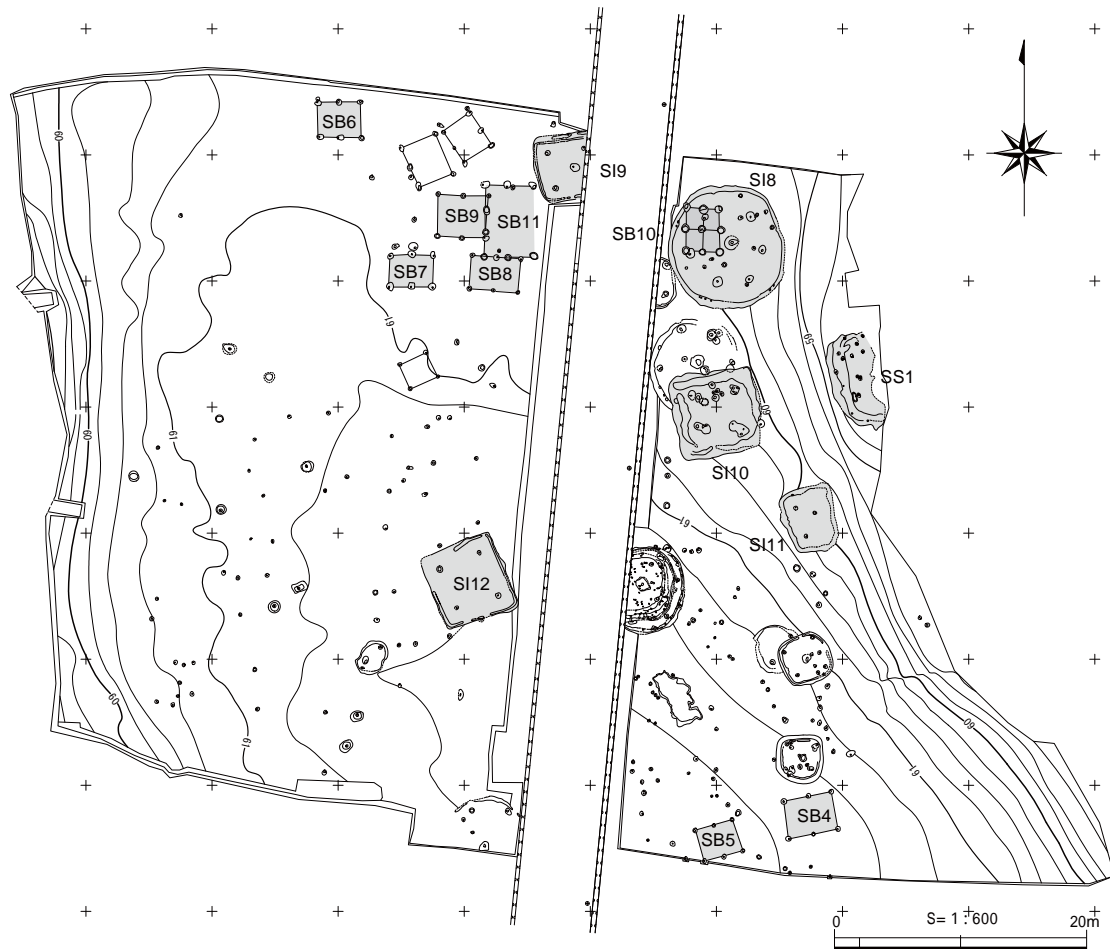
古墳時代以降に築かれた遺構は弥生時代のものと同様、上部が果樹園または畑地として利用された際に削平を受けている。これらの遺構検出面は層上面であった。竪穴住居跡には円形のもの1棟と方形のもの4棟がある。住居跡は埋土中より出土した土器から概ね古墳時代前期前半、古墳時代後期中葉の二時期に分かれる。古墳時代前期前半の円形住居跡（SI8）は直径約9mを測り、調査地内で最大規模の住居跡である。

8棟の掘立柱建物跡のうち、SB4～9はそれぞれ古墳時代前期前半の遺物を埋土中に含んでいるため、古墳時代前期前半以降に埋没したものと考えられる。また、SB10、11は遺構の配置から古墳時代前期前半の竪穴住居跡に重複または接しているため、より後出の遺構と考えられる。（大川・瀨本）

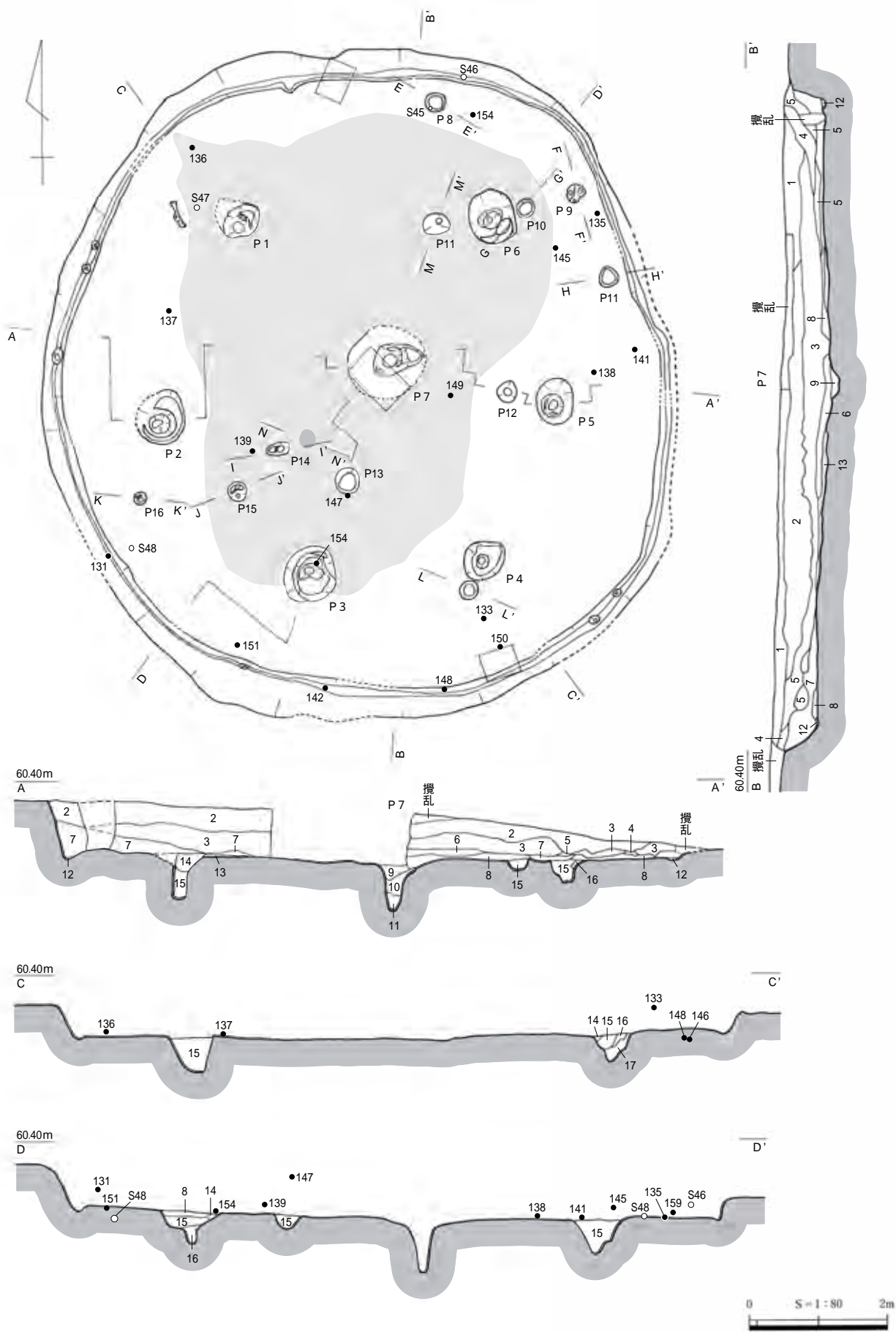
竪穴住居跡

SI8（第37～41図，巻頭図版2，PL.13，33～35-1，41～43，46，47）

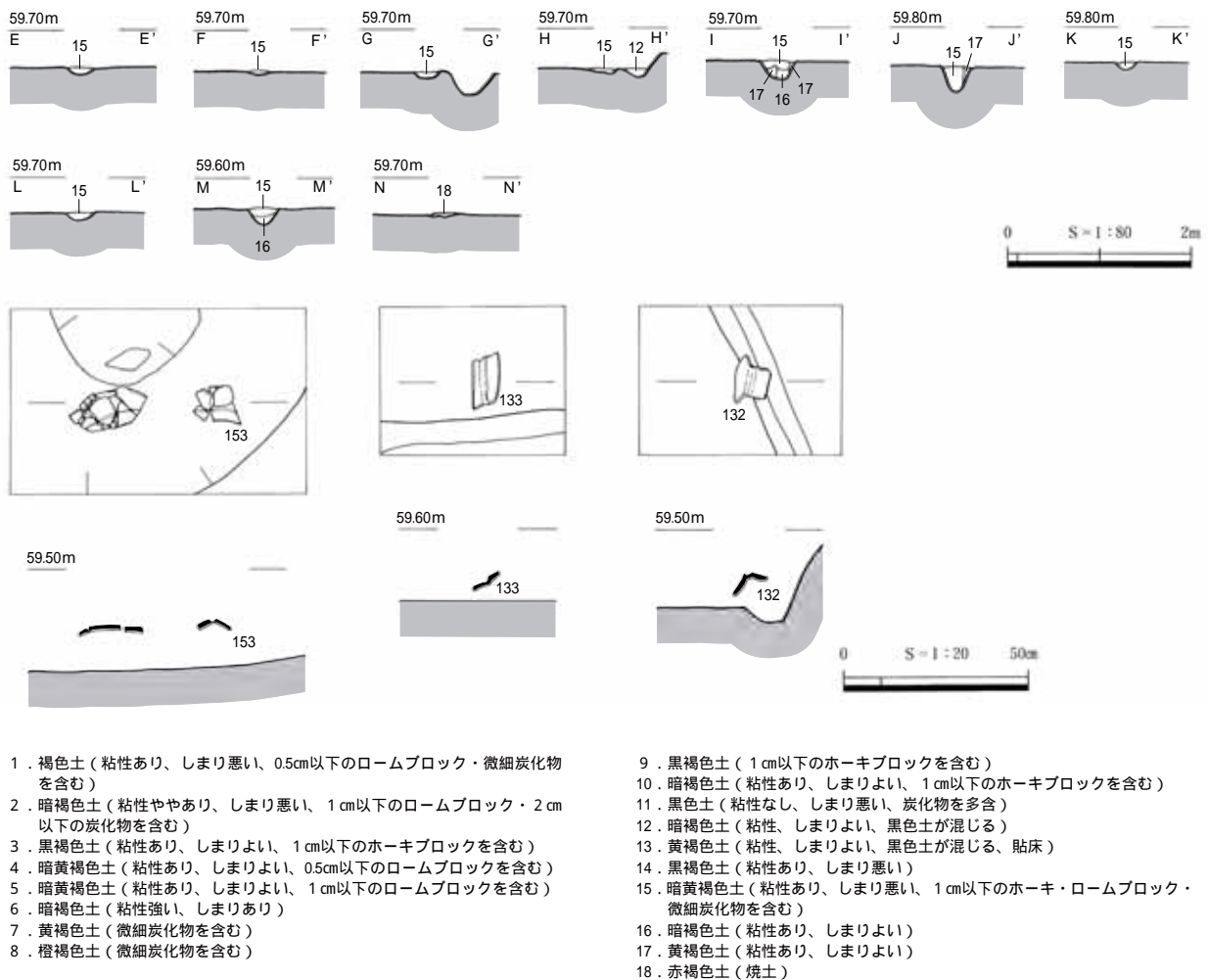
1区の北、B4、5グリッドにまたがる標高59.5～59.9m、東側斜面との傾斜変換線のやや西側に位置する。規模は南北9.7m、東西9.2mを測る大型の竪穴住居跡である。形態は南北にやや長いものの、ほぼ円形を呈し、床面積は約60㎡を測る。表土剥ぎ実施後、表面の精査を行った段階で遺



第36図 古墳時代以降の遺構配置図



第37図 SI8



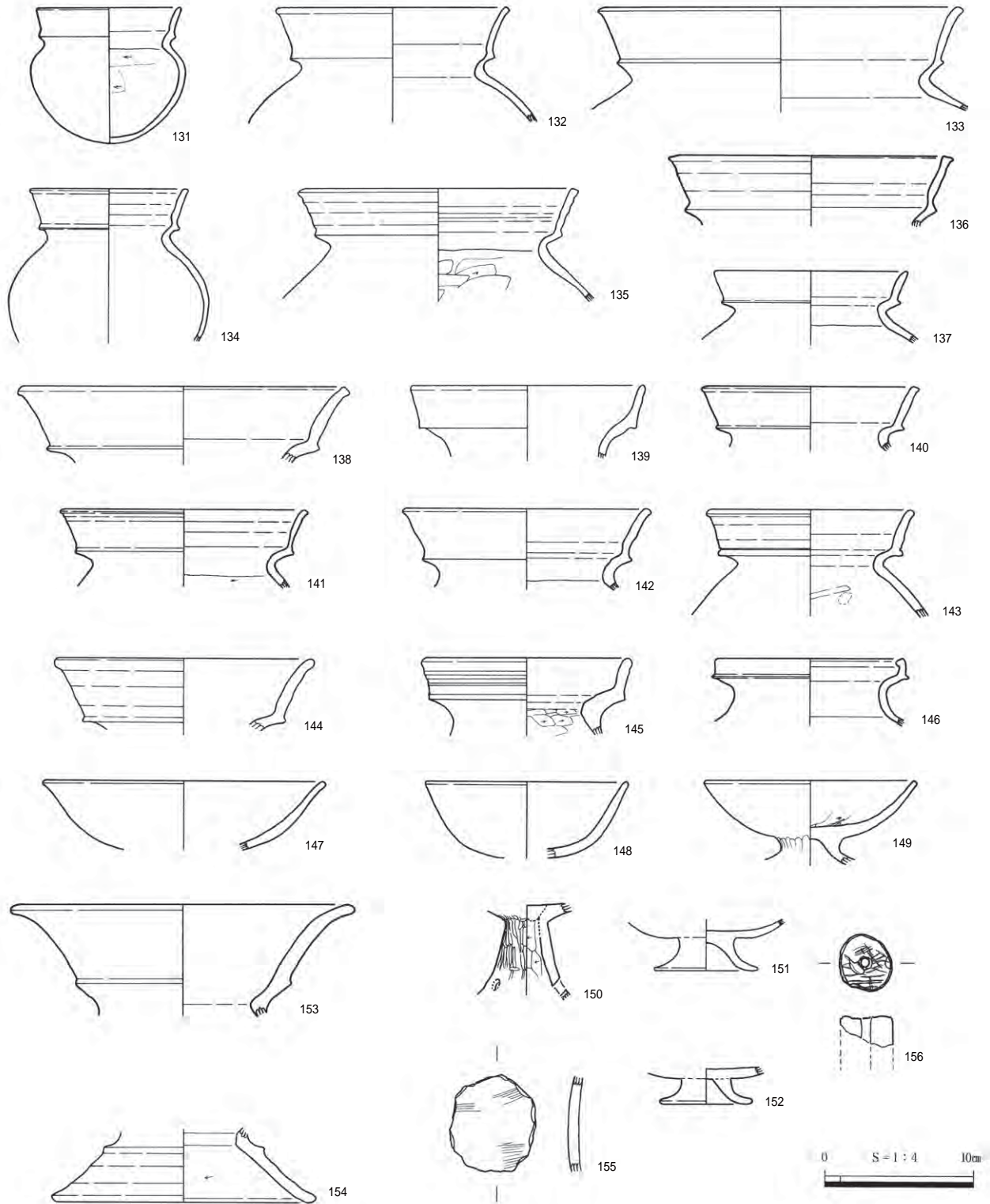
第38図 SI8

構を検出した。検出面は 層上面である。先述のとおり、当住居跡も埋土上面には耕作等による攪乱が広がっていた。住居中央部には事前調査による試掘トレンチが設けられており、試掘トレンチの東側壁面を南北土層断面（B - B'）とし、直交する東西軸にサブトレンチ（A - A'）を設け、住居跡内の土層堆積状況を確認した。ピットの埋土を含め 17 層を確認している。住居の埋没状況はまず各ピットが埋没し、その後、床面を覆うように 4 ~ 8 層の埋土が堆積する。4 ~ 8 層は、堆積としては薄い。上層にあたる 3 層は埋土の中では相対的に下層に位置するものの、黒褐色を呈し、厚い部分で約 30cm を測る。3 層中からは当住居に該当する時期の遺物のほか、須恵器等の遺物が多数出土した。遺物の多くは当該住居の時期のものか時期的にさらに下るものを含んでおり、3 層は長期間土壌化したものと考えられる。

また 3 層掘り下げ中に、住居北西部からピット状の掘り込みを 9 ヶ所確認し、これらを掘立柱建物跡として調査を行った（SB10）。住居埋土掘削中に検出したため、SB10 の遺構検出は十分に行えていない。柱穴には黒褐色系の埋土が認められることから、SB10 は SB1 の 3 層上面または 2 層を掘り込んで構築されたものと考えられる。

壁高は東側で約 20cm、西側で約 70cm を測り、東側における削平が著しい状況がうかがえる。床面の縁辺には幅 10 ~ 30cm、深さ 5 cm の周溝が巡る。床面の標高は約 59.30 m を測り、床面は 層を掘り込んで作られる。貼床は住居の中央付近から北側を中心に南北 7 m、東西 5 m の範囲に認められた。床面から 6 本の支柱穴（P 1 ~ 6）、中央ピットと比定される P 7 や小ピット（P 8 ~ 17）を検出した。

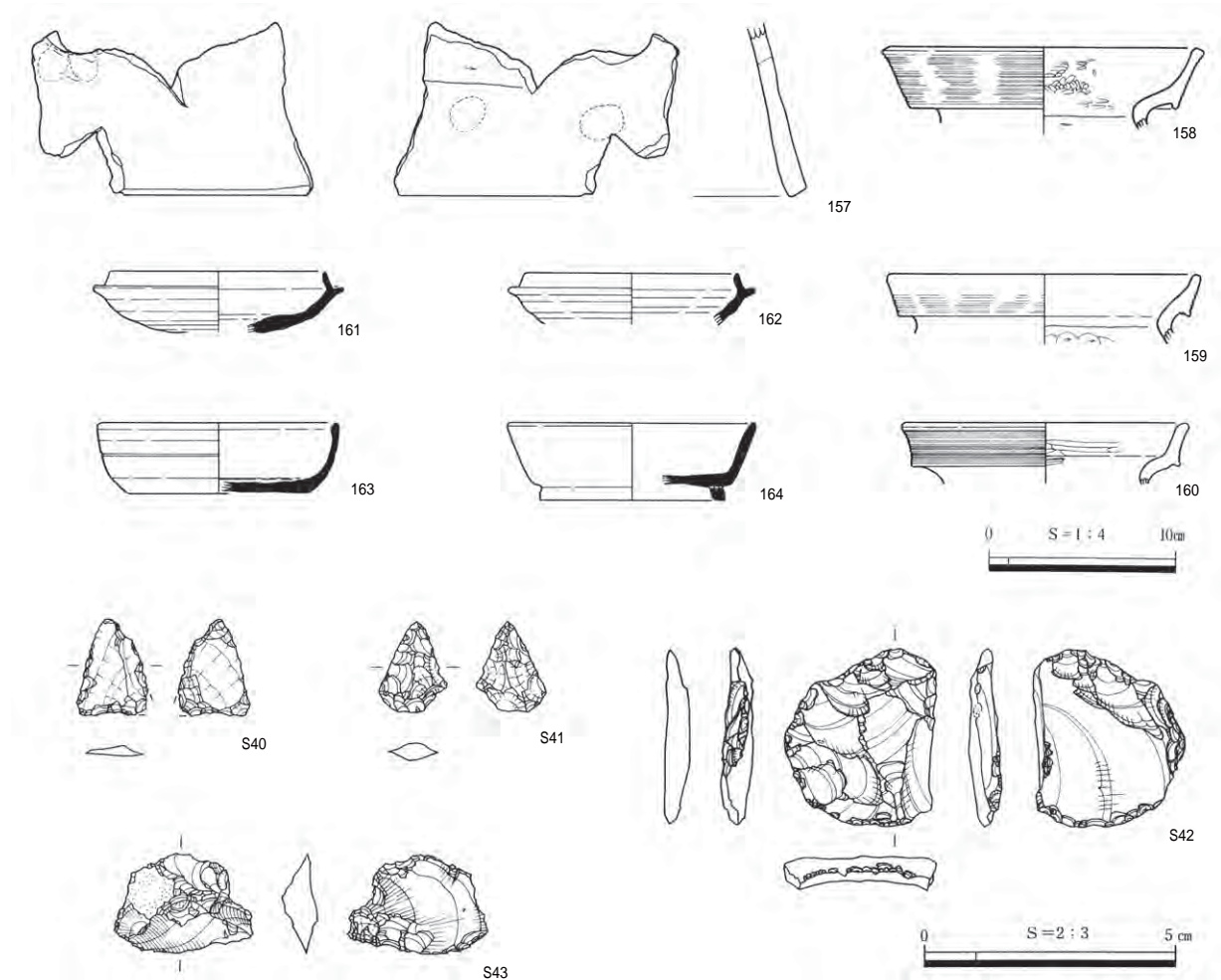
第3章 調査の成果



第39図 SI8出土遺物

主柱穴の規模は P 1 (60 × 45 - 49) cm、P 2 (80 × 70 - 74) cm、P 3 (85 × 70 - 40) cm、P 4 (67 × 55 - 37) cm、P 5 (65 × 52 - 43) cm、P 6 (80 × 65 - 51) cmである。他の住居跡と比較すると柱穴は浅い。これらの柱穴内に柱痕は確認できなかった。また P 7は(110 × 100 - 70)cmを測る。周囲が浅く、中央部の掘りこみを深くした形状を呈している。

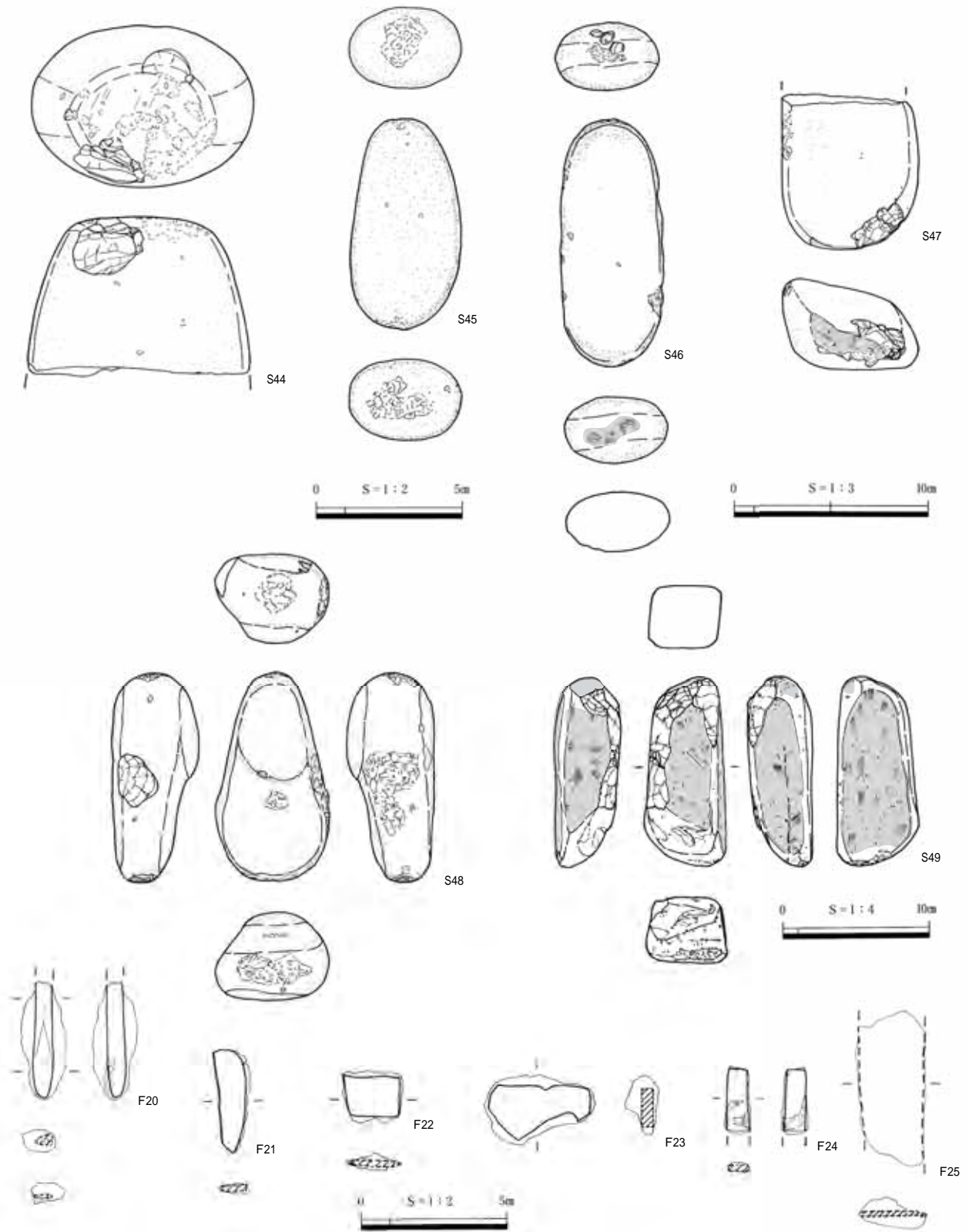
小ピットの規模は径約 30cm、深さは 5 ~ 24cmである。いくつかの小ピットは主柱穴の周辺に分布することから、側柱として機能したものと考えられる。焼土面は住居中央のやや南西に 30 × 25cmの



第40図 SI8出土遺物

規模で1ヶ所確認した。このほか住居北西部、P 1の西側で床面直上から北西-南東を軸とした40×10cmの炭化材を検出した。炭化材の繊維方向は住居の外側から中央へ伸びている。遺存状態は良くない。

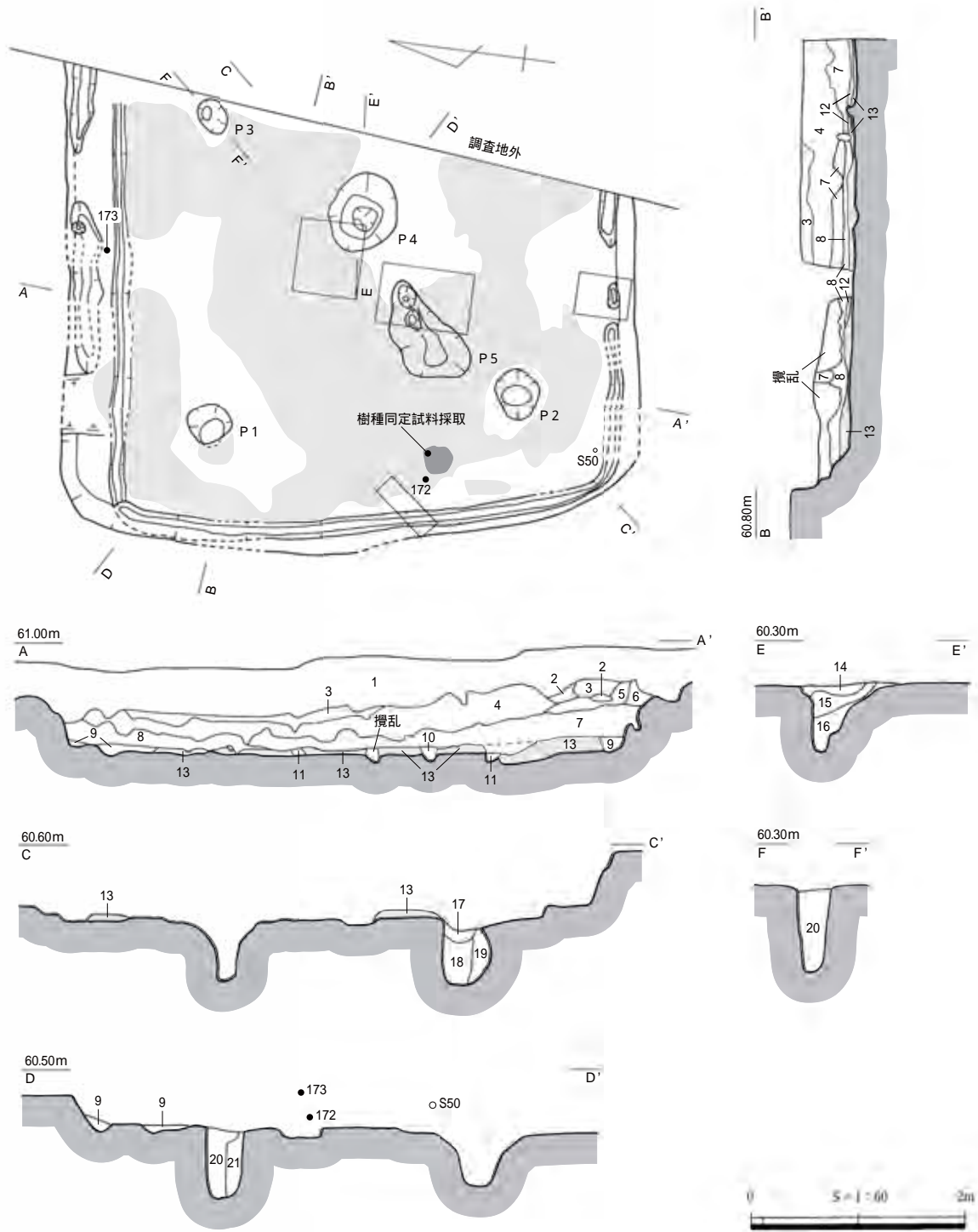
埋土中から多数の遺物が出土した。遺物として、甕(131～145)壺(146)高坏(150)低脚坏(148、149、151、152)器台(153、154)円盤形土製品(155)土錘(156)甑形土器(157)坏身(161～164)石鏃(S39、40)楔形石器(S41)二次加工痕のある剥片(S42)石斧(S43)敲石(S44～47)砥石(S48)ヘラ状鉄製品(F20)板状鉄製品(F21～25)等がある。床面直上から出土したのは144、146、150、153、156、S44、S46、S47、F20である。須恵器の坏身161～164は主に3層中、弥生土器の甕の口縁部158～160は8層中から出土しており、これらの遺物は住居内埋土中に紛れ込んだものと考えられる。本住居跡の時期は、床面直上から出土した甕等の口縁部の形態から、古墳時代前期前葉(天神川期)と考えられる。(大川)



第41図 SI8出土遺物

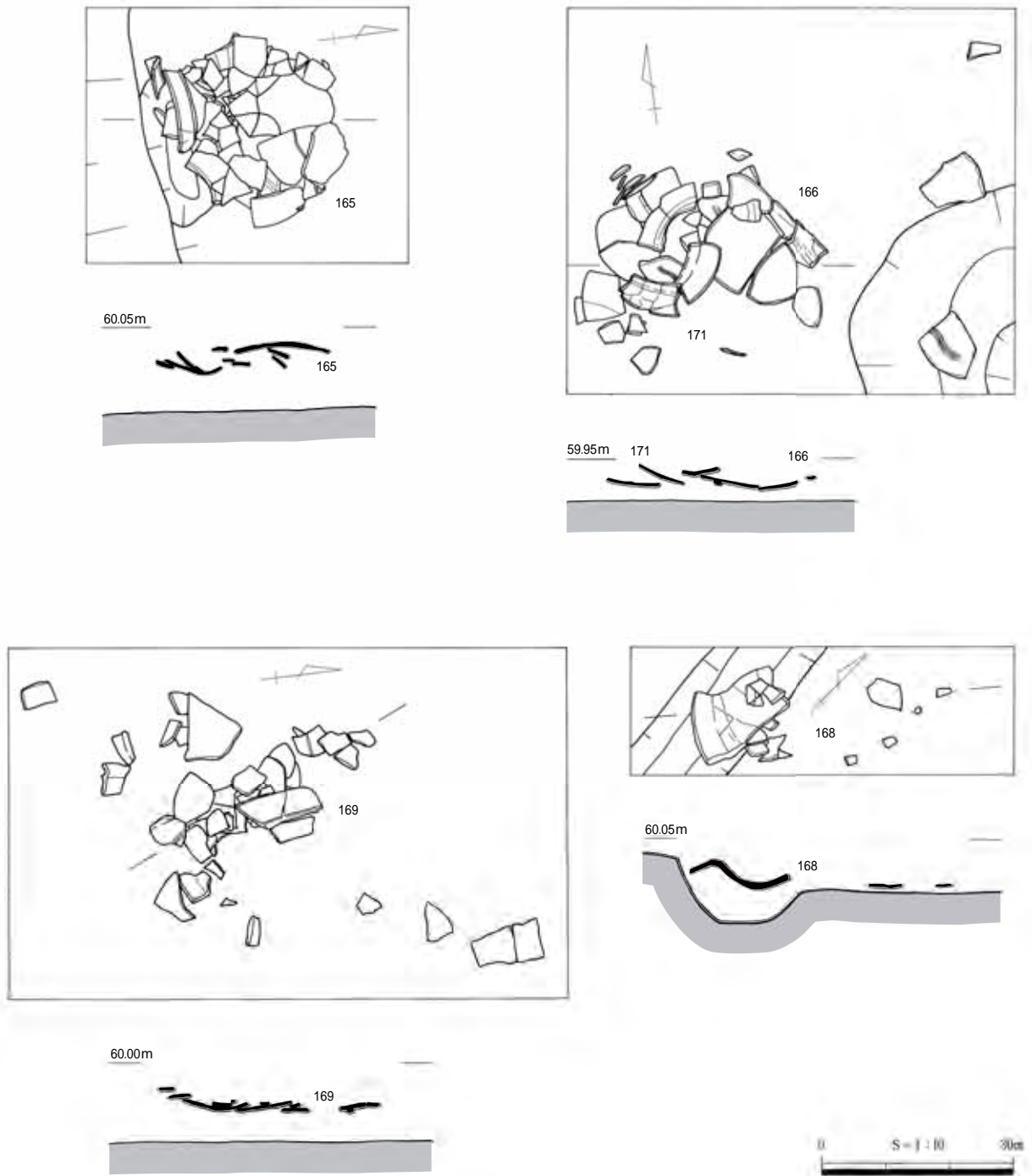
SI9 (第42 ~ 44図, PL.14, 15, 35, 36, 42, 47)

2区北東隅、標高約60mに位置する。遺構の東側の一部は町道下に伸びている。平面形は、隅丸方形で、東西の規模は不明であるが、南北は5.5mを測る。西側の埋土上部は後世の梨耕作による攪乱で破壊されていたが、それ以外の遺存状況は良好であった。側壁の高さはもっとも残りのよい南東隅で約43cmを測る。



- 1. 暗褐色土（粘性ややあり、しまり悪い）
- 2. 黄褐色土（粘性あり、しまり悪い）
- 3. 暗灰褐色土（粘性ややあり、しまり悪い）
- 4. 黒褐色土（粘性あり、しまり悪い、2cm以下のロームブロックを含む）
- 5. 暗褐色土（粘性あり、しまり悪い）
- 6. 暗黄褐色土（粘性あり、しまり悪い）
- 7. 暗黄褐色土（粘性あり、しまり悪い、3cm以下のA・T・ホーキブロックを多含）
- 8. 暗黄褐色土（粘性あり、しまり悪い、3cm以下のA・T・ホーキブロックを多含）
- 9. 暗褐色土（粘性強い、しまりよい）
- 10. 暗褐色土（粘性ややあり）
- 11. 暗褐色土（粘性ややあり、微細炭化物を含む）
- 12. 暗褐色土（しまりよい、2cm以下のホーキブロックを含む）
- 13. 黄褐色土（粘性強い、しまりよい、微細炭化物を含む）
- 14. 暗褐色土（粘性ややあり、しまりよい、10cm以下のホーキブロックを含む）
- 15. 暗褐色土（粘性ややあり、しまり悪い、微細炭化物・5cm以下のホーキブロックを含む）
- 16. 暗橙褐色土（粘性あり、しまり悪い、暗褐色土をまだらに含む）
- 17. 暗黄褐色土（粘性あり、しまり悪い、2cm以下の炭化物を含む）
- 18. 暗黄褐色土（粘性あり、2cm以下の黄褐色土ブロックを含む）
- 19. 黄褐色土（粘性あり、しまりよい）
- 20. 暗褐色土（粘性あり、しまりよい、微細炭化物を含む）
- 21. 暗黄褐色土（粘性強い、しまり強い、黄褐色土をまだらに含む）

第42図 SI9

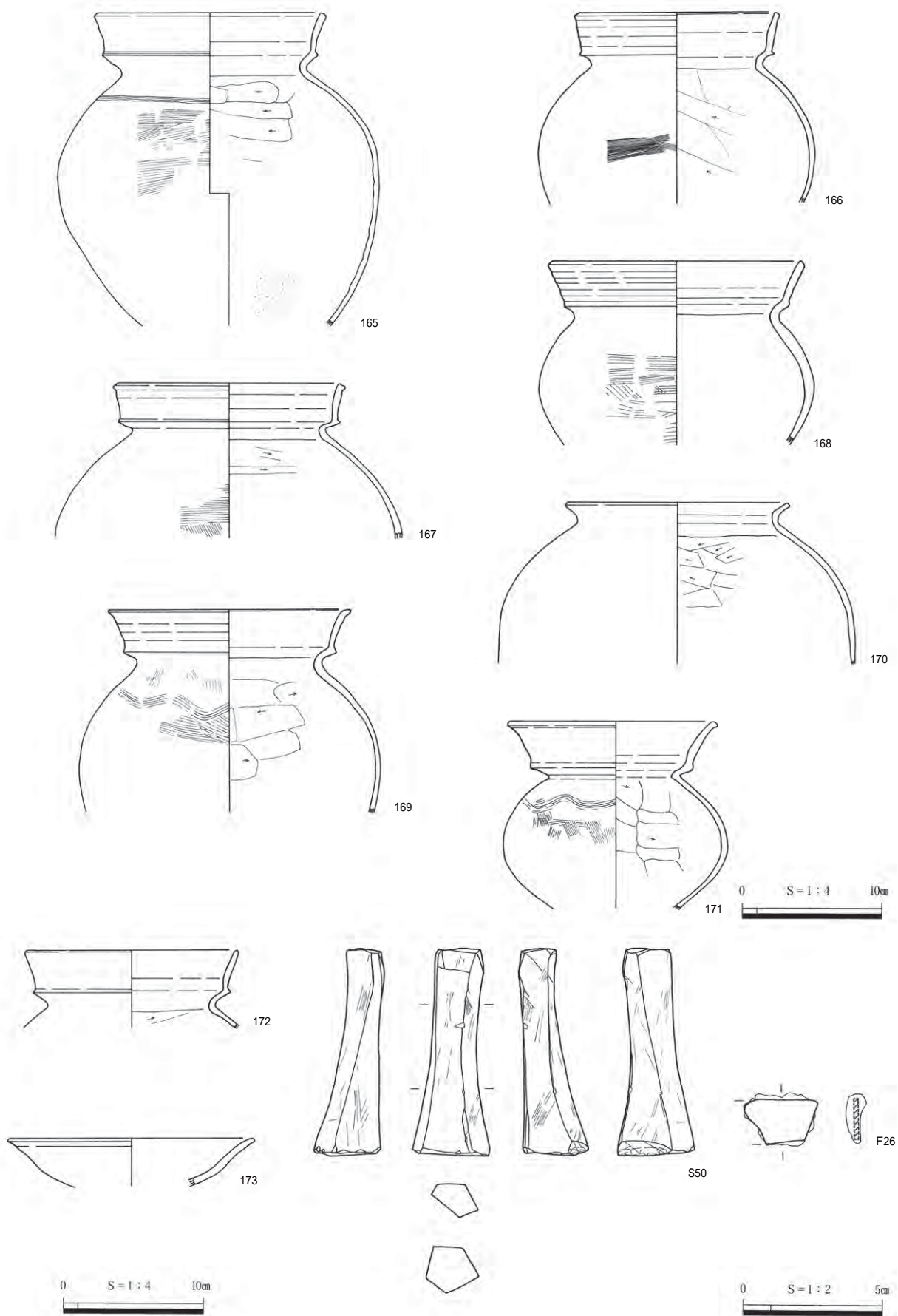


第43図 SI9

ピットは5基検出した。そのうち支柱穴と考えられるのはP 1～3で、P 4は中央ピットである。ピットの配置から、4本柱の住居であったと考えられる。床面のほぼ全面に貼床を施していたが、ピット5はこの貼床を除去した後に検出した。床面に焼土の分布は認められなかった。

周溝は南西隅で一部とぎれながら、検出した範囲を全周する。なお、住居北壁側には、幅約25cm、高さ約10cmのテラス状の高まりがあり、ここにも周溝が認められ、北壁側のみ2条の周溝が巡っていた。埋土は、このテラス部分も含めてレンズ状に堆積しており、北側の2条の周溝部分上部の埋土に切り合い関係も認められないことから、住居を構築した後、北側部分を拡張し、その後廃絶したと考えられる。

出土遺物であるが、土器は床面直上から土師器の甕(165, 166, 168, 169, 170, 171)が出土した。



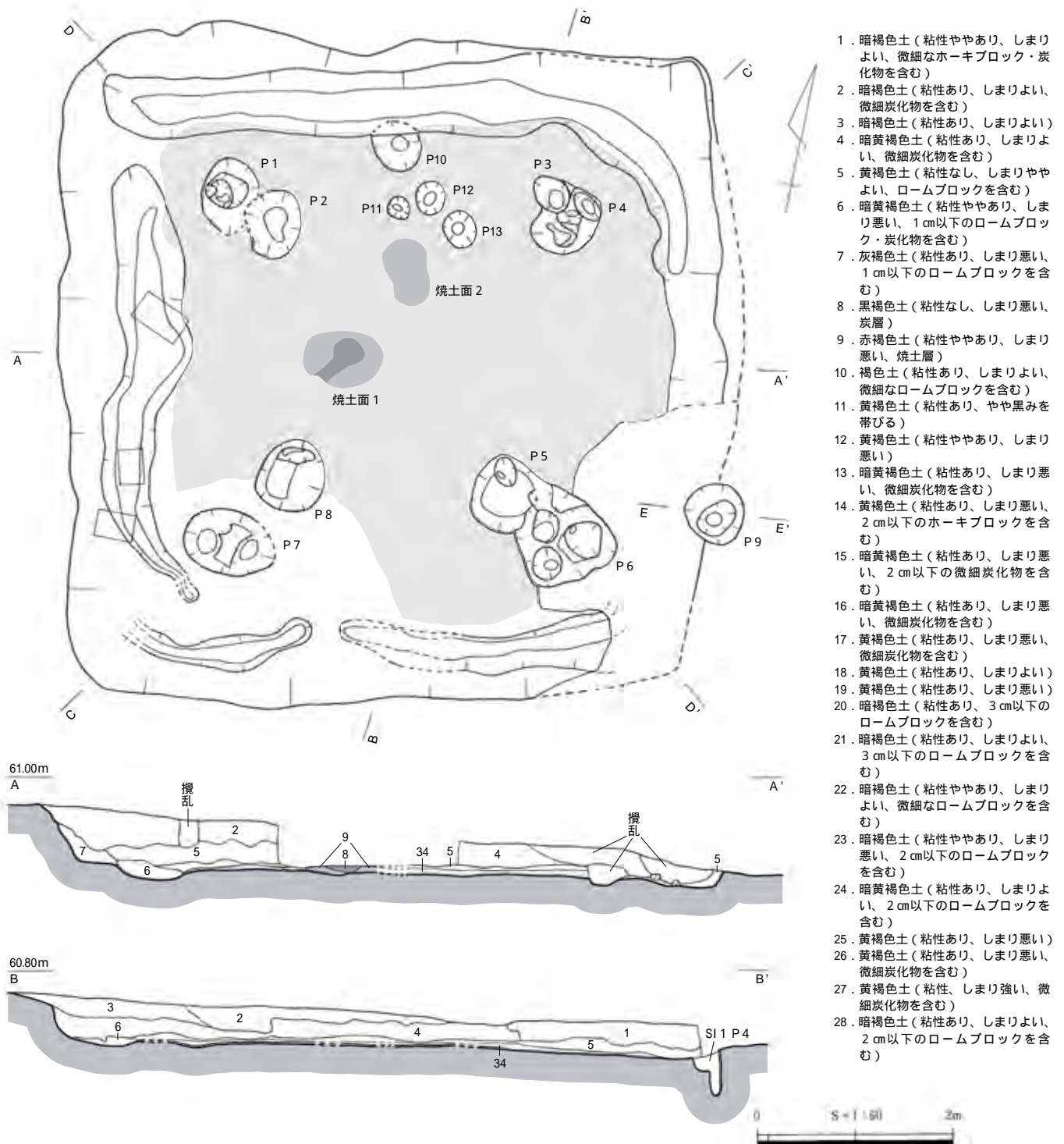
第44図 S19出土遺物

第3章 調査の成果

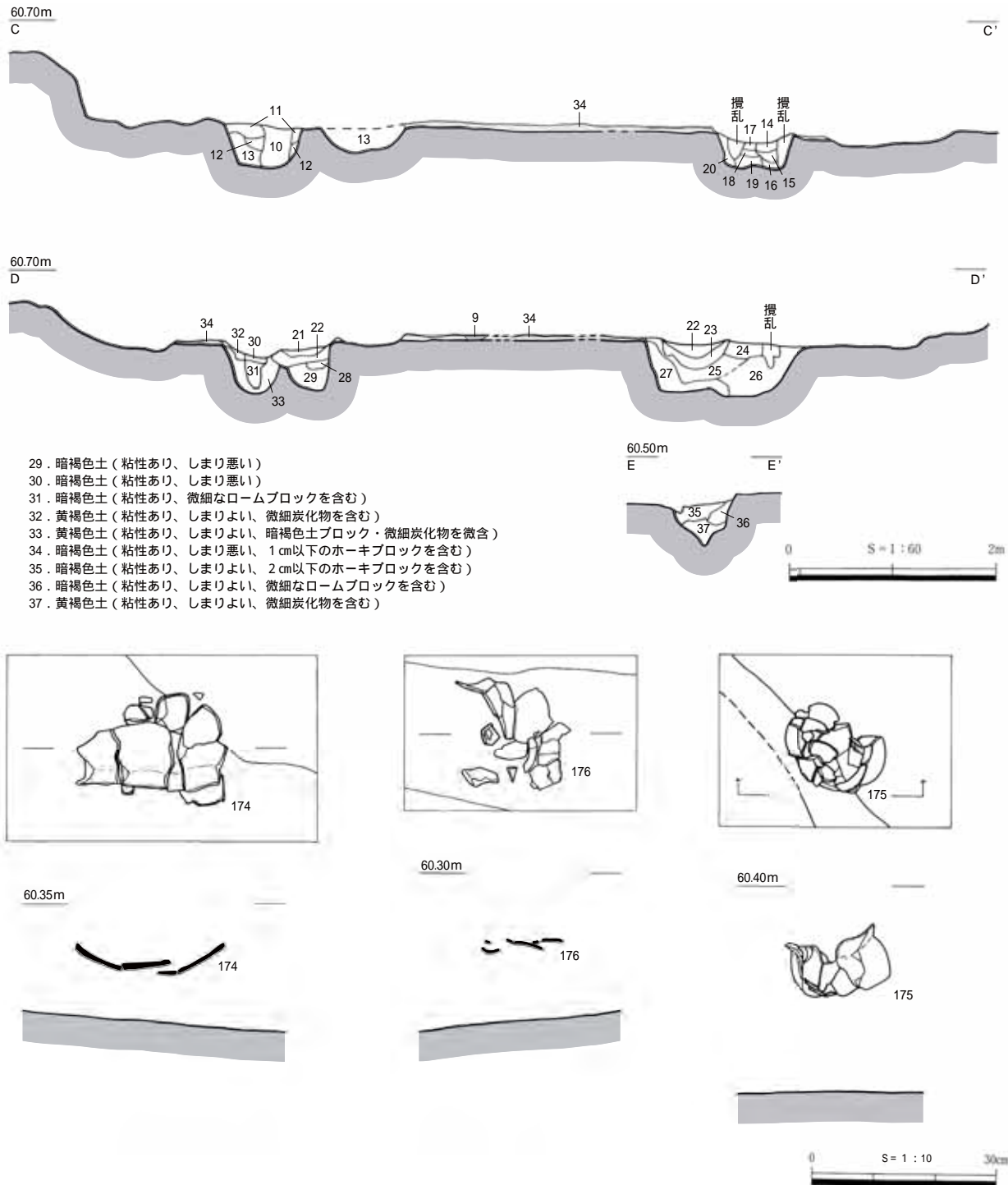
石器は床面付近から砥石 (S50) が、鉄器は黒褐色土 (4層) 中から板状鉄製品 F26 が出土した。
 本遺構の時期であるが、出土遺物から天神川 期に比定され、古墳時代前期前葉頃と考えられる。
 (瀨本)

SI10 (第45 ~ 48図, PL.16 - 1, 37, 38, 40, 41)

1区中央東側、D5杭の周辺、標高約 59.9 ~ 60.4 m、東側斜面との傾斜変換の西側に位置する。
 南北 6.8 m、東西 7 mの規模をもつ方形の竪穴住居跡である。床面の高さは標高約 60.0 ~ 60.1 m、床



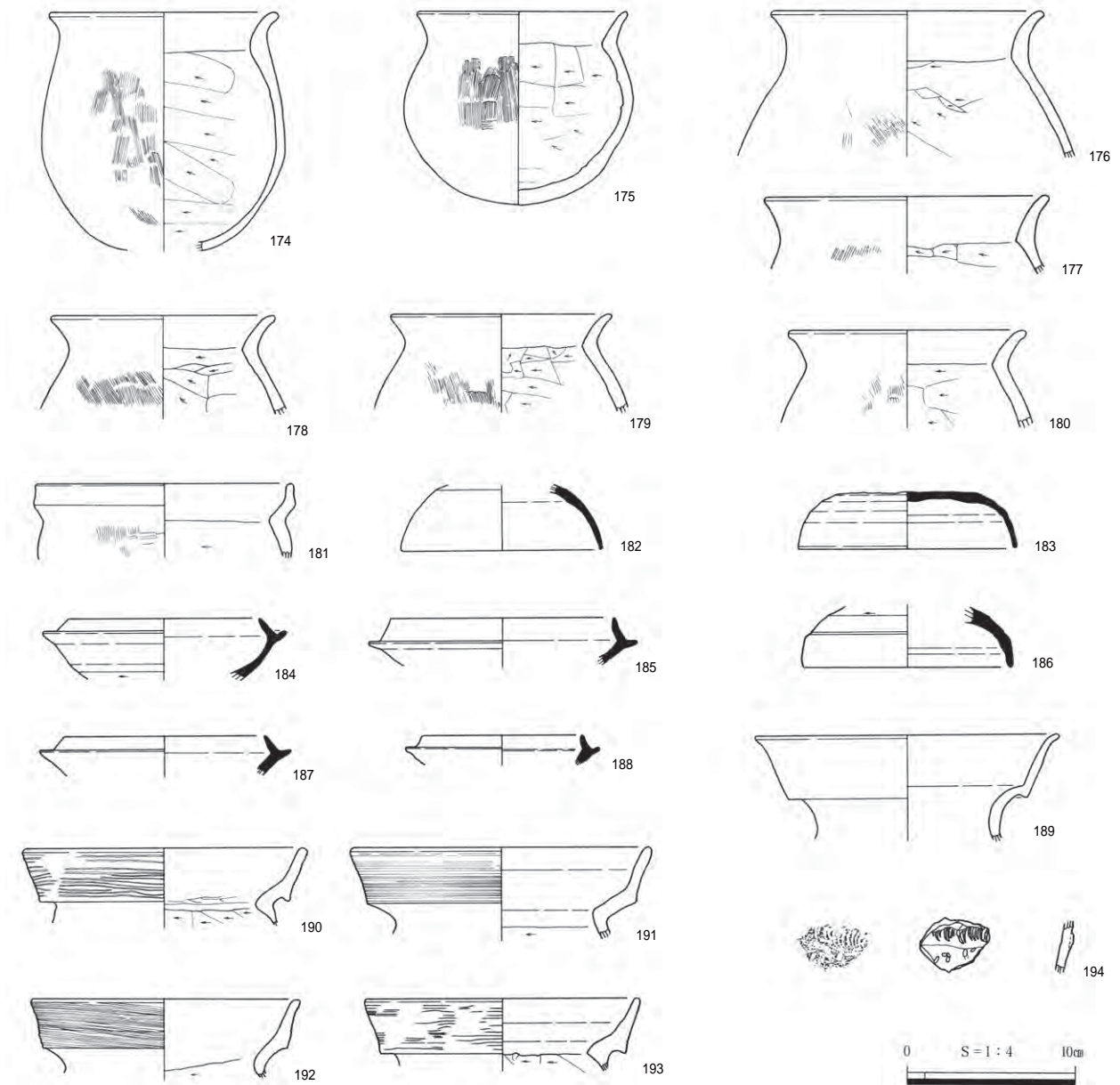
第45図 SI10



第46図 S110

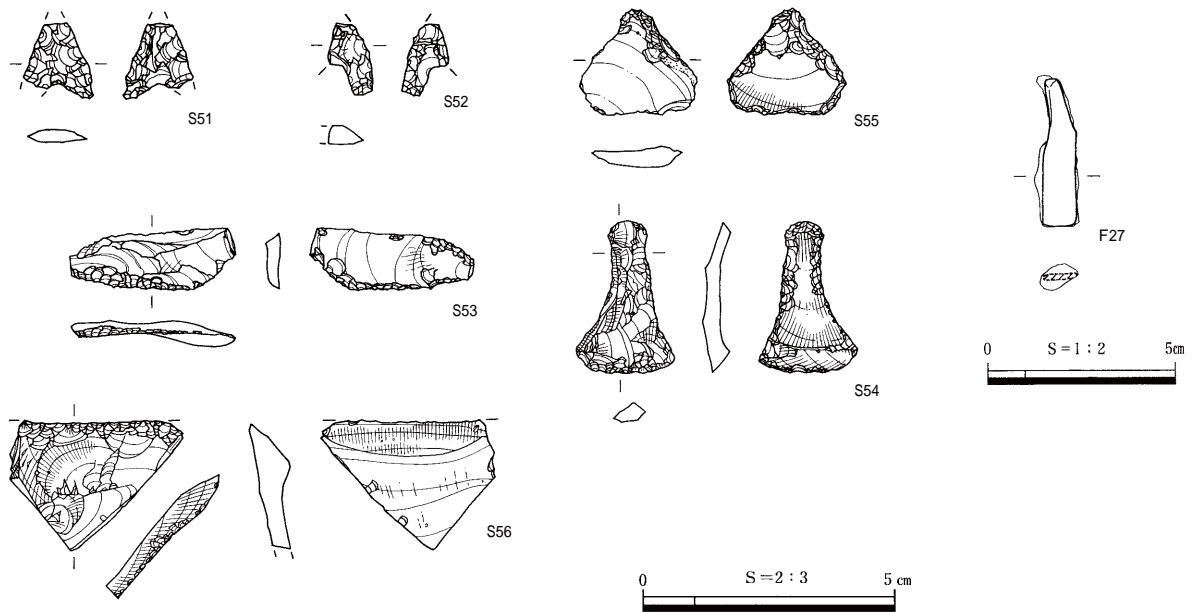
面積は約 24m²を測る。北側は S11 の南半部を切っている。表土剥ぎ実施後、表面を精査した段階で検出した。検出面は 層上面である。他の竪穴住居跡と同様、埋土は耕作による攪乱が著しく、特に住居東側の埋土および掘り方、南東隅の掘り方、貼床は大きく削平されていた。住居中央には南北方向を軸に試掘トレンチが設けられていた。この試掘トレンチの東側壁面を南北方向の土層断面 (B - B ') とし、東西方向にサブトレンチを設け、東西方向の土層断面 (A - A ') を確認した。埋土の堆積は全体的に薄い。

床面には南北 5 m、東西 5 m の範囲で貼床 (9 層) を確認した。南東隅付近は埋土上部から掘り込



第47図 SI10出土遺物

まれた攪乱が貼床層にまで達している。残存している貼床の厚さは約5cmを測る。貼床は他の住居跡で認められたものに比べ、しまりが悪い。主柱穴はP1～P8と考えられる。住居の四隅に柱を配置した4本柱の竪穴住居が想定される。柱穴の配置、柱穴底面の掘り込みの様相から少なくとも2回以上、柱位置の建て替えが行われている。それぞれの柱穴における柱の建て替えの回数は異なり、P3、4では少なくとも3回、P5、6で4回、P7で2回柱の建て替え状況を推定することができるが、各柱穴の堆積状況を確認する際に柱の建て替え状況を示す痕跡を明瞭に確認することができなかった。柱穴の規模は、P1(80×55-51)cm、P2(70×50-56)cm、P3(40×30-35)cm、P4(70×55-42)cm、P5(62×62-68)cm、P6(100×98-40～50)cm、P7(96×68-40)cm、P8(80×66-23)cmである。東辺の中央で確認したP9は攪乱土を除去した際に検出した。埋土が他のピットと異なることから、住居に伴わない可能性が高い。またP10～13は貼床(34層)を掘り込んで構築されているものの、主柱穴に比べると径が小さく浅い。周溝は幅20～70cm、深さ約5cmを測り、全周せず、北西、南西隅、南辺中央で一部途切れる。



第48図 SI10出土遺物

焼土面は住居中央やや北西よりの位置で2ヶ所確認した。焼土面1は80×60cm、深さ約10cmを測る。中央には炭層があり50×30cmの範囲に深さ5cmの皿状に堆積していた。その周囲を赤褐色の焼土層が取り囲んでいる。焼土面2は、赤褐色土の単層を呈しており、焼土面1とは様相が異なる。

出土遺物の多くは埋土中から出土しており、床面直上から出土したものは甕の口縁部(179)のみである。形がある程度復元できた甕(174、175、176)は床面または周溝底面からやや高い位置から出土した。182～188は須恵器の坏身である。これらの土器の様相から、当住居跡は八橋編年の期以降に埋没したものと考えられる。

また189～193は埋土中から出土した甕である。口縁部の形状から、弥生時代後期後葉のものと考えられ、194は前期末～中期初頭の縄文土器片であり、これらは周辺から流れ込んだものと思われる。

(大川)

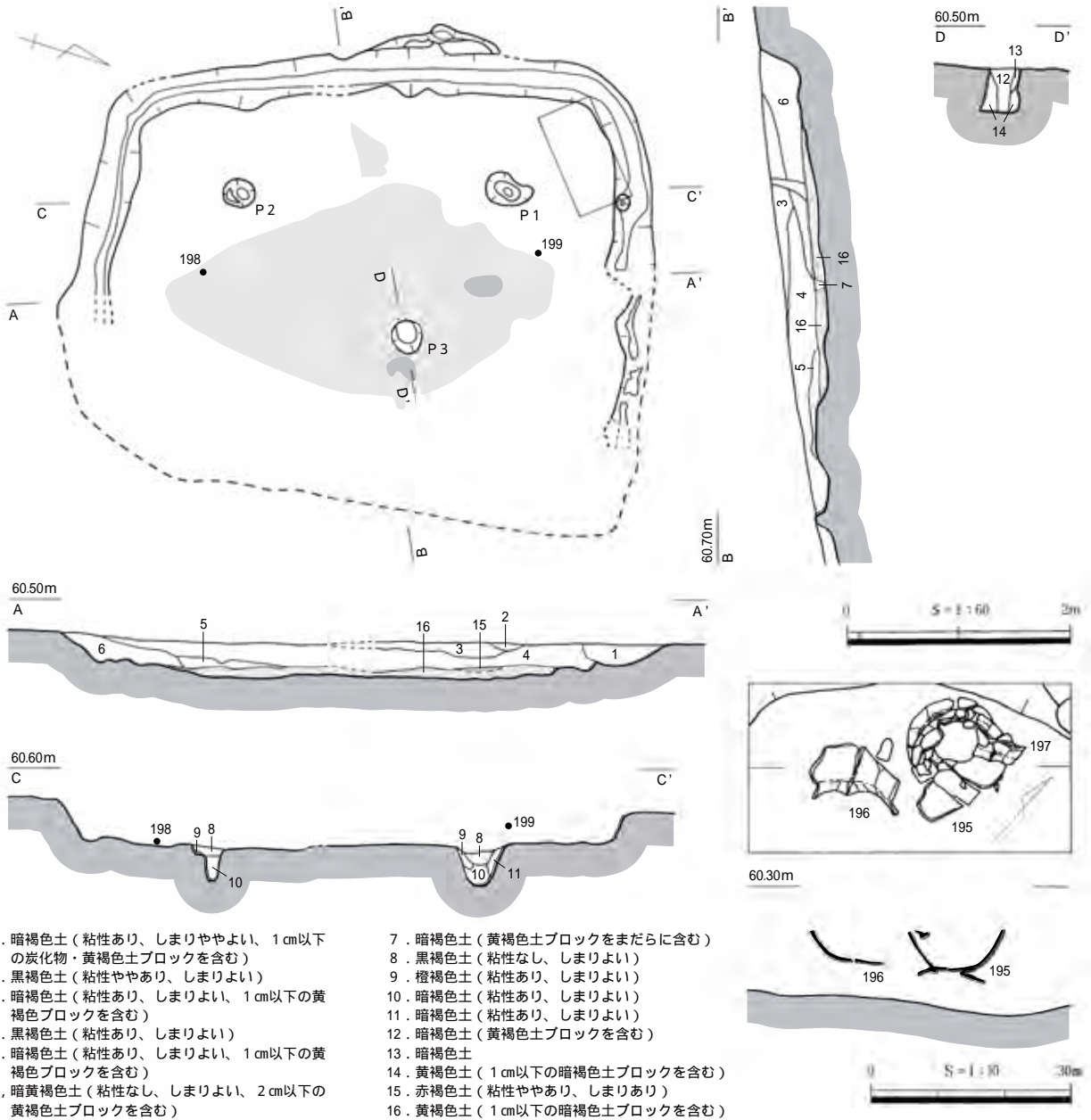
SI11 (第49, 50図, PL.16 - 2, 42)

1区中央の東側、D4、E4グリッドにまたがった標高約59.7～60.3m、平坦地と斜面地の傾斜変換付近に位置する。表土剥ぎの後、層上面の精査中に暗褐色土の広がり認め、東西、南北それぞれを軸としてサブトレンチを設定し、掘り下げを行った。西側床面に周溝を確認し、竪穴住居跡として調査を実施した。東側は耕作による攪乱等によって大きく削平されており、埋土および周溝の状況を確認することはできなかった。平面形は南北に長い長方形を呈し、長軸5.3m、短軸は推定で4.2mを測る。壁高は南北および東側で約20cm、西側で約35cmを測る。全体の堆積は上部を削平されているせいか薄い。周溝は幅30～20cm、深さ5cmの規模を測り、主に住居西側において確認した。床面の標高は約60m、床面積は約11㎡以上を測る。主柱穴はP1～3の3本と考えられる。柱穴の規模はP1(40×30-35)cm、P2(30×25-30)cm、P3(30×30-40)cmを測る。柱痕跡はP3にのみ認められた。貼床は住居中央部で長軸3.5m、短軸2.0m、その西側で長軸0.5m、短軸0.3mと2ヶ所で検出した。焼土面は貼床内に2ヶ所認められ、いずれも浅い。SI10、および後述する

第3章 調査の成果

SI12 と比較すると当住居跡は平面、柱穴の規模が小さいことが特徴である。

遺物は埋土中から出土している。195 ~ 197 は北西隅の6層中から出土した。195 は上下逆さの状態出土し、底部付近が欠損している。196、197 はそれぞれ195 の上部または周辺から出土した甕



第49図 SI11

の破片である。198 ~ 200 は須恵器の坏身である。当住居跡は、出土した甕や須恵器の特徴から古墳時代後期、八橋編年の 期に相当するものと考えられる。(大川)

SI12 (第51, 52図, PL.16 - 3)

2区E6 ~ E7グリッド、標高約61.3 mに位置する。グリッド杭に沿って設定したトレンチにより側壁と周溝を確認したため竪穴住居跡と判断し、調査を実施した。

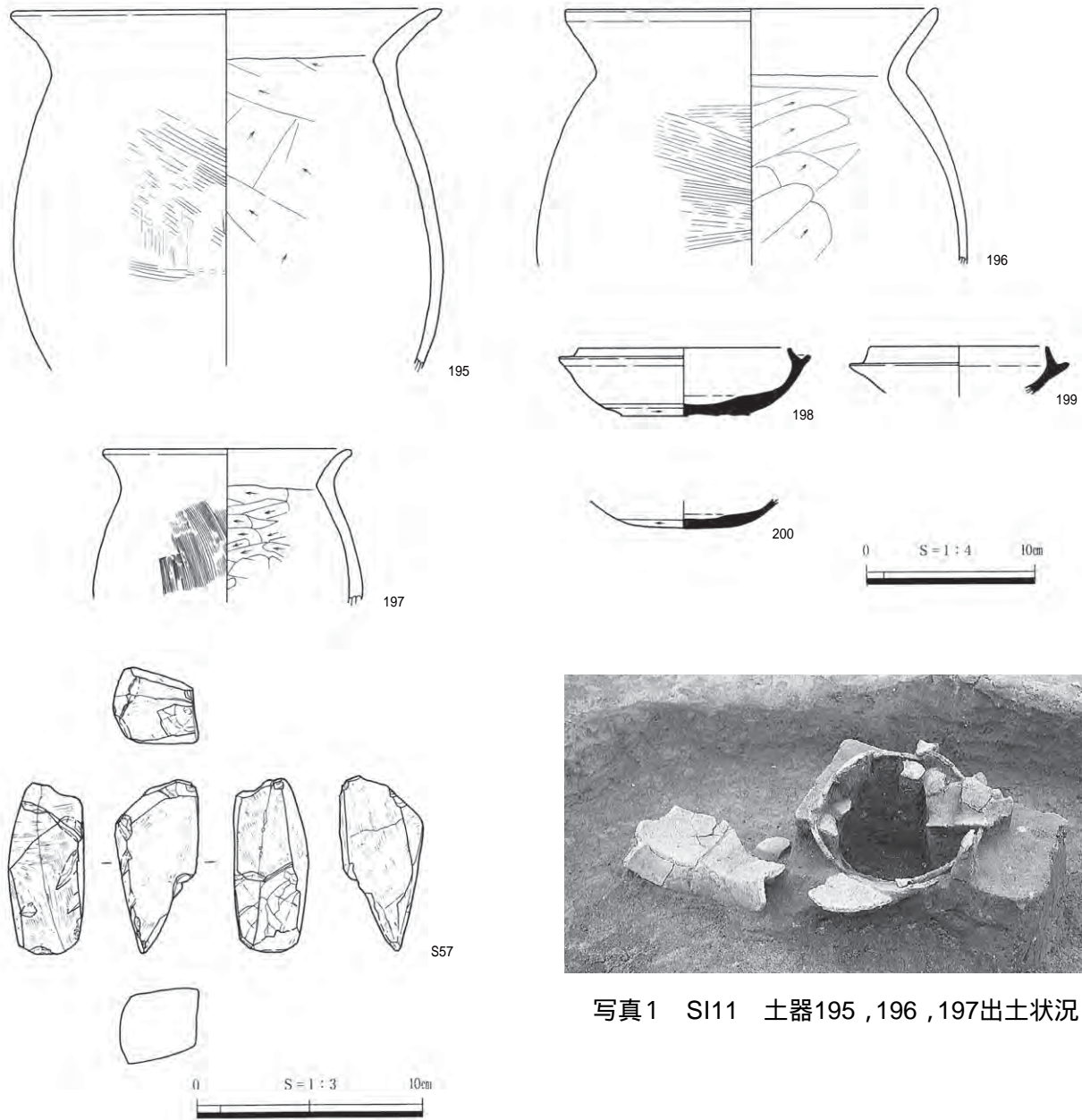
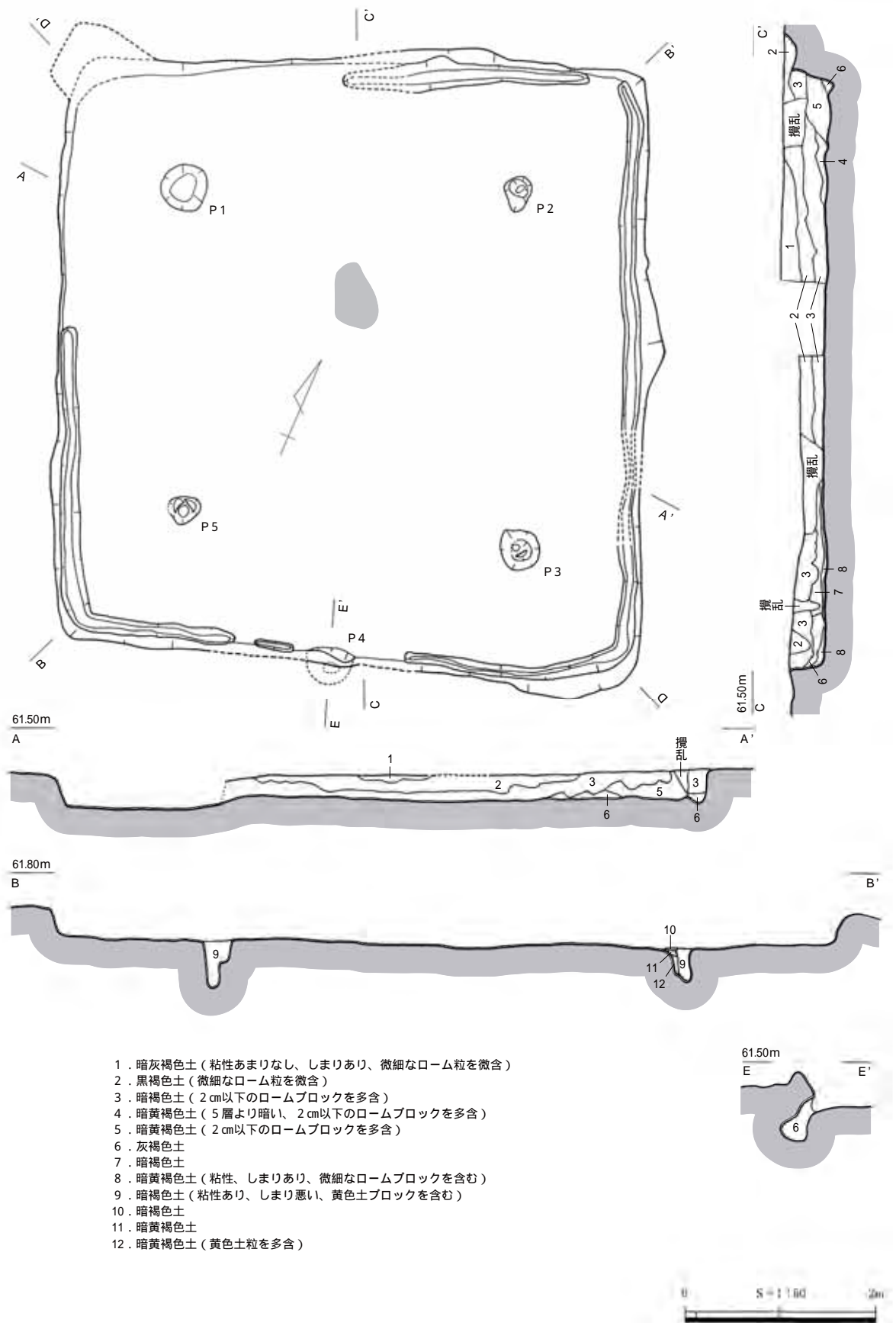


写真1 SI11 土器195, 196, 197出土状況

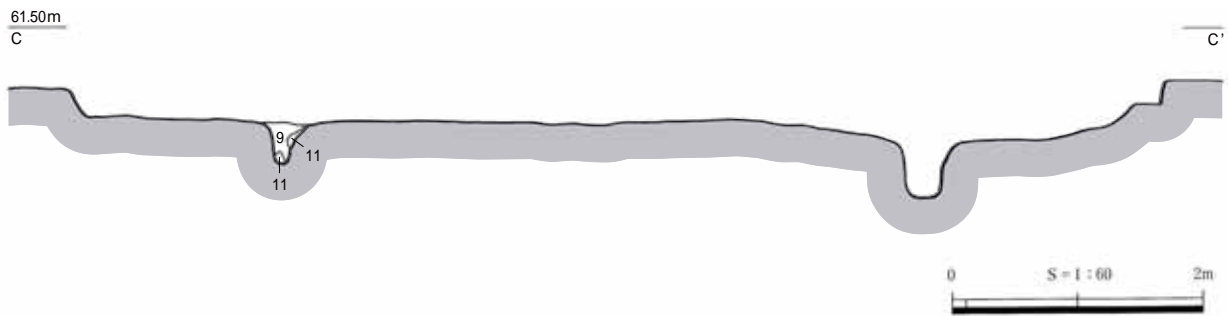
第50図 SI11出土遺物

規模は6.2 m × 6.0 mで平面形は方形を呈する。床面積は約30.6m²である。埋土は暗褐色土を主体とし、8層（ピット埋土も含めると12層）に分層できた。周溝は、北西隅を除き、幅10～30cm、深さ6～8cmの規模で巡る。貼床は認められなかった。焼土面は、床面中央部に76cm × 45cmの範囲で1ヶ所確認した。

ピットは5基確認した。ピットの規模はそれぞれ次の通りである。P 1（50 × 50 - 45）cm、P 2（36 × 28 - 38）cm、P 3（47 × 40 - 55）cm、P 4（50 × 15 - 45）cm、P 5（32 × 29 - 47）cm。このうち主柱穴と考えられるのはP 1、2、3、5で、4本柱の住居であったと考えられる。中央にピットは認められなかった。P 4は斜坑状のいわゆる特殊ピットである。南壁の中央部に位置し、住居の外側に向かい斜め下方に掘削されている。底面の方がやや広がるフラスコ状の断面形状を呈する。埋土は単層（6層）で、遺物は出土しなかった。



第51図 S12



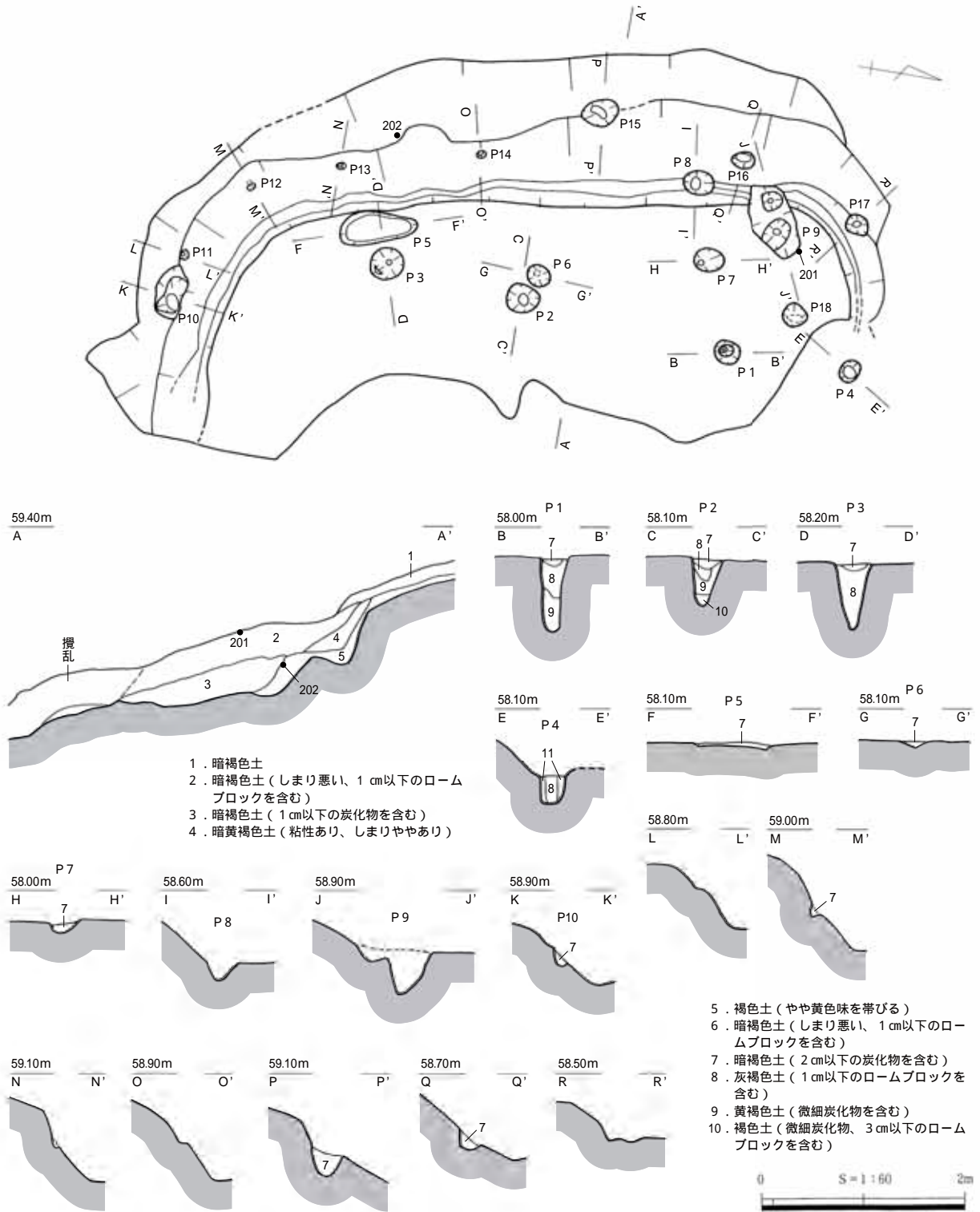
第52図 SI12

本住居跡の出土遺物であるが、胴部片が数点出土したものの、いずれも細片で図化し得なかった。なお、平成11年に赤碕町が行った試掘調査において、本住居跡の北側壁際より須恵器の長頸壺が出土している。この出土遺物が本住居の廃絶時期を示すとすれば、本住居の時期は古墳時代後期頃と考えられる。(瀧本)

段状遺構

SS1 (第53, 54図, PL.17 - 1, 40, 43)

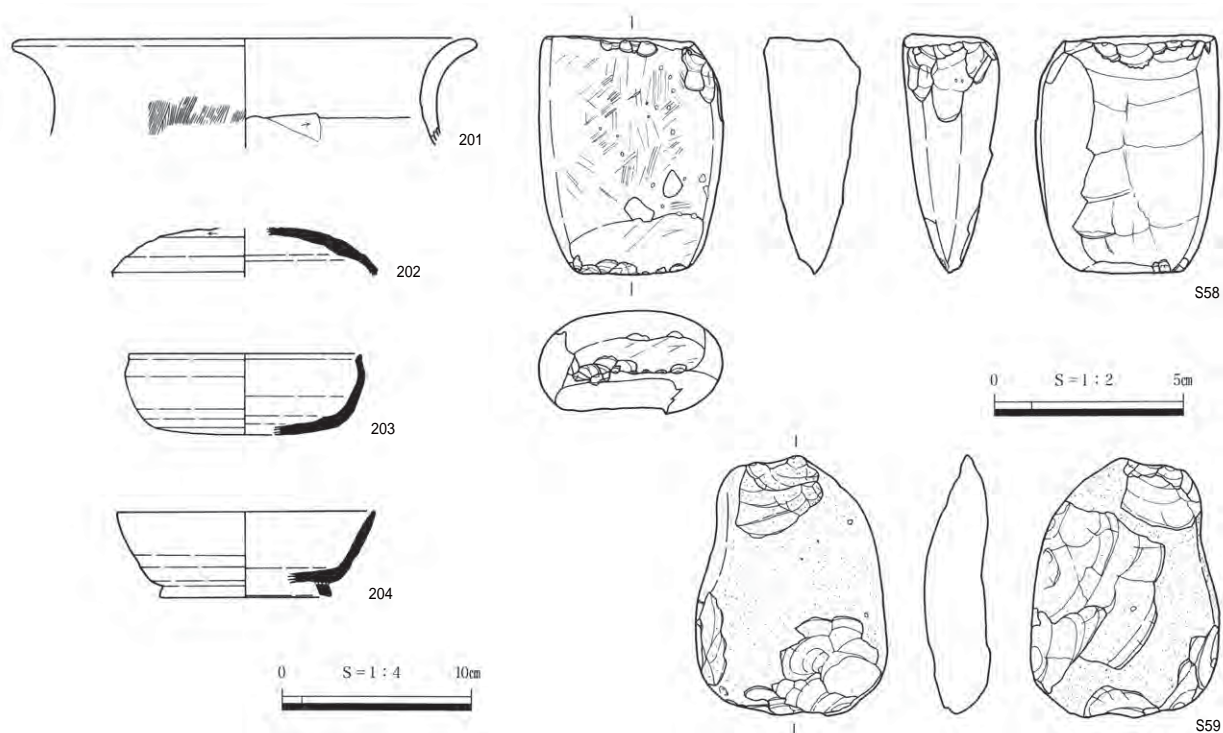
1区東側、C3グリッド、標高58.7m、斜面縁辺に位置する。周辺は客土が厚く堆積し、上部は耕作による攪乱が著しい様相が窺えた。客土除去中に多量の遺物が出土したため、東西方向にサブトレンチを設け、掘下げを進めたところ、斜面地をカットした平坦面を確認し、さらにこの平坦面と斜面部との境界付近で周溝を確認したため、段状遺構として調査を実施した。周辺を掘り下げて再度、遺構検出作業を行い、長軸約8m、短軸は残存部分で約3.8mの規模で暗褐色土の広がりを確認した。上述のように遺構埋土の残存状況は不良である。1、2層はしまりが悪いため、客土の可能性がある。3層以下はしまりが良く、本来の遺構埋土と考えられる。床面は1層である。西側の壁の高さは約1mを測る。床面に貼床は施されていない。東側は攪乱により削平されている。床面の標高は約57.6～57.8m、床面積は約10m²以上である。西側を中心として床面の縁辺には最大幅約30cm、深さは約5cmの周溝が巡り、溝内には浅いピット状の掘り込みが3ヶ所認められた。床面にはピット7基、斜面部分で大小8基のピットを検出した。支柱穴と考えられるものはP1～P4、P7、P9である。各柱穴の規模はP1(26×26-74)cm、P2(34×30-50)cm、P3(36×34-64)cm、P4(24×22-28)cm、P7(32×24-14)cm、P9(76×44-44)cmを測る。P4は上半部を大きく削平されている。各柱は不規則な配置となっている。P4では柱痕跡を認めたが、そのほかの柱穴では確認されなかった。P10～17は壁面に残る小規模なピットである。明瞭に掘り込まれているものは少ない。



第53図 SS1

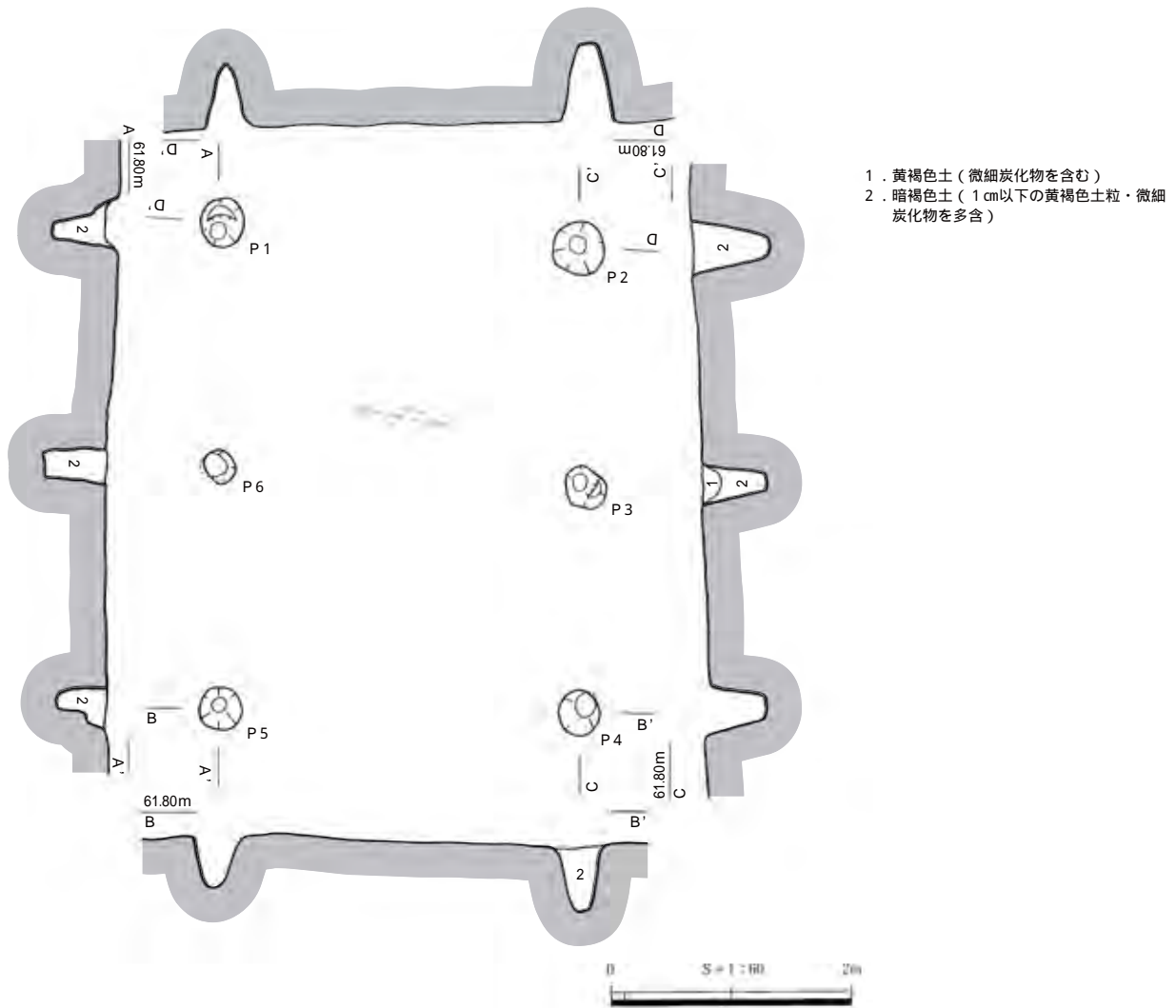
出土した遺物は少なく、遺構の上部を覆う客土や遺構埋土の上層から出土したものが多く。出土遺物として比較的残りの良い甕の口縁部（201）、肩部に緩やかな稜が残る坏蓋（202）、坏身（203）、逆台形を呈する高台坏（204）を掲げた。201、203は2層、202は5層から出土している。そのほかS57は裏面、右側面を中心に上端部から整形を行った石斧である。表面には擦痕が残り、刃部先端には微細な剥離痕が残る。S58は上下両端部を打ち欠いた石錘である。

出土した土器片には古墳時代後期～8世紀以降に下る資料が含まれている。坏蓋202や小片のため



第54図 SS1出土遺物

図化していないが、八橋編年 ~ 期の特徴を持つ須恵器片が埋土の下層から出土していることから本遺構は古墳時代後期中葉以降に埋没したものと考えられる。(大川)



第55図 SB4

掘立柱建物跡

SB4 (第55図、PL.18 - 2、表5)

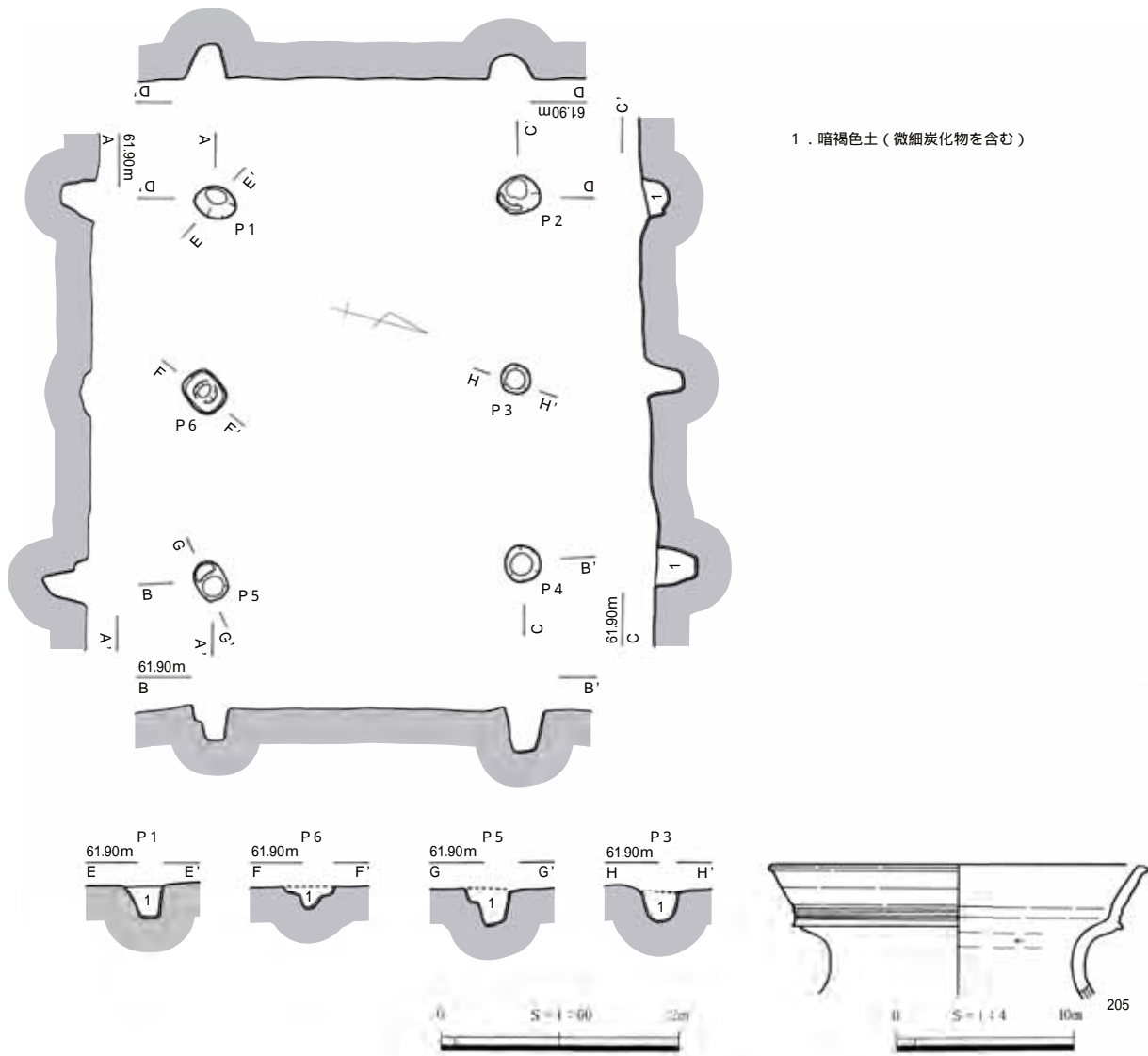
1区の南端、G 4グリッドに広がる、標高約 61.5 mの平坦地に位置する。梁行1間、桁行2間の掘立柱建物跡である。北にSI6、南西にSB2が隣接する。第層上面の精査中、P 5に並ぶP 1、6、それと並列するP 2～4を確認したことから掘立柱建物跡として調査を行った。主軸はN - 79° - E、規模は桁行約 4.0 m、梁行約 3.0 m、桁梁に囲まれた面積は 11.84m²である。各柱穴間距離はP 1 - 2間から順に 3.0 m、1.96 m、1.88 m、3.0 m、2.0 m、2.0 mである。柱穴底面の標高は約 60.8 ~ 61.2 mを測る。黒褐色系の埋土が堆積している。埋土はP 3を除き、単層で構成されており、土層における柱痕跡は認められない。P 1やP 3は二段に掘り込まれている状況から柱痕跡であった可能性が考えられる。底径から復元される柱径は約 15cmである。

ピット内の出土遺物は小片のため、図化していない。古墳時代前期前半のものとは比定される口縁部片、胴部片が認められたため、建物跡としては古墳時代前期前半以降に廃絶したものと考えられる。

(大川)

表5 SB4ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(cm)
P 1	44 × 40 - 56
P 2	48 × 44 - 64
P 3	40 × 32 - 56
P 4	40 × 36 - 56
P 5	40 × 36 - 44
P 6	36 × 32 - 40



1. 暗褐色土（微細炭化物を含む）

第56図 SB5および出土遺物

SB5（第56図，PL.18 - 3，40，表6）

1区の南端、G4、G5グリッド、標高約61.5mに位置する。梁行1間、桁行2間の掘立柱建物跡である。東にSB4が隣接し、南側は調査地境である。第層上面の精査中にP1、5、6の並びを確認し、それと並列するP2～4を確認したことから掘立柱建物跡として調査を行った。主軸はN-75°-E、規模は桁行約3.3m、梁行約2.6m、桁梁に囲まれた面積は8.23㎡である。各柱穴間距離はP1-P2間から順に2.56m、1.54m、1.52m、2.64m、1.56m、1.64mである。柱穴底面の標高は61.4～61.6mを測る。埋土は暗褐色、黒褐色を呈し、いずれも微細炭化物を含んでいた。埋土における柱痕跡は確認されなかった。P2、P5、P6は二段階に掘り込まれている状況から柱痕跡であった可能性が考えられる。底径から復元される柱径は約15cmである。

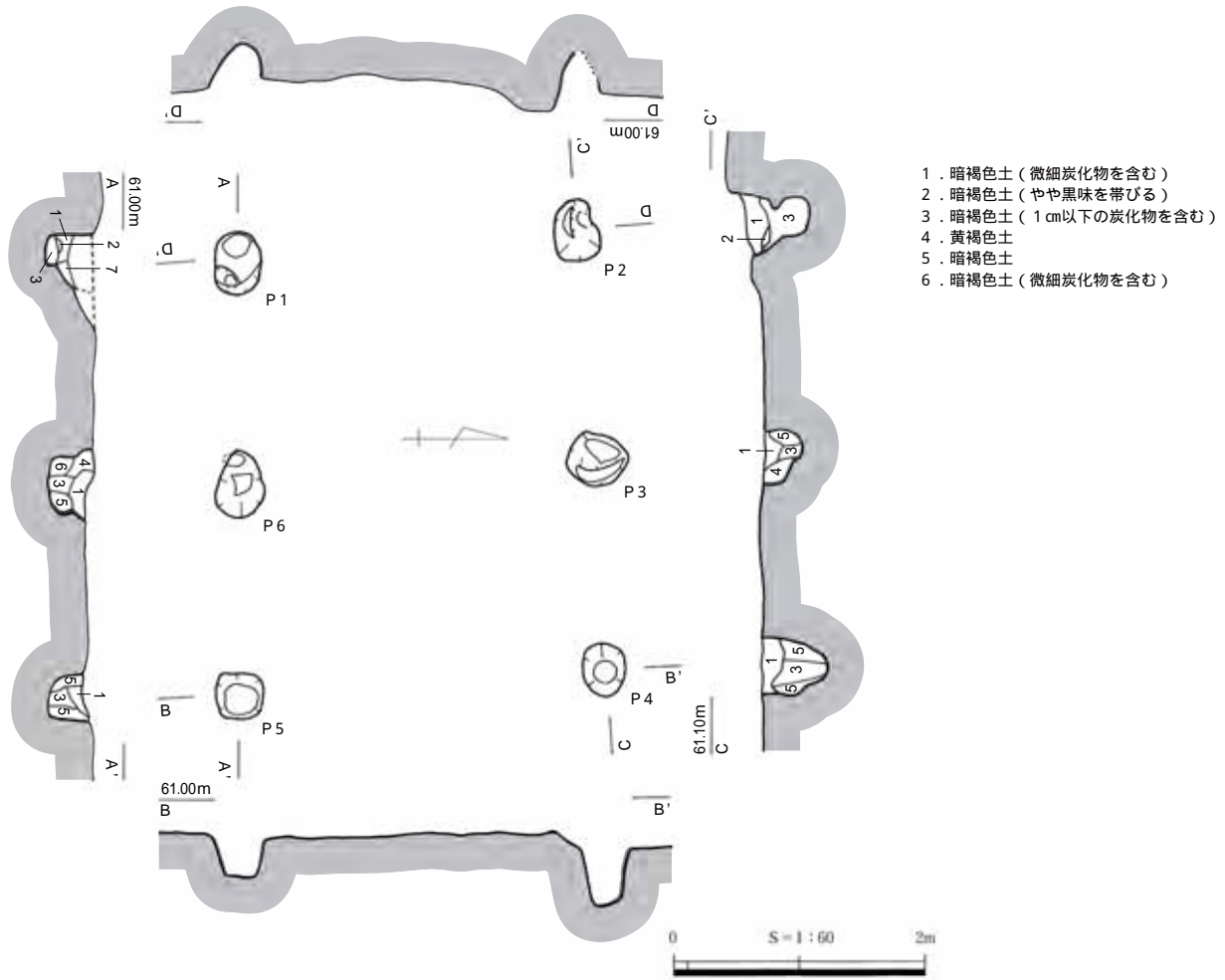
表6 SB5ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(cm)
P1	35×27 - 28
P2	40×34 - 20
P3	28×24 - 32
P4	32×30 - 32
P5	36×24 - 36
P6	40×30 - 8

埋土は暗褐色、黒褐色を呈し、いずれも微細炭化物を含んでいた。埋土における柱痕跡は確認されなかった。P2、P5、P6は二段階に掘り込まれている状況から柱痕跡であった可能性が考えられる。底径から復元される柱径は約15cmである。

P1、5、6から土師質の土器片が出土しており、そのうち図化可能な1点(205)を掲げた。形態的特徴から、天神川編年の期に相当するものと考えられる。出土遺物から建物跡は古墳時代前期前半頃には廃絶したものと考えられる。

（大川）



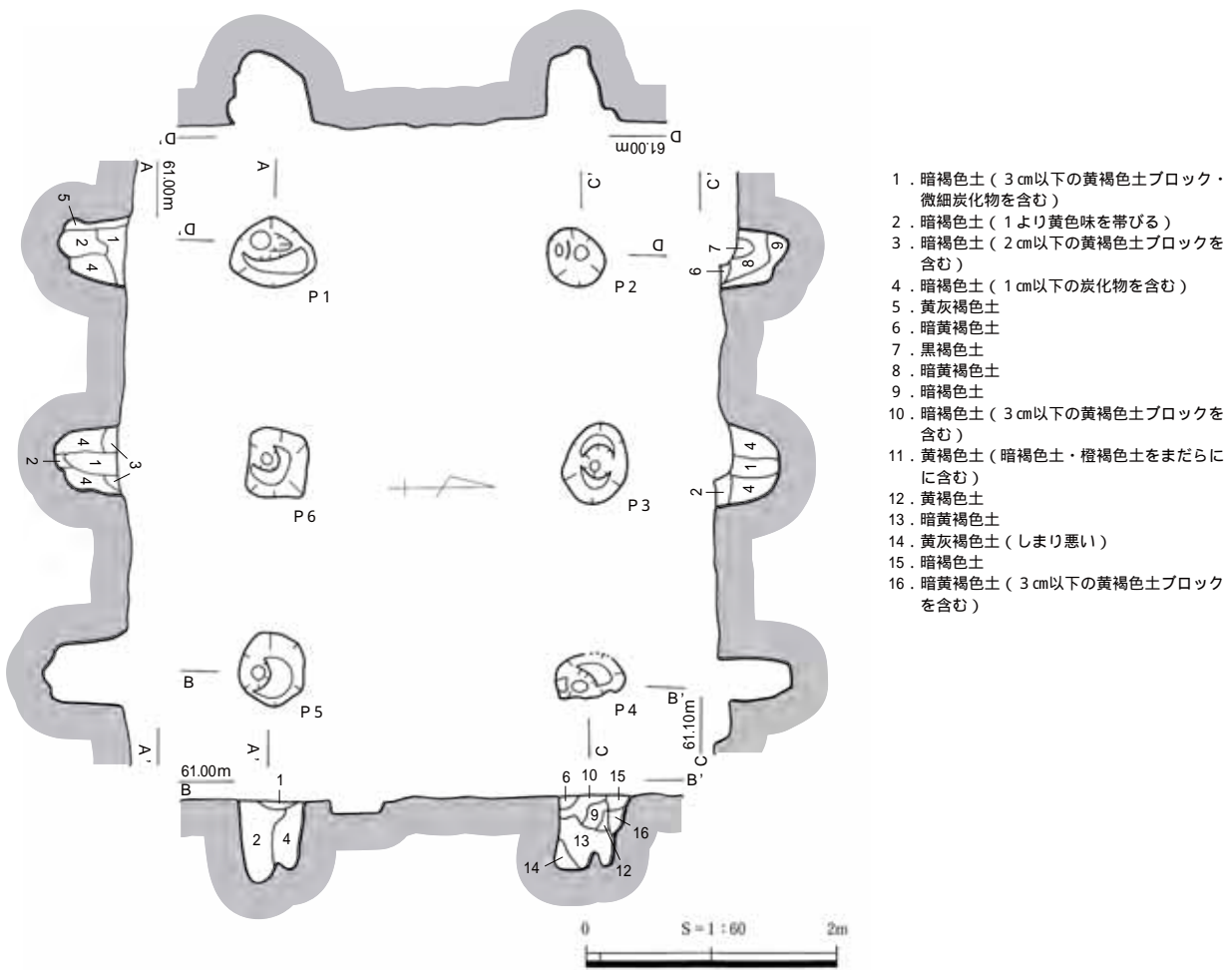
第57図 SB6

SB6 (第57図, PL.19 - 1, 表7)

2区北側のA7、8区に位置する。梁行1間、桁行2間の掘立柱建物跡である。層上面にまで耕作に伴う攪乱が広がっており、攪乱土を除去した段階で柱穴上面を検出した。当初、P2、P3の並びが確認されたことから、周辺の精査を行ったところ、P2の南側でP1を検出し、これらと並走するピット列を順次確認した結果、6本の柱穴が認められたため、掘立柱建物跡として調査を行った。主軸はN - 89° - Eである。規模は桁行約3.6m、梁行約2.9m、桁梁に囲まれた面積は9.79m²である。ピットの規模は表7の通りである。各柱穴間距離はP1 - P2の順に2.73m、1.80m、1.70m、2.95m、1.67m、1.80mである。各柱穴底面の高さは標高約60.1 ~ 60.4mである。P4、6には柱痕跡が確認された。埋土中から土器の小片が出土しているが、時期決定は困難である。当遺構は主軸がSB7 ~ 9と近似することから、古墳時代前期頃には廃絶したものと考えられる。(大川)

表7 SB6ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(cm)
P 1	50×35 - 35
P 2	50×38 - 60
P 3	50×45 - 30
P 4	45×30 - 55
P 5	40×40 - 35
P 6	55×30 - 35



第58図 SB7

SB7 (第58図, PL.19 - 2, 表8)

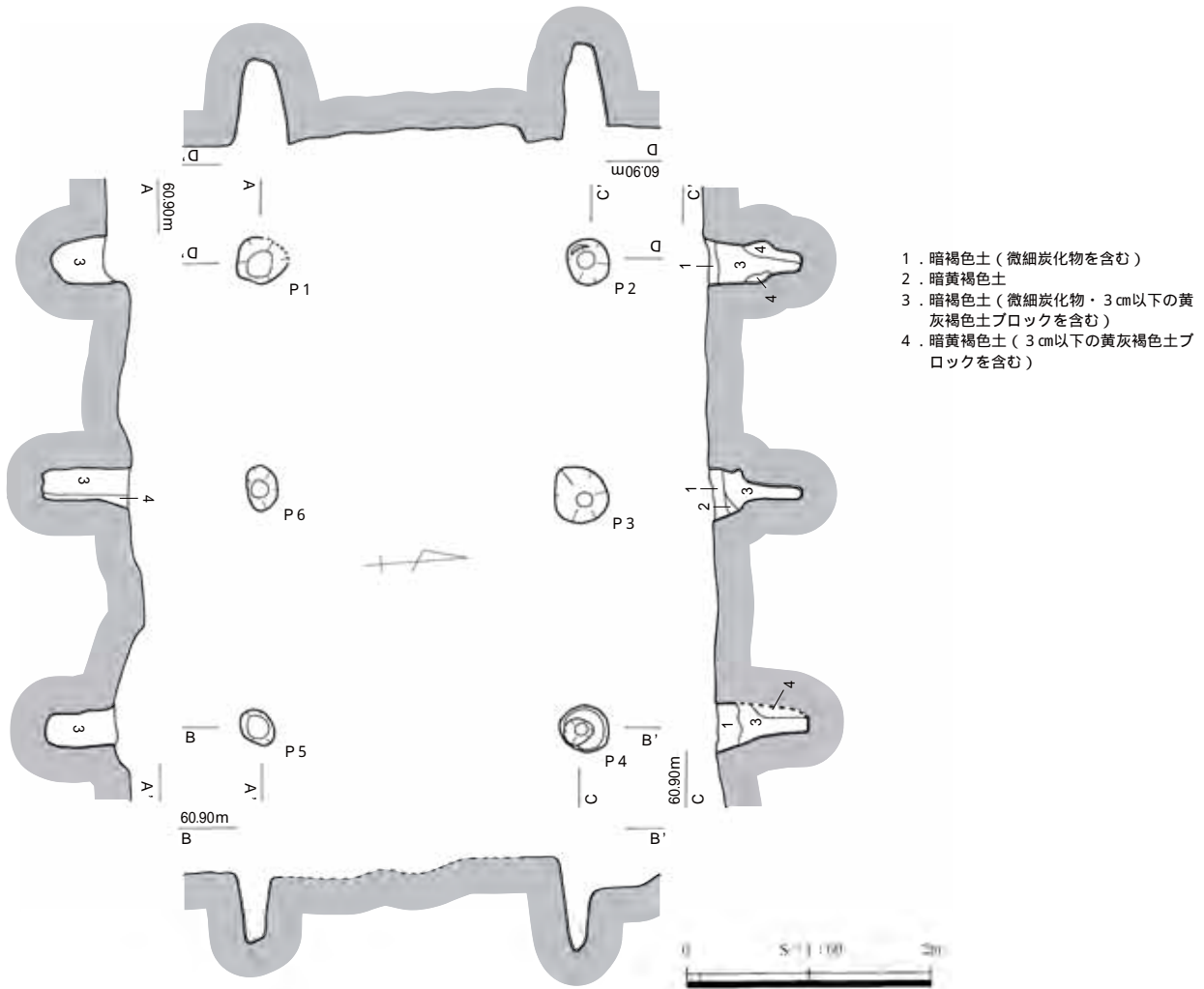
2区北東側 B 7 ~ C 7 グリッド、標高約 60.9 m に位置する。梁行 1 間、桁行 2 間の掘立柱建物跡である。耕作に伴う攪乱土を除去した後、層上面で検出した。規模は、桁行約 3.4m、梁行約 2.5m、面積は 8.5m² である。本建物跡の北東 1 m に SB6 が、東約 3 m に SB5 が位置している。方位は N - 89° - W で、本建物跡はこれらの掘立柱建物と桁方向を同じくし、ほぼ東西方向になる。

ピットの規模は表 8 の通りである。各柱穴間距離は、P 1 ~ 2 の順に 2.4m、1.6m、1.7m、2.5 m、1.7m、1.7m である。埋土は暗褐色土を主体し、黄褐色土ブロック、微細炭化物等を含んでいる。P 3 と P 6 では柱痕跡を確認した。

表 8 SB7ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ (cm)
P 1	70 × 55 - 60
P 2	36 × 36 - 55
P 3	64 × 50 - 50
P 4	55 × 35 - 60
P 5	58 × 50 - 66
P 6	54 × 46 - 56

出土遺物は、P 4、5、6 から土器片が出土している。いずれも小片のため図化していないが、古墳時代前期頃のものであることから、本遺構もこの頃には廃絶していたものと考えられる。
(瀨本)



第59図 SB8

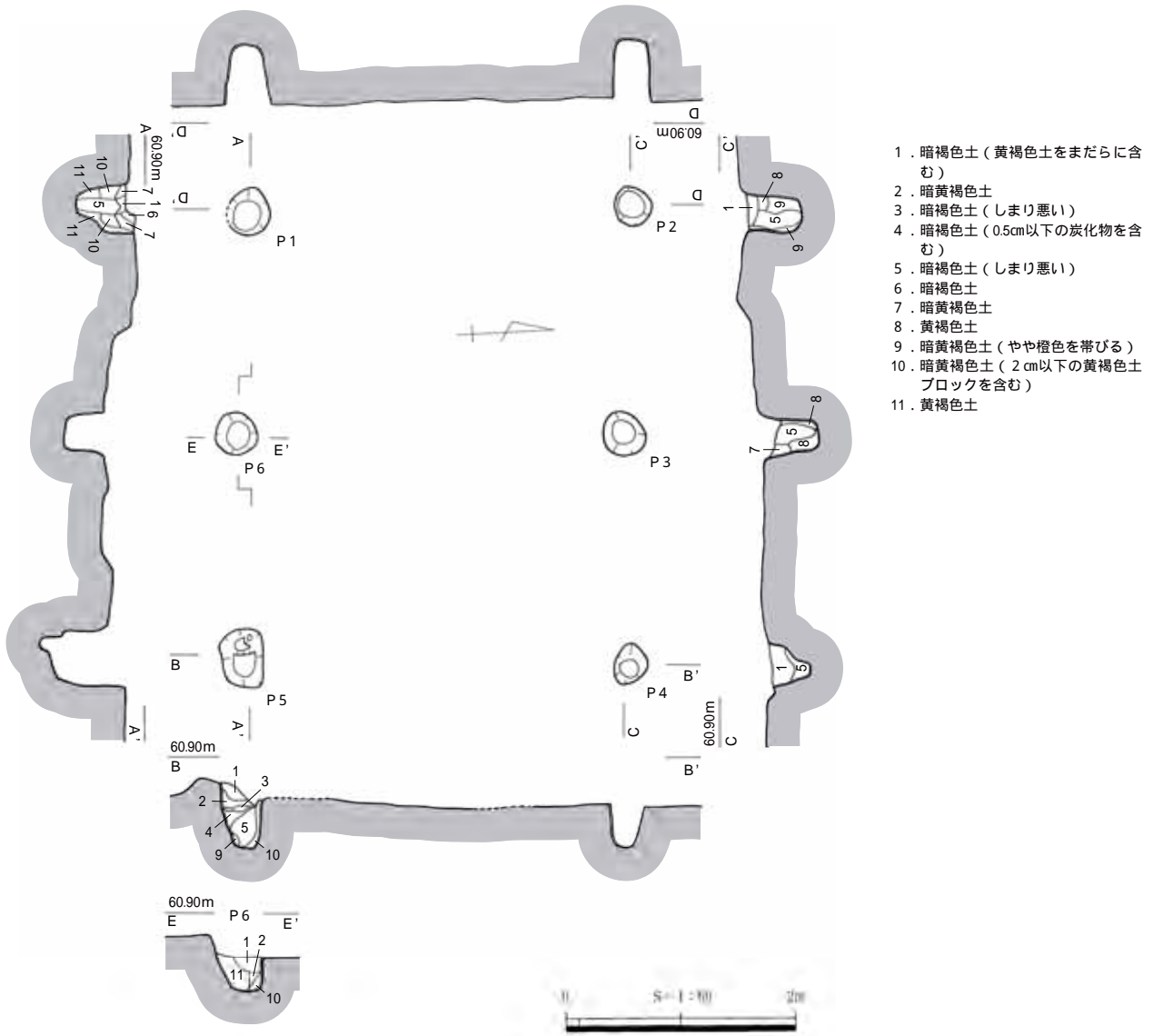
SB8 (第59図, PL.19 - 3, 表9)

2区北東側B 6 ~ C 6グリッド、標高約60.5 ~ 60.7mに位置する。梁行1間、桁行2間の掘立柱建物跡である。規模は桁行3.9m、梁行2.7m、面積は10.5²mである。本建物跡の西側3mにSB7が、北西1mにSB9が位置している。方位はN - 85° - Wで、桁方向をほぼ東西に向ける。ピットの規模は表9の通りである。ピット5がやや浅いが、その他のピットは概ね掘り込み面からの深さを同じくする。各柱穴間距離は、P 1 2の順に2.7m、1.9m、1.9m、2.7m、1.9m、1.85mである。埋土は暗褐色土を主体とする。出土遺物は、ピット4から土器片が3点出土した。

いずれも小片で、図化に耐えず、時期も特定できるものではなかった。そのため、出土遺物から本建物跡の時期を決定することができないが、古墳時代前期頃の遺物が出土しているSB4やSB6と桁方向を同じくすることから、これらの遺構と同じ時期の可能性が考えられる。
(瀨本)

表9 SB8ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(m)
P 1	40×38 - 70
P 2	38×34 - 76
P 3	44×44 - 76
P 4	40×40 - 75
P 5	32×26 - 52
P 6	26×24 - 76



第60図 SB9

SB9 (第60図, PL.19 - 4, 表10)

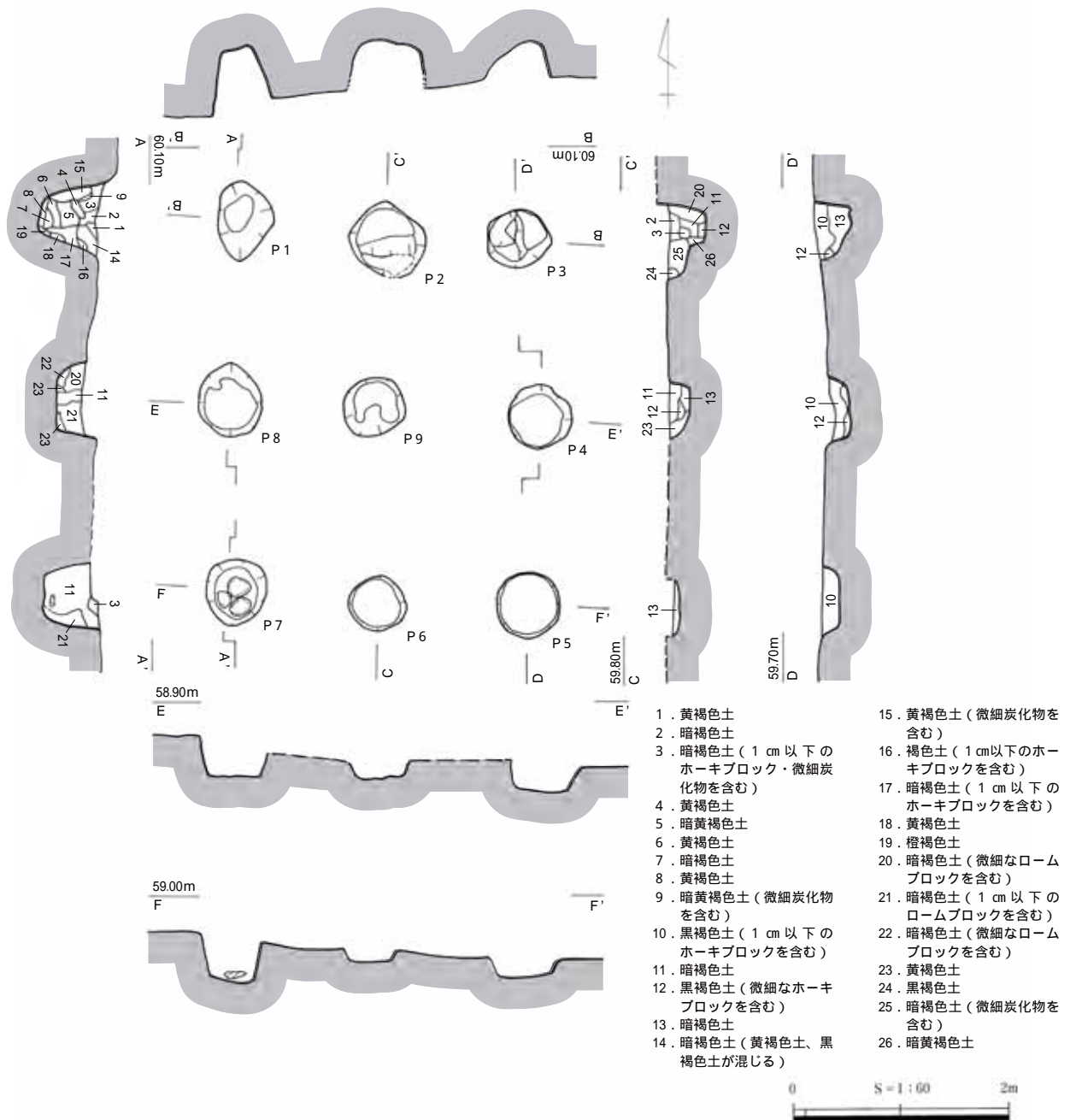
2区北東側B 6 ~ B 7グリッド、標高約60.5 ~ 60.8mに位置する梁行1間、桁行2間の掘立柱建物跡である。規模は桁行3.9m ~ 4.0m、梁行3.3mで、方位はN - 86° - Wである。ピット底面の標高は60.0m ~ 60.3mで、概ね北東側のP 3、4、5は深く、南東側のP 1、2、6はやや浅い。各柱穴間距離は、P 1 2間から順に3.3m、2.0m、2.1m、3.3m、2.0m、1.9mを測る。ピット埋土は暗褐色土

表10 SB9ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(m)
P 1	45×35 - 53
P 2	35×32 - 55
P 3	40×35 - 52
P 4	37×30 - 40
P 5	42×36 - 75
P 6	40×36 - 35

を主体とする。出土遺物であるが、すべてのピットから土器片が1 ~ 4点出土した。いずれも細片で時期不明のものが多かったが、P 1出土土器が古墳時代前期頃の特徴を備えており、住居の桁方向が一致しているSB7も古墳時代前期頃の時期であることから、本建物跡の年代も概ねこの頃におさまるのではないかと考える。

(瀨本)



第61図 SB10

SB10 (第61図, PL.19 - 5, 20 - 1, 表11)

1区北側、E 5グリッド、SI8の上部に位置する桁行2間、梁行2間、9本柱の掘立柱建物跡である。SI8の掘り下げ中に検出したため、検出面は判然としないが、SI8の2層中または3層上面が本来の遺構面になるものと思われる。P 1、P 7、8の並びが認められ、並走するP 3～5、P 2、9、6が確認できたことから掘立柱建物跡として調査を行った。いずれの柱穴も上部を掘削した段階で確認したため。主軸はN - 1° - E、梁行約3.6m、桁行約2.7m、桁梁に囲まれた面積は約8.97㎡である。各柱穴間距離はP 1 - P 2から順に1.36m、1.22m、1.7m、1.74m、1.36m、1.32m、1.74m、1.34m、P 1 - P 8間は1.74m、P 2 - P 9間は1.74m、P 4 - P 9間は1.28m、P 6 - P 9間は1.74mである。各柱穴底面の高さは標高約59.04～59.2mである。P 7は埋土下部に3枚の礎盤石が確認された。礎盤石上面の高さは標高約59.2mである。P 1、2は土層断面に柱痕跡が認められ、それぞれの柱径は約18cmである。

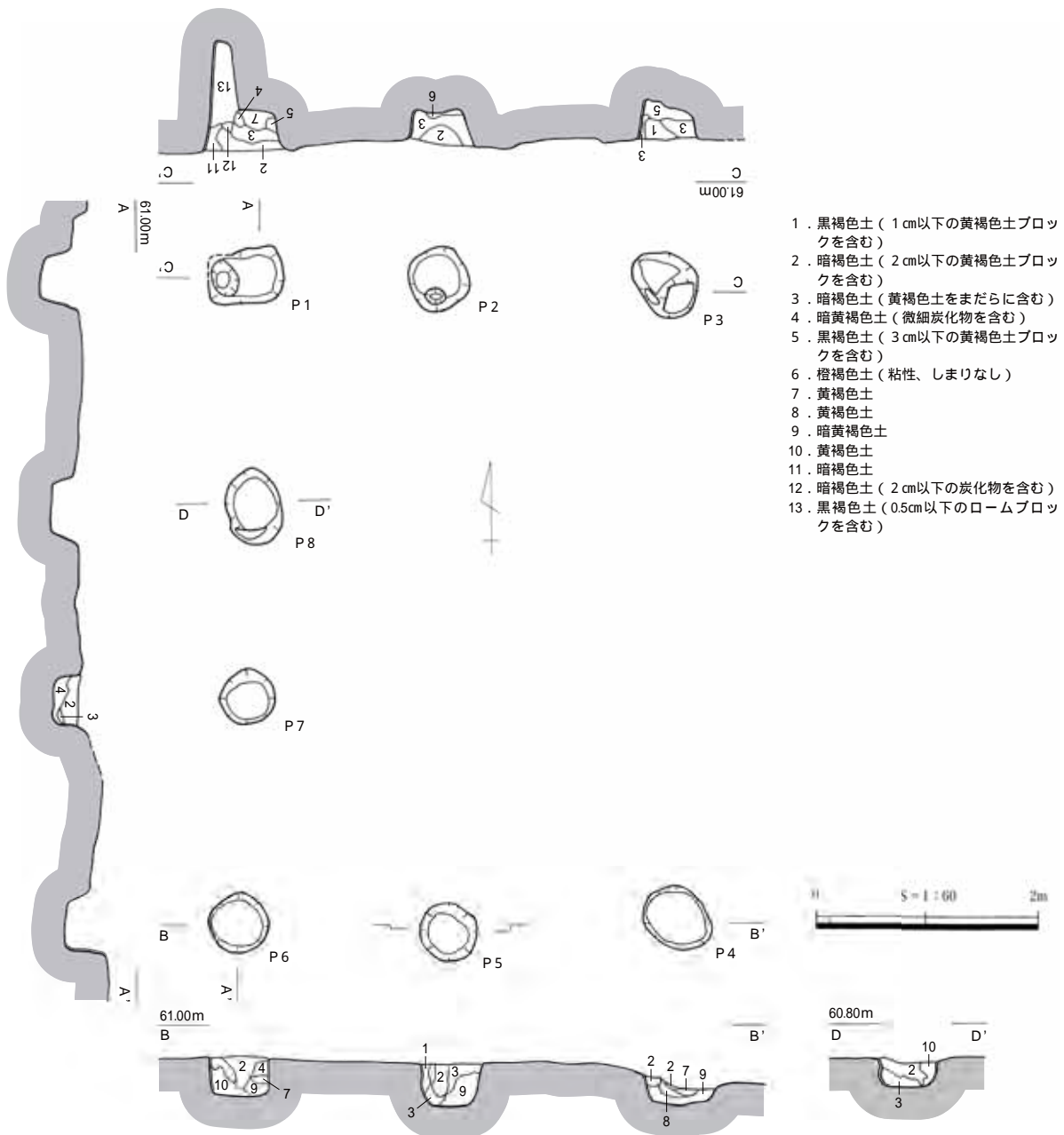
柱穴埋土中から土師器、須恵器の小片が出土している。小片のため図化していないが、古墳時代後期後半のものと考えられ、柱穴の埋没はそれ以降になるものと推定される。(大川)

表11 SB10ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(cm)
P 1	80×46 - 74
P 2	64×60 - 43
P 3	60×56 - 36
P 4	60×60 - 24
P 5	60×60 - 20
P 6	48×48 - 12
P 7	64×56 - 48
P 8	68×60 - 40
P 9	60×52 - 20

SB11 (第62図, 表12)

2区北側、B 6グリッドに位置する。層上面を精査中、P 1～3、P 4～6の並びを確認した。ピット配置を整理する中で、P 7、8がP 1、6の間に連なることから掘立柱建物跡として報告する。P 3の東側は耕作による攪乱や、SI9が構築されていること、P 4



第62図 SB11

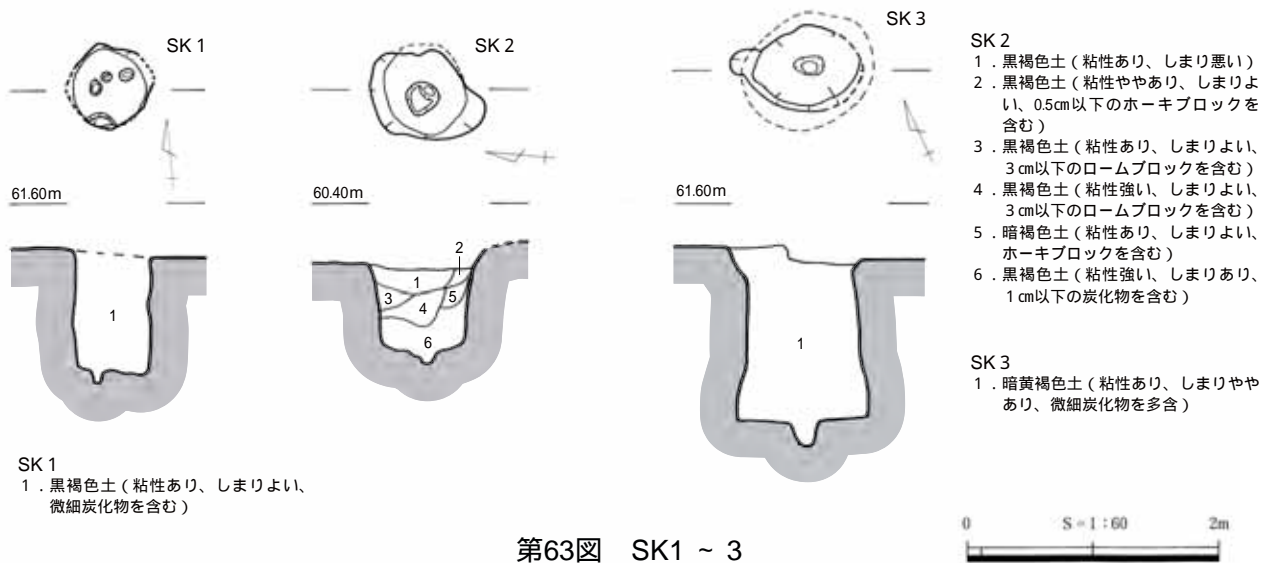
第3章 調査の成果

の東側は調査地外のため、連なりを確認できていない。土層中における柱痕跡は確認できなかった。P 1 - 6における主軸はN - 2° - Eである。各柱穴間距離はP 1 - 2の順に1.6m、2.0m、2.0m、1.88m、1.6m、2.0mである。

出土遺物はP 3埋土中から胴部小片が出土しているのみであり、遺構の時期は不明である。 (大川)

表12 SB11ピット計測表

P番号	長軸×短軸 - 深さ(cm)
P 1	68×52 - 36 ~ 100
P 2	60×52 - 32
P 3	64×52 - 36
P 4	68×48 - 28
P 5	52×48 - 40
P 6	54×54 - 36
P 7	48×48 - 24
P 8	70×48 - 24



第63図 SK1 ~ 3

第4節 土坑等の調査成果

土坑等

SK1 (第63図, PL.20 - 2)

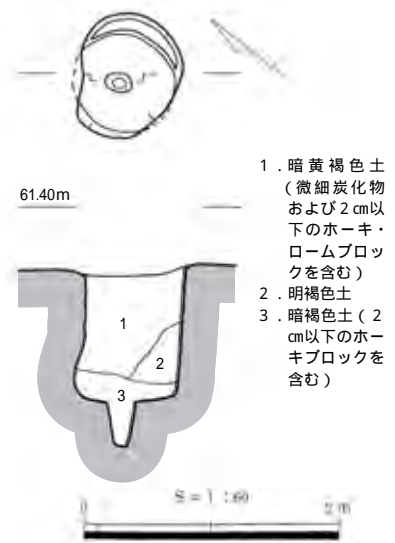
1区E 5グリッド、標高約61.3mに位置する。検出面は 層上面である。SI4に上部を一部切られており、上場はもとの形状をとどめない。規模は長径70cm、短径65cmほどになると思われる。底面までの深さは約100cmで、さらに平坦な底面から径10 ~ 12cm、深さ9cmほどの小ピットが3ヶ所掘り込まれていた。時期は弥生後期後葉以前であること以外不明である。形態から落とし穴と考えられる。 (大川)

SK2 (第63図, PL.20 - 3)

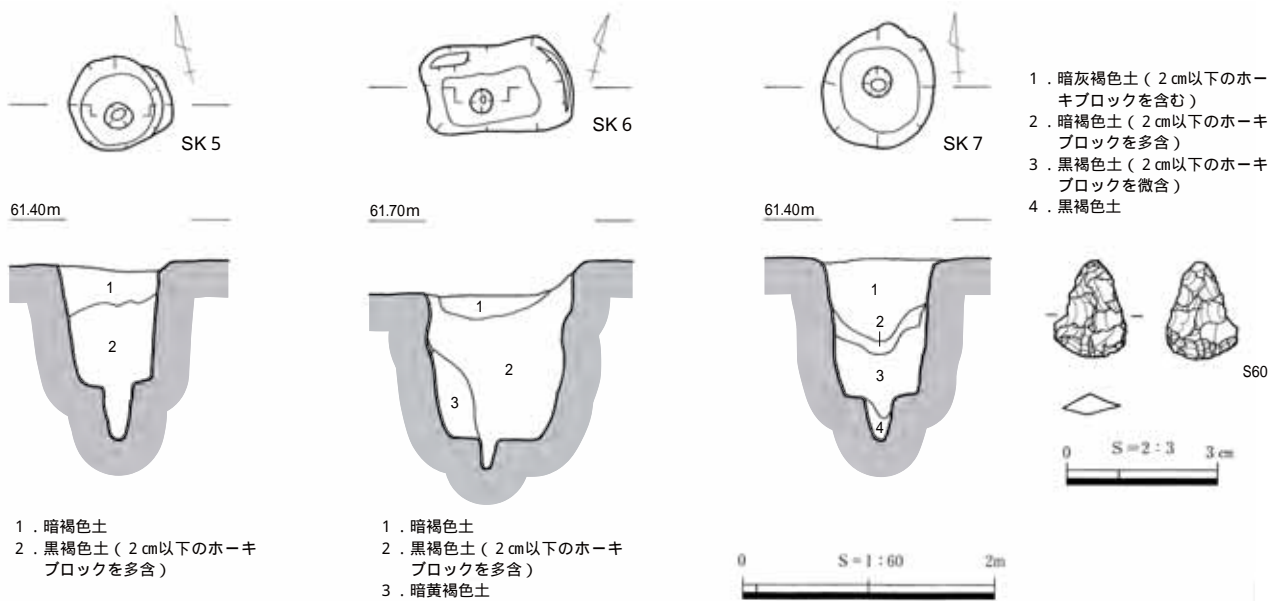
1区C 4グリッド北西、SI1の床面北東部、標高約60.0mに位置する。SI1の貼床を除去した後、上面を検出した。長径94cm、短径71cm、底面までの深さは85cmで、中央には径20cm、深さ10cmほどの底面ピットが掘り込まれている。時期は弥生後期後葉以前であること以外不明である。形態から落とし穴と考えられる。 (大川)

SK3 (第63図, PL.20 - 4)

2区C 8グリッド西側、標高約61.3mに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径90cm、短径55cm、検出面からの深さは130cmを測る。



第64図 SK4



第65図 SK5 ~ 7

断面形状は、フラスコ状を呈する。底面は平坦で、中央に底面ピット（25×15 - 18）cmを検出した。埋土中から土器小片が出土したが、時期を決定できるものはなかった。形態から落とし穴と考えられる。（瀨本）

SK4（第64図，PL.20 - 5）

2区D 8グリッド東側、標高約61.0 mに位置する。平面形は歪な楕円形を呈するが、埋土中に壁面と同じ土のブロックが含まれることや、掘り方等からみて、本来の平面形は円形で廃絶後に土坑上縁部が崩落したものとする。規模は長径100cm、短径75cm、検出面からの深さ103cmを測る。底面中央からやや北寄りに底面ピット（25×15 - 36）cmを検出した。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、形態から落とし穴であると思われる。（瀨本）

SK5（第65図，PL.20 - 6）

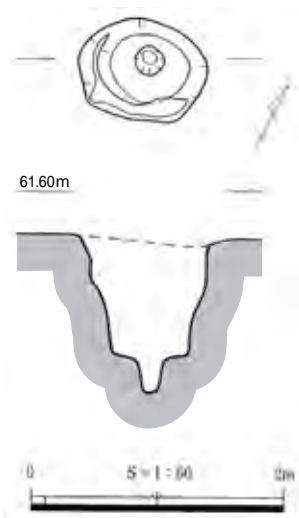
2区D 8グリッド南東側、標高約61.0 mに位置する。平面形は円形を呈し、規模は長径80cm、短径75cm、検出面からの深さ95cmを測る。埋土は黒褐色土で、径20cm、深さ40cmの底面ピットを検出した。出土遺物であるが、埋土中から粘土塊と黒曜石製剥片が出土した。形態から落とし穴と考えられるが、時期は不明である。（瀨本）

SK6（第65図，PL.21 - 1）

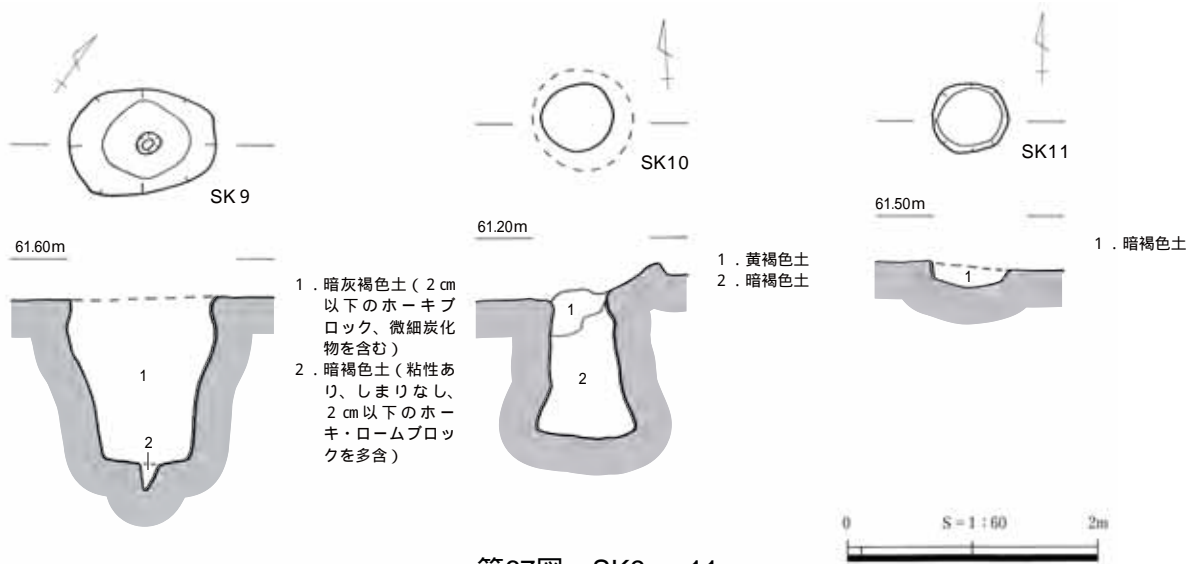
2区E 8グリッド、標高約61.4 mに位置する。平面形は長方形を呈し、規模は長軸110cm、短軸70cm、検出面からの深さ100cmを測る。底面中央に径18cm、深さ24cmの底面ピットが認められた。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、形態から落とし穴と考えられる。（瀨本）

SK7（第65図，PL.21 - 2，41）

2区E 8グリッド中央、標高約61.1 mに位置する。平面形は径約90cmの円形で、検出面からの深さは110cmを測る。底面中央に径25cm、深さ34cmの底面ピットが認められた。遺物は石鏃（S60）他土器片が出土したが、細片のため図化し得なかった。そのため、本遺構の時期は不明であるが、形態



第66図 SK8



第67図 SK9 ~ 11

から落とし穴と考えられる。

(瀧本)

SK8 (第66図, PL.21 - 3)

2区F7グリッド西側、標高約61.2mに位置する。規模は長径100cm、短径80cm、検出面からの深さは100cmを測り、平面楕円形を呈する。底面中央には円形ピット(20×22-28)cmが認められた。本土坑は、平成11年度に赤碕町教育委員会が行った試掘調査(武尾美則・石賀太編『赤碕町内遺跡発掘調査報告書』)において検出されていた。埋土は不明であるが、調査報告書によれば、埋土中から黒曜石製の凹基式無茎鏃と縄文土器が出土している。形態から落とし穴と考えられ、時期は試掘調査結果を援用するならば縄文時代以降と考えられる。

(瀧本)

SK9 (第67図, PL.21 - 4)

2区F7グリッド南西側、SK8の南1.5mに位置する。規模は長径118cm、短径82cmで、平面形状は歪な楕円形を呈し、検出面からの深さは130cmを測る。底面は平坦で、中央には円形ピット(20×16-20)cmが認められた。出土遺物であるが、埋土中から胴部片が出土したが、細片のため図化していない。そのため本遺構の時期は特定できないが、形態から落とし穴と考えられる。

(瀧本)

SK10 (第67図, PL.21 - 5)

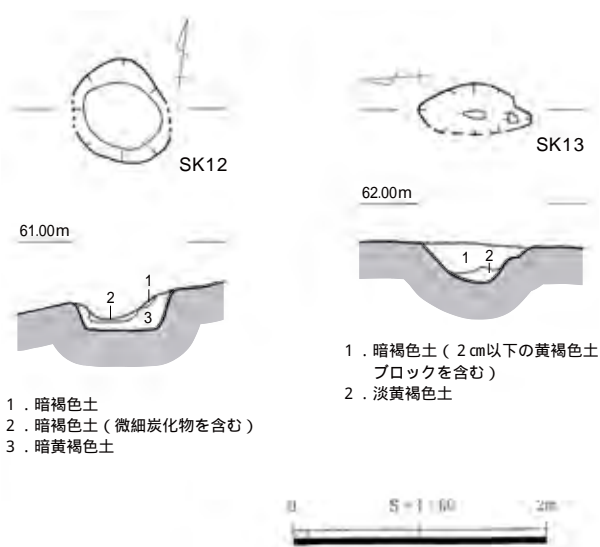
C8グリッド南側、標高約60.7mに位置する。平面形はほぼ円形で、径は50~55cmである。埋土は2層に分層できた。断面形状はフラスコ状を呈する。底面は平坦で、底面ピットは認められない。遺物は土器の細片が出土したが、時期を特定できるものではない。形態から貯蔵穴と考えられる。

(瀧本)

SK11 (第67図, PL.21 - 6)

2区D8グリッド北西部、標高約61.1mに位置する。平面形はほぼ円形で、長径60cm、短径55cm、検出面からの深さは約18cmである。埋土は暗褐色土1層で、埋土中から土器片が出土したが、細片のため図化しなかった。時期・用途とも不明である。

(瀧本)



第68図 SK12, 13

SK12 (第68図, PL.22 - 1)

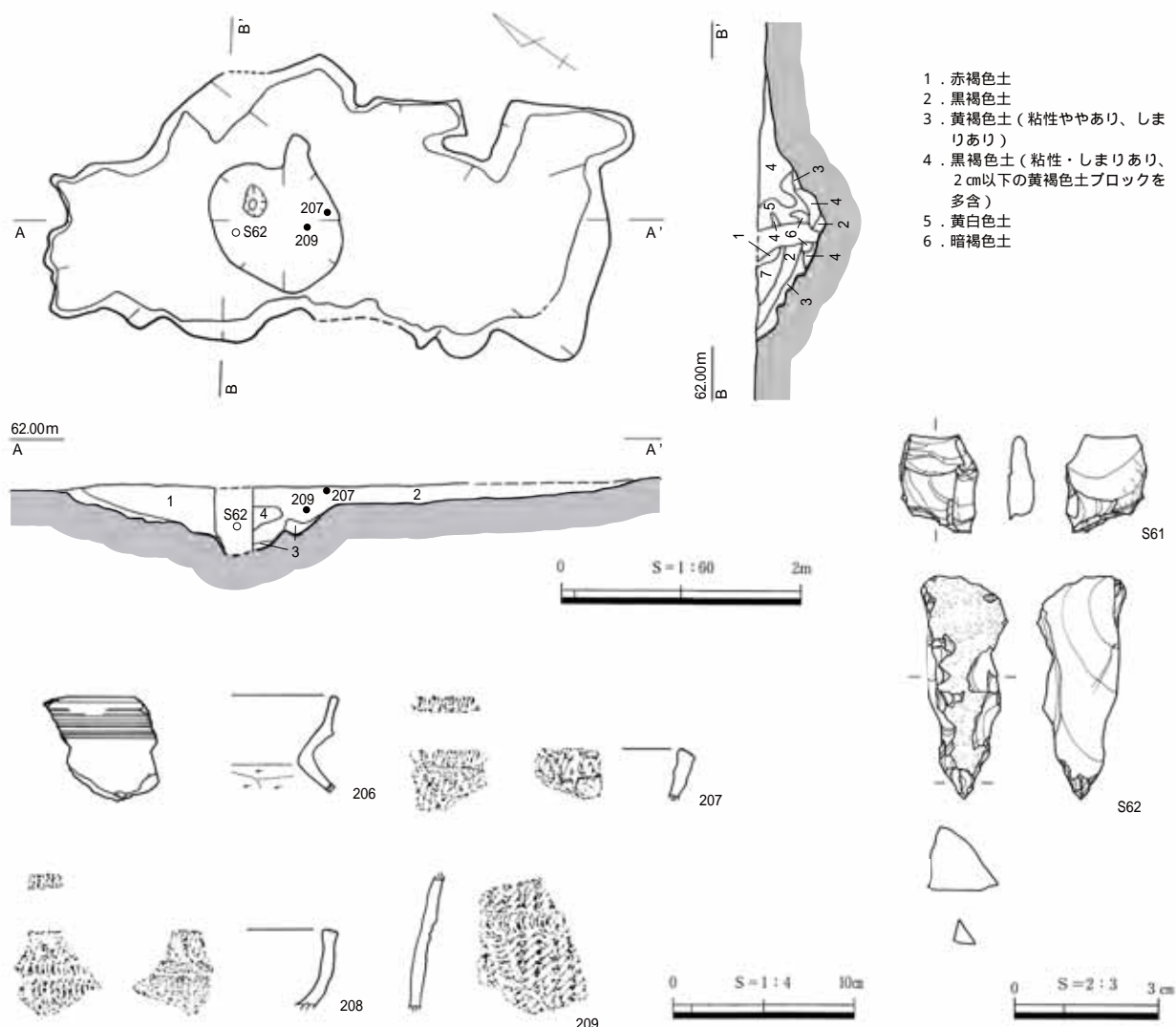
2区D9グリッド、標高約60.5mに位置する。平面形は歪な円形で、埋土は暗褐色土を主体として3層に分層できた。規模は長径80cm、短径75cm、検出面からの深さは20cmを測る。底面は緩やかに傾斜している。遺物は出土しなかった。時期や用途は不明である。(瀆本)

SK13 (第68図, PL.22 - 2)

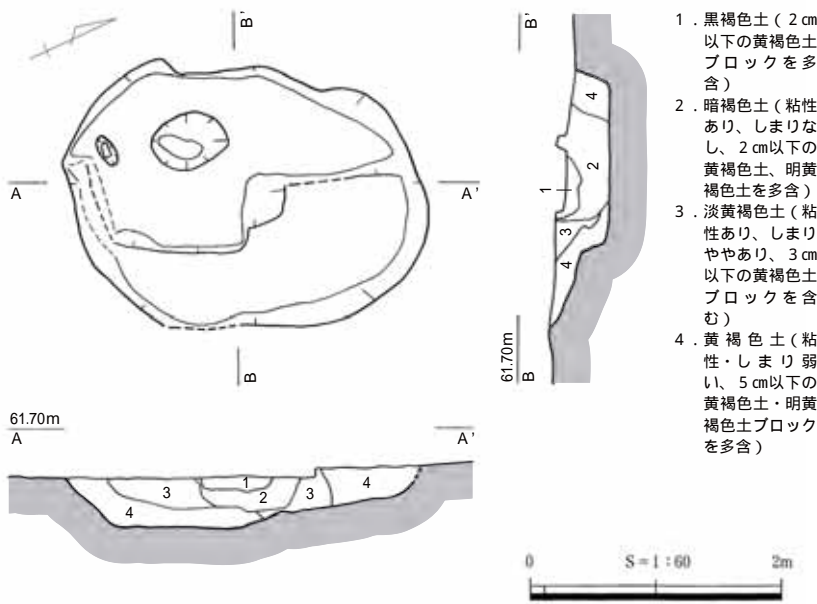
2区F7グリッド北東部、標高約61.6mに位置する。暗黄褐色土中に暗褐色土のプランを確認し、土坑として調査した。平面形は楕円形で、規模は長径90cm、短径40cm、検出面からの深さは30cmを測る。西側の一部を果樹園のアンカー埋設に伴う攪乱によって壊される。遺物は出土しなかった。時期や用途は不明である。(瀆本)

SK14 (第69図, PL.22 - 3, 40, 41)

1区F5グリッド北東側、標高約61.6mに位置する。層を遺構検出面として精査中、黒褐色土のプランとして検出した。検出状況は、プランの縁辺部に黒褐色土があり、黒褐色土によって囲まれた範囲に赤褐色土が広がっているような状況であった。平面形は不整な楕円形を呈する。規模は長軸4.6m、短軸2.0m、検出面からの深さは58cmである。埋土は7層に分層できた。遺物は2層(黒褐色土)中より縄文土器(207、208、209)、弥生土器(206)、楔形石器(S61)、石錐(S62)が出土した。



第69図 SK14



第70図 SK15

SK15 (第70図, PL.22 - 4)

2区E 7 ~ F 7グリッド、標高約61.5mに位置する。層上面に黒褐色土のプランとして検出した。平面形は楕円形を呈する。検出時の状況はSK14と同様、楕円形のプラン縁辺部に黒色土があり、その内側に赤褐色土が広がっている状況であった。規模は長軸3.0m、短軸2.0m、深さ40cmを測る。底面の様子は、東側半分は 層を、西側半分は 層を床面とし、細かい凹凸のある歪な面で形成されている。遺物は出土したが、小片のため図化できなかった。本土坑の時期および用途は不明であるが、埋土の状況から風倒木痕の可能性が考えられる。(瀨本)

207、208、209はいずれも前期末～中期初頭の深鉢の破片で、外面は縄文施文後連続した爪形刺突文を施し、内面は縄文施文後なでている。206は甕の口縁部で5条の平行沈線を施している。

本遺構の用途は不明であるが、本土坑の底面のレベルに存在する赤褐色土が一部検出面にまで見られ、その下に黒褐色土が堆積している状況からすると風倒木痕の可能性も考えられる。(瀨本)

ピットおよび遺構外の出土遺物 (第71 ~ 73図, PL.40 ~ 41, 表13 ~ 15)

ピットは1区の南半部、2区全域に分布する。確認できたピットは141基を数える。その一覧を表13 ~ 15に記した。大半のピットは 層上面において検出したが、2区に分布するピットの多くは耕作に伴う攪乱土を除去した段階での検出であったため、遺構面はさらに上部にあったものと考えられる。柱痕跡は5基のピットに確認された。柱痕跡が確認できたP 2 ~ 4は一列に並ぶものの、柱間隔が揃わず、並走する列を調査地内で確認できていない。調査地外に並走するピット列が存在し、掘立柱建物跡となる可能性がある。

ピット内から出土した遺物は土器の小片が多く、図化できたものを第73図に掲載した。210 ~ 212はピット76から出土したものである。210、211は口縁部に多条の沈線文を施したもので210は頸部に二枚貝の腹縁を用いた刺突文が認められる。212は底部である。213はピット128から出土した甕の口縁部片である。

遺構外から出土した遺物には土器、石器、金属器などがある。耕作にともなって掘削された耕作痕の埋土から出土したものが大半を占める。遺構外の出土土器として須恵器の坏(214)を図化した。D 4杭の周辺の攪乱土内から出土したものである。遺構外から出土した石器にS63 ~ S71がある。いずれも黒曜石製でS63 ~ S66が凹基式、S67が平基式の石鏃である。S63は上部、右脚部を欠損している。S67は裏面に素材面が残存する。S68は寸詰まりの剥片の両側縁に二次加工を施したスクレイパー

である。上端部には打面が残存する。S69～S71は楔形石器である。S69、S70は上下両端部に潰れが明瞭に認められる。S71は分厚い剥片を素材とし、上下、左側縁に潰れの痕跡が認められるもので、意図的に切断されたものと考えられる。(大川)

表13 ピット一覧表

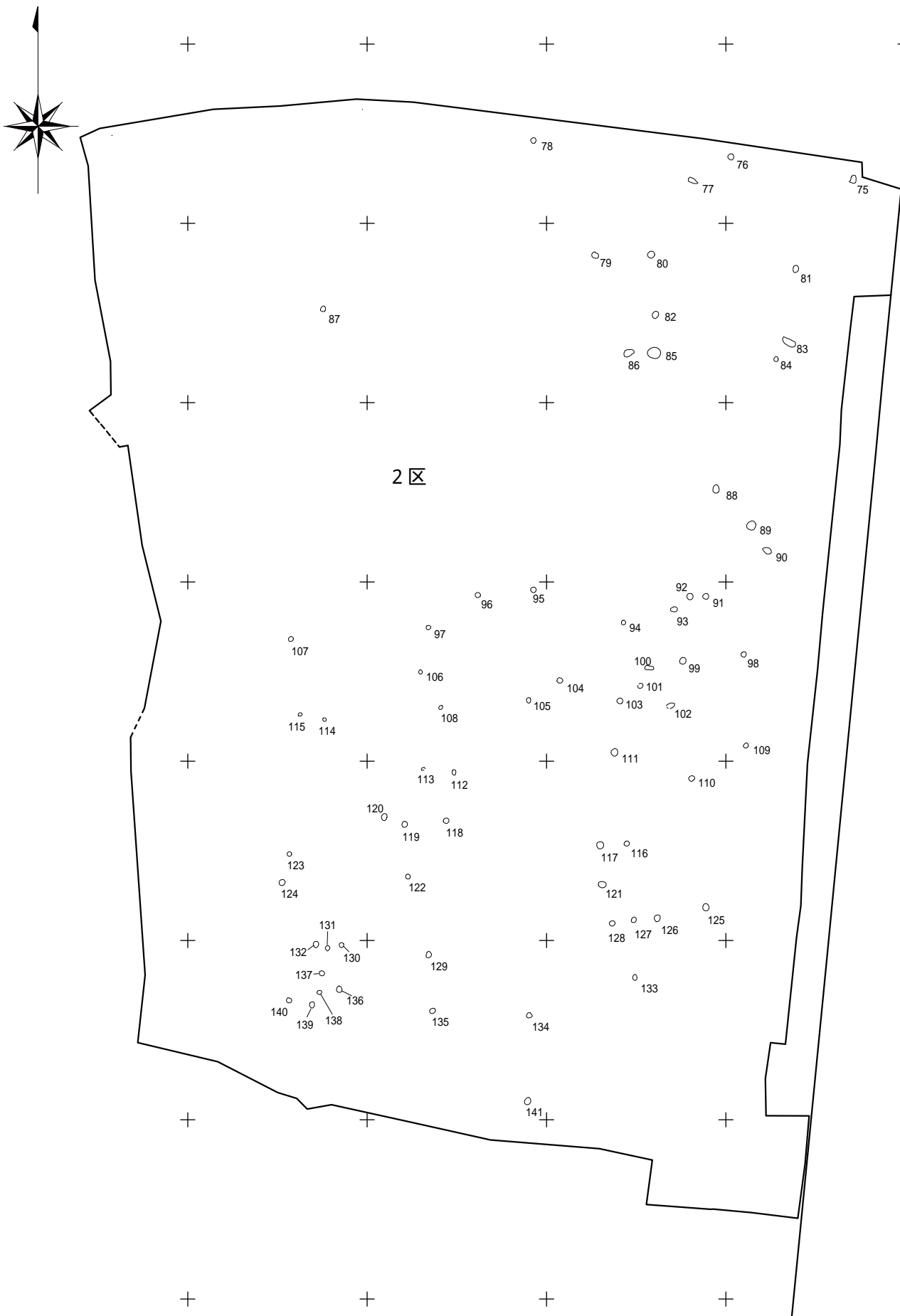
	規模 (長軸×短軸 - 深さ) m	埋土	備考	旧番号
P1	0.68×0.65 - 0.14	暗褐色土、黄褐色土		SI1 P 10
P2	0.74×0.56 - 0.43	黒褐色土、暗褐色土	柱痕あり	P 32
P3	0.45×0.44 - 0.27	暗褐色土、暗黄褐色土、黄褐色土	柱痕あり	P 33
P4	0.40×0.34 - 0.55	暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土	柱痕あり	P 34
P5	0.48×0.44 - 0.29	黒褐色土、黄褐色土	須恵器片	P 35
P6	0.26×0.26 - 0.10	暗褐色土		P 16
P7	0.30×0.30 - 0.27	暗褐色土		P 17
P8	0.30×0.28 - 0.21	暗褐色土、暗黄褐色土		P 18
P9	0.36×0.37 - 0.22	暗褐色土		P 19
P10	0.53×0.52 - 0.05	暗褐色土		P 22
P11	0.42×0.42 - 0.15	暗褐色土		P 23
P12	0.31×0.24 - 0.39	暗褐色土		P 12
P13	0.34×0.22 - 0.28	暗黄褐色土、暗褐色土		P 13
P14	0.34×0.32 - 0.12	暗褐色土		P 24
P15	0.45×0.42 - 0.23	暗褐色土		P 25
P16	0.30×0.25 - 0.05	暗褐色土		P 26
P17	0.35×0.30 - 0.10	暗褐色土		P 27
P18	0.34×0.32 - 0.15	黄褐色土		P 5
P19	0.24×0.22 - 0.07	黒褐色土		P 8
P20	0.47×0.42 - 0.68	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 57
P21	0.37×0.35 - 0.30	暗褐色土		P 3
P22	0.28×0.21 - 0.08	黒褐色土		P 2
P23	0.16×0.12 - 0.18	黒褐色土		P 7
P24	0.20×0.17 - 0.11	黒褐色土		P 1
P25	0.35×0.35 - 0.25	黒褐色土、黄褐色土	柱痕?	P 9
P26	0.25×0.20 - 0.15	暗褐色土		P 56
P27	0.30×0.25 - 0.28	暗褐色土、明褐色土		P 51
P28	0.27×0.23 - 0.13	黒褐色土、暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 52
P29	0.25×0.24 - 0.28	黒褐色土		P 53
P30	0.50×0.38 - 0.70	暗褐色土、暗黄褐色土	土師質土器胴部小片	P 54
P31	0.40×0.33 - 0.49	暗褐色土		P 58
P32	0.40×0.32 - 0.50	暗褐色土		P 97
P33	0.26×0.26 - 0.13	黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土		P 57
P34	0.23×0.23 - 0.34	暗褐色土、黄褐色土		P 98
P35	0.41×0.30 - 0.34	黒褐色土		P 55
P36	0.34×0.30 - 0.46	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 59
P37	0.23×0.18 - 0.22	暗褐色土		P 60
P38	0.31×0.27 - 0.33	暗褐色土、明褐色土	柱痕?、土師質土器胴部小片	P 61
P39	0.72×0.43 - 0.33	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 62
P40	0.26×0.25 - 0.24	暗褐色土、黄褐色土		P 101
P41	0.24×0.22 - 0.13	暗褐色土		P 42
P42	0.30×0.25 - 0.10	暗褐色土		P 41
P43	0.25×0.22 - 0.06	暗褐色土		P 87

表14 ピット一覧表

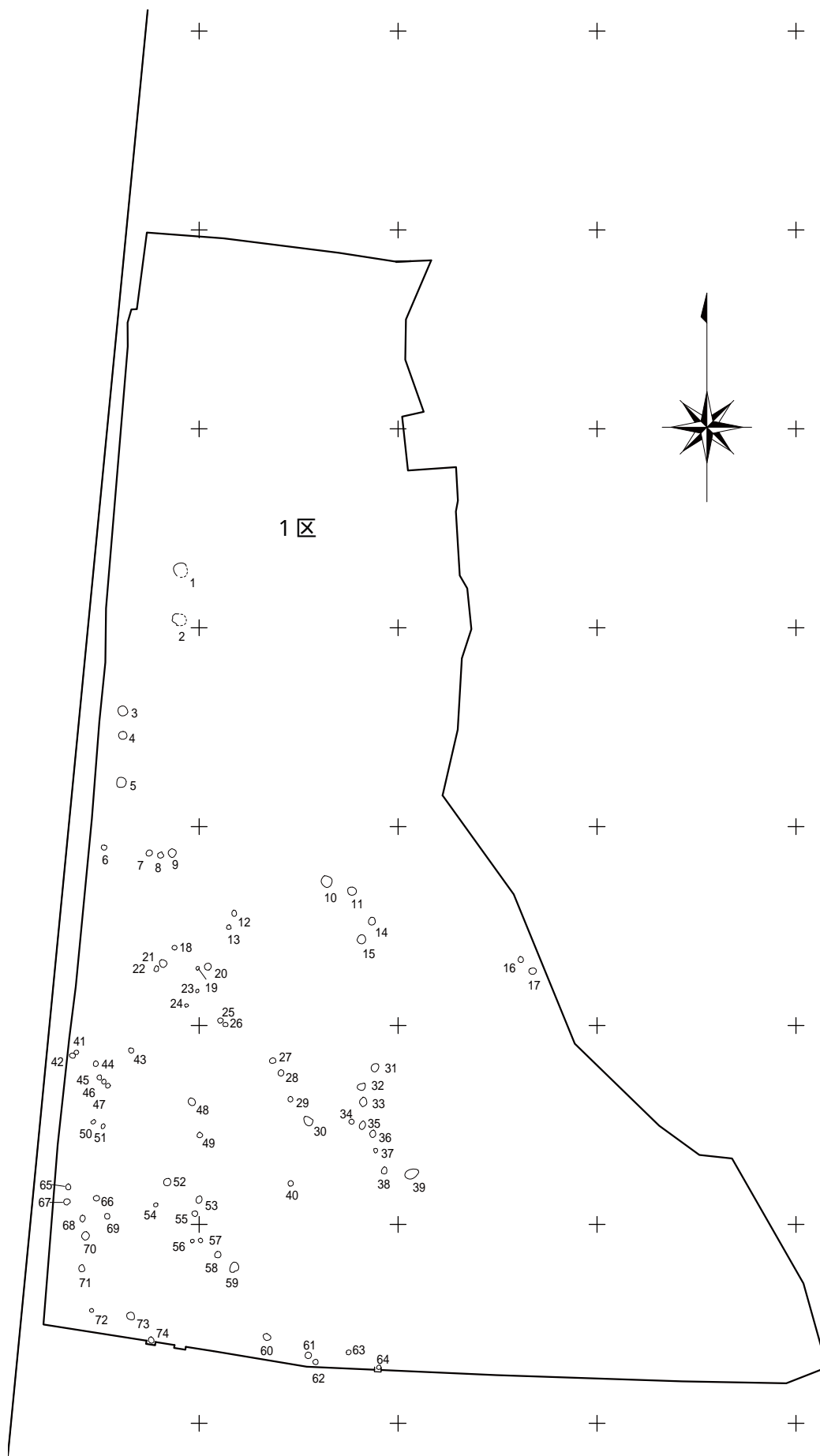
	規模 (長軸×短軸・深さ) m	埋土	備考	旧番号
P44	0.28×0.25 - 0.11	暗褐色土		P 43
P45	0.30×0.25 - 0.22	暗褐色土	柱痕?	P 44
P46	0.22×0.22 - 0.13	暗褐色土		P 45
P47	0.22×0.20 - 0.11	暗褐色土		P 88
P48	0.35×0.32 - 0.10	黄褐色土、暗褐色土		P 46
P49	0.38×0.34 - 0.15	暗褐色土?		P 47
P50	0.22×0.20 - 0.20	暗褐色土		P 89
P51	0.21×0.15 - 0.12	暗褐色土		P 90
P52	0.37×0.37 - 0.32	暗褐色土		P 86
P53	0.38×0.26 - 0.32	暗褐色土		P 99
P54	0.20×0.15 - 0.27	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 94
P55	0.29×0.25 - 0.24	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 95
P56	0.17×0.15 - 0.10	暗褐色土		P 92
P57	0.17×0.17 - 0.10	暗褐色土		P 93
P58	0.30×0.28 - 0.60	暗褐色土	弥生土器口縁部片	P 84
P59	0.50×0.42 - 0.52	暗褐色土	土師器胴部小片	P 83
P60	0.35×0.30 - 0.07	暗褐色土		P 78
P61	0.34×0.30 - 0.16	暗褐色土		P 79
P62	0.25×0.25 - 0.17	褐色土		P 80
P63	0.22×0.20 - 0.18	褐色土		P 81
P64	0.20×0.19 - 0.16	暗褐色土		P 82
P65	0.25×0.25 - 0.16	暗褐色土		P 100
P66	0.30×0.25 - 0.14	暗褐色土?	弥生土器口縁部片	P 49
P67	0.30×0.28 - 0.80	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 48
P68	0.30×0.27 - 0.20	暗褐色土、黄褐色土		P 50
P69	0.27×0.25 - 0.15	暗褐色土		P 63
P70	0.40×0.40 - 0.16	暗褐色土、褐色土		P 64
P71	0.35×0.30 - 0.76	暗褐色土		P 91
P72	0.17×0.17 - 0.13	暗褐色土		P 96
P73	0.40×0.37 - 0.32	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 85
P74	0.30×0.27 - 0.33	暗褐色土		P 70
P75	0.43×0.36 - 0.37	埋土不明		P 225
P76	0.37×0.32 - 0.43	暗褐色土、暗黄褐色土	弥生土器口縁部片	P 221
P77	0.57×0.28 - 0.46	暗黄褐色土、暗褐色土	弥生土器口縁部小片	P 205
P78	0.31×0.30 - 0.39	埋土不明		P 144
P79	0.40×0.35 - 0.68	埋土不明	土師器口縁部小片	P164
P80	0.37×0.37 - 0.52	埋土不明		
P81	0.37×0.30 - 1.07	暗褐色土、暗黄褐色土		P 122
P82	0.41×0.30 - 0.45	暗褐色土		P 326
P83	0.80×0.45 - 1.14	暗褐色土、暗黄褐色土		P 129
P84	0.26×0.25 - 0.20	暗褐色土		P 134
P85	0.72×0.60 - 0.60	埋土不明		P 160
P86	0.60×0.35 - 0.51	暗褐色土	柱痕あり	P 198
P87	0.30×0.28 - 0.31	埋土不明	土師質土器胴部小片	P 321
P88	0.48×0.44 - 0.66	黄褐色土	土師器口縁部小片	P 188
P89	0.50×0.48 - 0.99	暗褐色土、黄褐色土		P 184
P90	0.50×0.35 - 0.29	暗黄褐色土		P 196
P91	0.32×0.32 - 0.37	黒褐色土		P 248
P92	0.33×0.30 - 0.32	暗褐色土、黒褐色土		P 247

表15 ピット一覧表

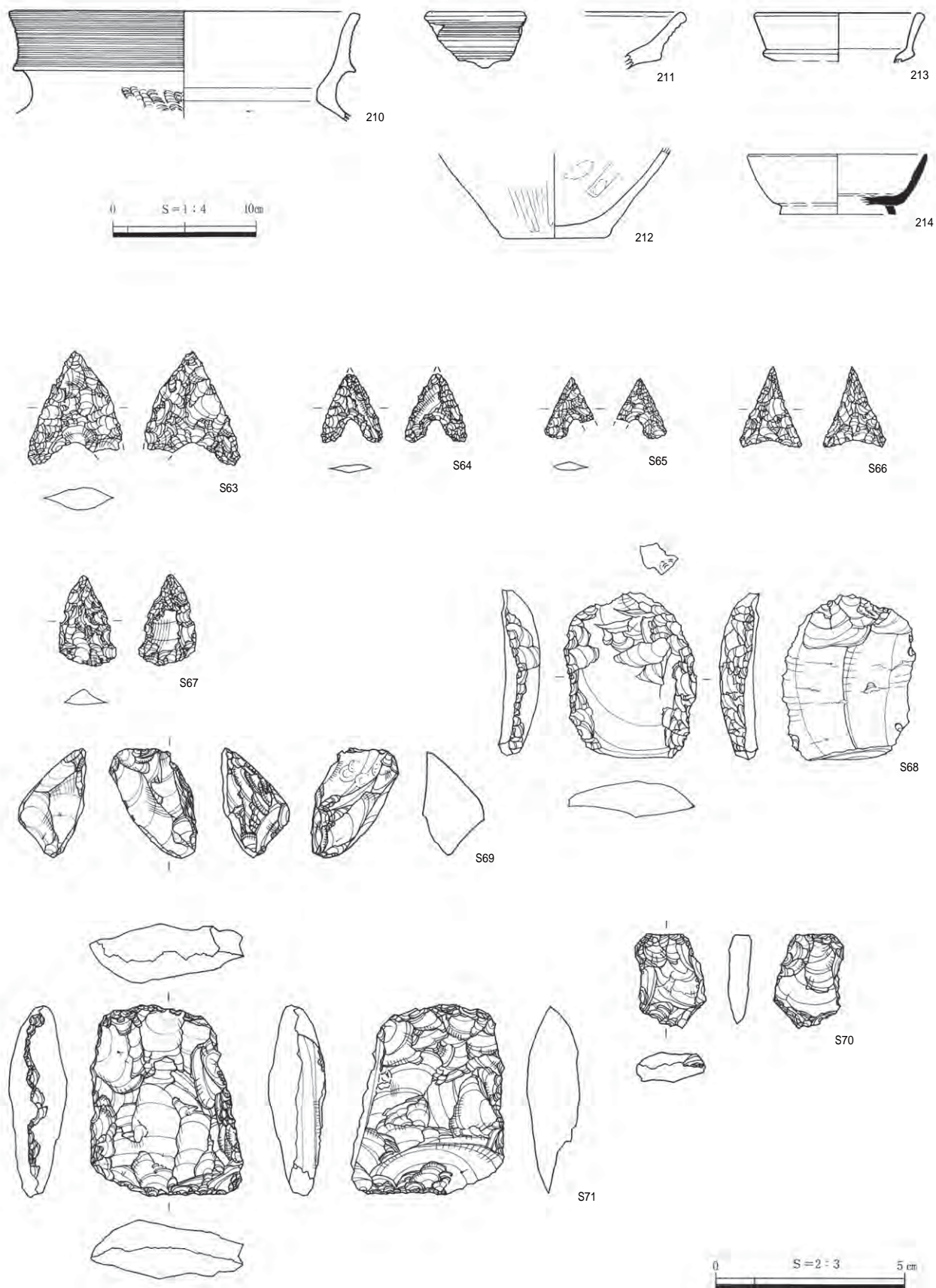
	規模 (長軸×短軸・深さ) m	埋土	備考	旧番号
P93	0.40×0.35 - 0.29	暗褐色土、暗黄褐色土	土師質土器胴部小片	P 251
P94	0.21×0.21 - 0.38	暗褐色土	土師器口縁部小片	P 291
P95	0.32×0.25 - 0.34	暗褐色土、褐色土		P 245
P96	0.30×0.30 - 0.45	暗褐色土		P 312
P97	0.25×0.22 - 0.31	暗褐色土		P 264
P98	0.26×0.25 - 0.72	暗褐色土?		P 335
P99	0.35×0.32 - 0.33	埋土不明		P 315
P100	0.52×0.20 - 0.87	埋土不明	黒曜石製剥片	P 270
P101	0.30×0.23 - 0.89	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 253
P102	0.45×0.25 - 0.30	暗褐色土		P 255
P103	0.34×0.30 - 0.31	埋土不明		P 334
P104	0.30×0.26 - 0.29	埋土不明		P 333
P105	0.30×0.30 - 0.57	埋土不明		P 337
P106	0.22×0.18 - 0.30	暗褐色土		P 311
P107	0.25×0.22 - 0.31	暗褐色土		P 265
P108	0.21×0.18 - 0.30	暗褐色土		P 310
P109	0.27×0.25 - 0.32	埋土不明		P 313
P110	0.26×0.22 - 0.22	埋土不明		P 272
P111	0.39×0.37 - 0.16	暗褐色土		P 257
P112	0.27×0.18 - 0.63	暗褐色土		P 289
P113	0.24×0.20 - 0.29	暗褐色土		P 307
P114	0.20×0.18 - 0.19	暗褐色土		P 262
P115	0.20×0.18 - 0.15	埋土不明		P 263
P116	0.27×0.23 - 0.18	暗褐色土		P 282
P117	0.38×0.38 - 0.30	暗褐色土	土師器口縁部小片	P 281
P118	0.31×0.29 - 0.48	埋土不明		
P119	0.30×0.26 - 0.54	暗褐色土		P 309
P120	0.40×0.32 - 0.45	暗褐色土	土師器高坏口縁部小片	P 308
P121	0.45×0.33 - 0.67	暗褐色土	土師器口縁部、胴部小片	P 284
P122	0.27×0.25 - 0.29	暗褐色土		P 288
P123	0.24×0.24 - 0.34	埋土不明		
P124	0.34×0.33 - 0.33	埋土不明		
P125	0.40×0.33 - 0.35	埋土不明		P 336
P126	0.37×0.32 - 0.31	埋土不明		P 318
P127	0.33×0.27 - 0.40	埋土不明	土師質土器胴部小片	P 317
P128	0.35×0.27 - 0.25	暗灰褐色土	弥生土器口縁部、胴部小片	P 260
P129	0.33×0.28 - 0.17	暗褐色土、暗黄褐色土	柱痕あり、土師質土器口縁部小片	P 267
P130	0.28×0.25 - 0.35	暗褐色土		P 298
P131	0.25×0.25 - 0.12	暗褐色土		P 303
P132	0.37×0.30 - 0.54	暗褐色土		P 296
P133	0.33×0.24 - 0.34	埋土不明		P 332
P134	0.30×0.30 - 0.32	埋土不明	土師質土器胴部小片	P 320
P135	0.32×0.30 - 0.38	埋土不明		P 329
P136	0.34×0.30 - 0.36	暗褐色土		P 299
P137	0.44×0.30 - 0.36	暗褐色土		P 297
P138	0.20×0.18 - 0.29	暗褐色土		P 300
P139	0.27×0.25 - 0.20	暗褐色土		P 301
P140	0.29×0.27 - 0.36	暗褐色土	土師質土器胴部小片	P 302
P141	0.32×0.25 - 0.18	埋土不明		P 330



第71図 2区ピット配置図



第72図 1区ピット配置図



第73図 ピットおよび遺構外の出土遺物

表16 土器・土製品観察表

遺構層位	挿図PL	器種	器高(cm) 口径(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
1	S11 2層	第11図 PL25	弥生土器 甕 9.6 16.6	1/3	外面：口縁部平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ，肩部刻目 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	やや密。1mm以下の長石を多含	外面：浅黄橙色-橙色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面スス付着
2	S11 埋土	第11図 PL23	弥生土器 甕 5.3 17.8	口縁部1/8	外面：口縁部平行沈線後一部ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。1mm以下の長石・石英を含む	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
3	S11 埋土	第11図 PL24	弥生土器 甕 3.7 18.4	口縁部1/10	外面：口縁部5条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ	密。2mm以下の長石・石英を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
4	S11 埋土	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.9 18.6	口縁部1/6	外面：口縁部8条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ一部ミガキ，頸部ナデ-ケズリ	密。1mm以下の石英を含む	外面：明赤褐色 内面：明黄褐色	良好	
5	S11 1層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.3 16.25	口縁部1/6	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部調整不明，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：橙色	良好	外面スス付着
6	S11 1層	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.8 15.4	口縁部1/4	外面：口縁部10条の多条平行沈線後一部ナデ消し，頸部調整不明 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ，指押さえ	密。2mm以下の白色砂粒を多含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
7	S11 1層	第11図 PL24	弥生土器 甕 3.7 14.9	口縁部1/6	外面：口縁部9条の平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
8	S11 1層	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.4 15.6	口縁部1/6	外面：口縁部11～12条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面スス付着
9	S11 埋土	第11図 PL24	弥生土器 甕 5.2 16.45	口縁部1/5	外面：口縁部多条平行沈線，頸部調整不明 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	やや密。2mm以下の長石・石英・輝石・雲母片を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	やや良	
10	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.6 13.8	口縁部1/8	外面：口縁部16条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヘラミガキ，頸部ヘラケズリ(一部ヘラミガキ)	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：褐色 内面：灰黄褐色-にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
11	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.5 17.6	口縁部1/5	外面：口縁部12条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヘラミガキ，頸部ケズリ	密。1mm以下の長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
12	S11 2層	第11図 PL23	弥生土器 甕 3.6 17.0	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。1mm以下の白色砂粒を多含	外面：明赤褐色 内面：明黄褐色	良好	外面スス付着
13	S11 1層	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.1 18.0	口縁部1/10	外面：口縁部ナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ後ナデ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：褐色 内面：褐色	良好	外面スス付着
14	S11 1層	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.3 15.8	口縁部1/7	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：褐色 内面：褐色	良好	
15	S11 1層	第11図 PL23	弥生土器 甕 5.4 16.0	口縁部1/4	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	やや密。4mm以下の長石・石英を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面スス付着
16	S11 床面直上	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.5 16.8	口縁部1/8	外面：口縁部ナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石・石英を微含	外面：明赤褐色 内面：灰黄褐色	良好	外面スス付着
17	S11 1層	第11図 PL24	弥生土器 甕 3.7 12.8	口縁部1/4	外面：口縁部平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	やや密。1mm以下の石英を含む	外面：灰白色-にぶい黄褐色 内面：灰白色	良好	外面頸部スス付着
18	S11 埋土	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.2 15.6	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部調整不明，頸部ヘラケズリ	やや密。1mm以下の長石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色-浅黄褐色	やや良	
19	S11 2層	第11図 PL23	弥生土器 甕 4.5 16.8	口縁部1/4	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
20	S11 表土	第11図 PL23	弥生土器 甕 3.2 13.6	口縁部1/8未満	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ-頸部ヘラケズリ	密。2mm長石・石英を微含	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	良好	
21	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.3 17.0	口縁部1/6	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
22	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.4 -	口縁部1/16	外面：口縁部16条の多条平行沈線 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石・石英を多含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
23	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 4.1 14.1	口縁部1/4	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部引刺突文 内面：口縁部調整不明，頸部ヘラケズリ	やや密。2mm以下の長石・石英・雲母片を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	やや良	外面スス付着
24	S11 表土	第11図 PL24	弥生土器 甕 2.3 -	底部完存	外面：ハケム，底面ナデ 内面：底部ケズリ	やや密。	外面：浅黄褐色-にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
25	S11 2層	第11図 PL24	弥生土器 甕 器高 2.3 底径5.2	底部完存	外面：調整不明，底面ナデ 内面：ヘラケズリ	密。2mm以下の長石を多含	外面：浅黄褐色 内面：灰白色	良好	外面スス付着
26	S11 床面直上	第12図 PL23	弥生土器 壺 6.7 13.3	1/3	外面：口縁部ヨコナデ-9条の平行沈線-ヨコナデ，頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ，頸部ミガキ	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	口縁部スス付着
27	S11 2層	第12図 PL23	弥生土器 壺 7.2 15.9	口縁部1/8	外面：口縁部9条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ-ミガキ，頸部ミガキ-ケズリ	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：褐色 内面：褐色	やや良	
28	S11 2層	第12図 PL23	弥生土器 甕 4.4 10.0	1/8	外面：口縁部ヨコナデ，頸部タテハケ，指頭圧痕 内面：口縁部ヨコナデ-ナデ，頸部左方向のヘラケズリ	密。1mm以下の白色砂粒を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
29	S11 1層	第11図 PL25	弥生土器 鉢 8.85 18.0	全体1/2	外面：ナデ，底部ナデ 内面：ナデ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス付着
30	S11 攪乱土	第12図 PL40	縄文土器 深鉢 3.1 -	口縁部1/12	外面：縄文-2条の爪形刺突文，口縁部連続刺突文 内面：縄文-ナデ	密。1mm以下の長石を多く含む。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
31	S12 1層	第13図 PL25	弥生土器 甕 5.8 23.0	口縁部1/6	外面：口縁部12条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	やや密。1mm以下の長石を多含	外面：明赤褐色 内面：褐色	良好	
32	S12 1層	第13図 PL25	弥生土器 甕 4.8 18.4	口縁部1/8	外面：口縁部11条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石・石英を多含	外面：褐色 内面：褐色	良好	外面スス付着
33	S12 1層	第13図 PL25	弥生土器 甕 4.4 15.5	口縁部1/8	外面：口縁部多条平行沈線 内面：調整不明	密。2mm以下の長石・石英・雲母片を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	
34	S12 1層	第13図 PL25	弥生土器 甕 5.1 20.5	口縁部1/6	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部一部ミガキ-ケズリ	密。	外面：褐色-にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
35	S12 1層	第13図 PL25	弥生土器 甕 -	口縁部1/8	外面：口縁部11条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ	密。2mm以下の長石・石英・輝石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
36	S12 埋土	第13図 PL25	弥生土器 甕 2.7 -	底部1/2	外面：ヘラミガキ，底面ナデ 内面：底部ケズリ	密。1mm以下の長石・石英を含む	外面：にぶい褐色-褐色 内面：黄褐色	良好	
37	S13 5層	第20図 PL26	弥生土器 甕 5.4 19.0	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石を多含	外面：明褐色 内面：明褐色	良好	
38	S13 埋土	第20図 PL26	弥生土器 甕 5.6 18.4	口縁部1/2-1/4	外面：口縁部10条の多条平行沈線後一部ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ後ミガキ，頸部ヘラケズリ	密。3mm以下の長石，長石を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい褐色	良好	口縁部一部スス付着
39	S13 埋土	第20図 PL26	弥生土器 甕 4.5 13.3	口縁部1/2	外面：口縁部5条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ，貝殻腹縁による刻み 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ後ヨコナデ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：褐色 内面：褐色	良好	
40	S13 13層	第20図 PL26	弥生土器 甕 4.4 13.6	口縁部1/8	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラミガキ	密。2mm以下の長石を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：明赤褐色	良好	
41	S13 1層	第20図 PL26	弥生土器 甕 4.65 16.5	口縁部1/7	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，ヘラケズリ	密。1mm以下の長石・石英を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
42	S13 埋土	第20図 PL26	弥生土器 高坏 5.0 21.65	口縁部1/8	外面：口縁部ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ	密。2mm以下の長石を含む	外面：明赤褐色 内面：にぶい褐色	良好	外面赤色塗彩
43	S13 床面直上	第20図 PL26	ミニチュア土器 3.2	1/4	外面：ヘラミガキ，工具による刻み 内面：ナデ	密。1mm以下の長石を微含	外面：灰黄褐色 内面：褐色	良好	
44	S13 床面直上	第20図 PL26	土玉 1.25	1/2	外面：ミガキ	密。2mm以下の長石を微含	外面：黒-にぶい褐色	良好	
45	S13 2層	第20図 PL26	粘土塊 6.75	完存	外面：ナデ	密。1mm以下の白色砂粒を含む。	外面：黒褐色	良好	

第3章 調査の成果

表17 土器・土製品観察表

遺構層位	挿図PL	器種	器高(cm) 口径(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
46	S13 床面直上	第20図 PL.26	粘土塊	6.0	完存	外面：ナデ	外面：黒褐色～浅黄	良好	
47	S14 46層	第21図 PL.26	弥生土器 甕	4.5 17.0	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	口縁部スス付着
48	S15 床面直上	第23図 PL.27	弥生土器 甕	8.3 14.8	口縁部完存	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部貝殻腹縁による刻み 内面：口縁部ヨコナデ，頸部～胴部ケズリ後ナデ	外面：黄褐色～橙色 内面：黄褐色	良好	外面スス付着
49	S15 1層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	6.9 12.7	口縁部1/6	外面：口縁部5条の平行沈線，頸部ナデ，ヘラ状工具による刺突 内面：口縁部ナデ後ミガキ，頸部～胴部ケズリ	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面頸部スス付着
50	S15 埋土	第23図 PL.29	弥生土器 甕	6.8 18.2	口縁部1/4	外面：口縁部10条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ後ヘラミガキ，頸部ヘラケズリ	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面口縁部スス付着
51	S15 1層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	3.9 15.2	口縁部1/8	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	外面スス付着
52	S15 埋土	第23図 PL.29	弥生土器 甕	5.4 15.8	口縁部1/4	外面：調整不明 内面：調整不明	外面：橙色 内面：橙色	良好	
53	S15 5層	第23図 PL.29	弥生土器 甕	4.2 16.4	口縁部5/12	外面：口縁部8条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	外面スス付着
54	S15 床面直上	第23図 PL.27	弥生土器 甕	4.9 13.2	口縁部1/2	外面：口縁部調整不明，頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ後ナデ	外面：にぶい黄褐色～橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	内外面赤彩痕 外面スス付着
55	S15 4層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	4.3 15.0	口縁部1/2	外面：口縁部6～7条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色～灰色	良好	外面スス少量 付着，赤彩痕 あり 内面黒斑あり
56	S15 2層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	3.6 16.8	口縁部1/4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部左方向のヘラケズリ	外面：浅黄褐色～にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色～にぶい黄褐色	良好	外面一部スス付着
57	S15 埋土	第23図 PL.28	弥生土器 甕	5.5 16.7	口縁部1/8未 満	外面：口縁部7条の多条平行沈線後一部ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	外面：明赤褐色 内面：橙色	良好	内外面赤彩
58	S15 埋土	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.1 13.0	口縁部1/6	外面：口縁部5条の平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ミガキ～ケズリ	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	外面スス付着
59	S15 埋土	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.0 15.4	口縁部1/6	外面：口縁部6～7条の多条平行沈線後一部ナデ消し，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ミガキ，頸部ケズリ	外面：赤色 内面：赤色，黒色	良好	内外面赤彩
60	S15 3層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.8 18.1	口縁部1/8以 下	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ミガキ，頸部ミガキ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
61	S15 床面直上	第23図 PL.28	弥生土器 甕	4.1 16.7	口縁部1/4強	外面：口縁部10条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ，頸部ヘラケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
62	S15 埋土	第23図 PL.30	弥生土器 甕	3.1 14.5	口縁部1/8	外面：口縁部調整不明，頸部ナデ 内面：ナデ，ミガキ，ケズリ	外面：浅黄褐色～淡褐色 内面：浅黄褐色	良好	
63	S15 1層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	4.0 16.7	口縁部1/8	外面：口縁部多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
64	S15 1層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	4.5 18.2	口縁部1/6	外面：口縁部9条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ後ミガキ，頸部ケズリ	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面スス付着
65	S15 3層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.9 19.4	口縁部1/6	外面：口縁部工具によるヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
66	S15 2層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.0 12.0	口縁部1/6	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	外面スス付着
67	S15 埋土	第23図 PL.30	弥生土器 甕	5.2 15.7	口縁部1/4弱	外面：口縁部6～9条の多条平行沈線，頸部ナデ，肩部貝殻腹縁による押し刺突文 内面：口縁部ミガキ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
68	S15 2層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	5.0 16.5	口縁部1/7	外面：口縁部9条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ後ナデ	外面：橙色 内面：橙色	良好	
69	S15 2層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	4.0 17.5	口縁部1/8	外面：口縁部8条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス付着
70	S15 2層	第23図 PL.30	弥生土器 甕	3.7 14.6	口縁部1/6	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部貝殻腹縁による押し刺突文 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ後ナデ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面頸部スス付着
71	S15 2層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	3.5 13.3	口縁部1/4	外面：調整不明 内面：口縁部調整不明，頸部ケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	
72	S15 埋土	第23図 PL.28	弥生土器 甕	5.0 15.1	口縁部1/8	外面：口縁部7～9条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄色	良好	外面スス付着
73	S15 1層	第23図 PL.28	弥生土器 甕	5.0 13.1	口縁部1/8	外面：口縁部7～8条の多条平行沈線，頸部調整不明 内面：口縁部調整不明，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄色～橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
74	S15 2層	第24図 PL.29	弥生土器 甕	5.6 17.8	口縁部1/3	外面：口縁部6～7条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ミガキ～ケズリ後ナデ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面口縁部スス付着，一部 黒斑あり
75	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 甕	4.5 14.7	口縁部1/6	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部貝殻腹縁による刺突文 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ	外面：褐色～橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
76	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 甕	5.4 16.8	口縁部1/8以 下	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部調整不明 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	
77	S15 埋土	第24図 PL.28	弥生土器 甕	5.1 16.6	口縁部1/8以 下	外面：口縁部10条の多条平行沈線 内面：ミガキ	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	やや良	外面赤彩後に スス付着，内 面赤彩塗彩
78	S15 2層	第24図 PL.28	弥生土器 甕	4.2 14.0	口縁部1/4	外面：口縁部8条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	良好	
79	S15 埋土	第24図 PL.30	弥生土器 甕	3.8 16.3	口縁部1/8	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：ヨコナデ	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面スス付着
80	S15 埋土	第24図 PL.28	弥生土器 甕	3.5 15.4	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部調整不明 内面：口縁部調整不明，頸部左方向のヘラケズリ後ナデ	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	全体にスス付着
81	S15 3層	第24図 PL.30	弥生土器 甕	5.2 16.7	口縁部1/8以 下	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	良好	外面スス付着
82	S15 埋土	第24図 PL.28	弥生土器 甕	4.4 16.3	口縁部1/8以 下	外面：口縁部5条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部調整不明	外面：明黄褐色 内面：黄褐色	良好	外面スス付着
83	S15 埋土	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.0	底部ほぼ完 存	外面：ナデ後ミガキ 内面：ヘラケズリ後ミガキ	外面：橙色～褐色 内面：灰色	良好		
84	S15 23層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.2	底部1/3	外面：ナデ，底面ヘラケズリ後ナデ 内面：ヘラケズリ，指押え	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着	
85	S15 1層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 6.0	底部1/2	外面：ナデ 内面：指押え	外面：明黄褐色～灰色 内面：明黄褐色～灰色	良好		
86	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.9	底部1/8	外面：ハケム 内面：下から上へのヘラケズリ，指押え	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄色	良好	外面スス付着	
87	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.4	底部1/2	外面：ミガキ，底面ナデ 内面：ケズリ，ナデ	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着	
88	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.6	底部1/4	外面：ヘラミガキ，底面ナデ 内面：ケズリ	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス付着	
89	S15 2層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 6.8	底部1/6	外面：ナデ，底面ケズリ後ナデ 内面：ヘラ状工具によるミガキ	外面：橙色～にぶい黄褐色 内面：灰色～にぶい黄色	良好	内面黒斑あり	
90	S15 1層	第24図 PL.30	弥生土器 底径 4.0	底部1/4	外面：ナデ 内面：ケズリ	外面：橙色 内面：橙色	良好		

表18 土器・土製品観察表

遺構層位	押図PL	器種	器高(cm) 口径(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
91	S15 2層	第24図 PL.27 弥生土器	7.8 底径 4.9	底部完存	外面：ヘラミガキ，指押え 内面：ケズリ	密。2mm以下の白色砂粒を含む	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	やや良	
92	S15 埋土	第24図 PL.28 弥生土器 器台	5.0 18.5	口縁部1/6	外面：口縁部13条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部ミガキ 内面：ミガキ	密。	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色	良好	内外面赤色塗彩
93	S15 2層	第24図 PL.27 弥生土器 器台	9.3 底径 13.3	脚部ほぼ完存	外面：ミガキ，ナデ，ヨコナデ 内面：ヘラケズリ，ミガキ	密。1mm以下の白色砂粒を微含	外面：橙色 - 黄橙色 内面：橙色 - 黄橙色	良好	
94	S15 1層	第24図 PL.27 弥生土器 高坏	9.0 底径 10.2	底部完存	外面：調整不明，平行沈線 内面：ナデ，ヘラケズリ	密。1mm以下の白色砂粒を多含	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	
95	S15 埋土	第24図 PL.27 弥生土器 手づくね 土器	3.9 4.8	完形	外面：口縁部刺突文，体部指押え 内面：口縁部 - 体部ケズリ	密。2mm以下の白色砂粒を多含	外面：にぶい黄橙色 内面：明黄褐色	良好	
96	S16 4層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	21.2 16.3	口縁部ほぼ完存	外面：口縁部11 - 12条の多条平行沈線，胴部10条の沈線，7 - 8条の波状文 - ハケメ - ミガキ 内面：口縁部 - 頸部ヨコナデ - 指押え，胴部ケズリ後ミガキ	密。2mm以下の石英・長石を含む	外面：浅黄橙色 内面：灰白色 - 明黄褐色	良好	内外面スス少量付着
97	S16 4層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	3.6 13.8	口縁部1/8	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	密。1mm以下の白色砂粒を含む	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	良好	外面スス付着
98	S16 4層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	3.1 19.2	口縁部1/8	外面：口縁部刺突文 内面：口縁部ナデ	密。2mm以下の石英・長石の砂粒を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	内外面赤色塗彩
99	S16 4層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	2.5 10.6	口縁部1/6	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ消し，頸部貝殻による刺突文 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。1mm以下の石英・長石の砂粒を含む	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
100	S16 4層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	3.3 18.0	口縁部1/6	外面：口縁部ミガキ，頸部ミガキ 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ後ミガキ	密。1mm以下の白色砂粒，雲母片を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
101	S16 4層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.7 18.5	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ後ミガキ	密。2mm以下の石英を含む	外面：浅黄褐色 - 灰白色 内面：灰白色	良好	内外面スス付着
102	S16 4層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.3 15.4	口縁部1/10	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ミガキ後ナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の石英・長石を含む	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス少量付着
103	S16 1層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	2.2 12.0	口縁部1/4	外面：細かいヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ，頸部ヘラケズリ	密。3mm以下の石英・長石を含む	外面：橙色 内面：褐灰色	良好	
104	S16 4層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.8 17.0	口縁部1/8	外面：口縁部6条の多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：調整不明	やや粗。1mm以下の長石を含む	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄褐色	やや不良	外面スス付着
105	S16 2層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	5.5 16.1	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線後ナデ消し，頸部刻み - ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。3mm以下の長石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス付着
106	S16 埋土	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.7 18.6	口縁部1/10	外面：口縁部8 - 9条の多条平行沈線後ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の石英を含む	外面：灰白色 - 黄褐色 内面：灰白色 - 黄褐色	良好	外面スス付着
107	S16 10層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	6.7 16.3	口縁部1/4	外面：口縁部4条の多条平行沈線 - ナデ消し，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	やや密。3mm以下の石英・長石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	やや良	外面スス付着
108	S16 埋土	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.0 14.4	口縁部1/6	外面：口縁部11条の平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：ナデ	密。2mm以下の石英を普通に含む	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面一部スス付着
109	S16 3層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	4.0 14.6	口縁部1/6	外面：口縁部平行沈線後ナデ消し，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の石英を多く含む	外面：橙色 - 浅黄褐色 内面：橙色 - 浅黄褐色	良好	外面スス付着
110	S16 10層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	5.1 17.8	口縁部1/6	外面：口縁部平行沈線後上部をナデ消し，頸部調整不明（ナデ？） 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面一部スス付着
111	S16 3層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	4.3 13.8	口縁部1/8	外面：口縁部7条の多条平行沈線後ナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ	密。1mm以下の石英・長石・輝石を含む	外面：橙色 内面：橙色	良好	
112	S16 1層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.85 15.2	口縁部1/12	外面：口縁部11条の多条平行沈線，頸部ナデ 内面：口縁部ナデ - ミガキ，頸部ヘラケズリ	密。1mm以下の石英・雲母片を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス付着
113	S16 3層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	4.7 18.0	口縁部1/10	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ消し 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の白色砂粒を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス少量付着
114	S16 3層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	3.1 13.6	口縁部1/6	外面：口縁部6条の平行沈線（上部沈線施文後ナデ），頸部ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ミガキ	密。2mm以下の白色砂粒・雲母片を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
115	S16 10層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	5.2 19.5	口縁部1/4	外面：口縁部11条の多条平行沈線後ナデ，頸部3条の平行沈線後ナデ消し 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	密。4mm以下の石英・長石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
116	S16 3層	第28図 PL.31 弥生土器 椀	5.2 17.6	口縁部8/1以下	外面：口縁部波状文，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ヘラケズリ	密。2mm以下の石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
117	S16 3層	第28図 PL.32 弥生土器 椀	2.4 15.1	口縁部1/4	外面：口縁部10条の平行沈線 内面：口縁部ヨコナデ	密。2mm以下の長石を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	やや良	
118	S16 3層	第28図 PL.31 弥生土器 底部	2.5 底径 5.0	底部1/2	外面：底部ハケメ，底面ナデ 内面：底部指押え，ヘラケズリ	密。2mm以下の石英・長石を含む	外面：暗灰黄色 内面：灰褐色	良好	
119	S16 12層	第28図 PL.31 弥生土器 底部	8.3 底径3.8	底部完形	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	やや密。3mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面スス付着
120	S16 埋土	第28図 PL.31 弥生土器 底部	2.7 底径 5.1	底部1/2	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	密。2mm以下の長石を多含	外面：明黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
121	S16 3層	第29図 PL.31 弥生土器 壺	3.8 14.6	口縁部1/12	外面：口縁部ナデ，頸部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。4mm以下の石英・雲母片を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	内外面赤彩
122	S16 埋土	第29図 PL.30 弥生土器 壺	4.8 -	頸部1/8	外面：ナデ - 竹管文 内面：ヘラケズリ	密。1mm以下の石英・長石を多含	外面：明黄褐色 内面：明黄褐色	良好	外面黒斑あり
123	S16 2層	第29図 PL.31 弥生土器 壺	6.3 13.2	1/8弱	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ハケメ，ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。1mm以下の石英・長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面黒斑あり
124	S16 11層	第29図 PL.31 弥生土器 壺	10.6 -	胴部1/4	外面：ナデ 内面：ナデ - ヘラケズリ	やや密。3mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面被熱による剥離痕あり
125	S16 埋土	第29図 PL.31 弥生土器 器台	2.7 20.1	口縁部1/8	外面：調整不明 内面：調整不明	やや密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	
126	S17 1層	第32図 PL.32 弥生土器 椀	4.5 14.6	口縁部1/4	外面：口縁部多条平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色 - 灰褐色	良好	内外面黒斑あり
127	S17 2層	第32図 PL.32 弥生土器 椀	4.3 15.4	1/4以下	外面：口縁部10条の平行沈線，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。3mm以下の石英を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
128	S17 2層	第32図 PL.32 弥生土器 鉢	5.45 12.2	1/2	外面：口縁部ヨコナデ，ヘラケズリ後ヨコナデ，ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	密。1mm以下の長石を多含	外面：にぶい黄褐色 - 褐灰色 内面：にぶい黄褐色 - 褐灰色	良好	
129	S17 2層	第32図 PL.32 弥生土器 低脚坏	器高 3.2 底径7.4	底部完存	外面：ナデ，指頭圧痕 内面：ナデ	密。2mm以下の長石・石英・雲母片を含む	外面：明褐灰色 内面：明褐灰色	良好	内面一部黒斑
130	S17 攪乱土	第32図 PL.32 土玉	3.8 -	完存	外面：調整不明 内面：-	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：橙色 - にぶい黄褐色 内面：-	良好	
131	S18 7層	第39図 PL.35 土師器 椀	8.9 9.35	3/4	外面：口縁部ヨコナデ，調整不明 内面：口縁部ヨコナデ，ヘラケズリ	密。0.5mm以下の長石の砂粒を含む	外面：橙色 内面：橙色	やや良	
132	S18 床面直上	第39図 PL.34 土師器 椀	7.7 15.2	口縁部1/5	外面：口縁部ヨコナデ，頸部 - 胴部調整不明 内面：調整不明	密。2mm以下の石英を微含	外面：黄褐色 内面：黄褐色	良好	
133	S18 7層	第39図 PL.35 土師器 椀	6.8 23.5	1/4	外面：調整不明 内面：調整不明	普通。1mm以下の白色砂粒を含む	外面：橙色 内面：橙色	良好	
134	S18 15層	第39図 PL.34 土師器 椀	10.15 10.0	1/4	外面：調整不明 内面：調整不明	普通。1mm以下の長石を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや粗	外面スス付着
135	S18 5層	第39図 PL.35 土師器 椀	7.5 17.9	1/4	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
136	S18 5層	第39図 PL.33, 34 土師器 椀	4.7 17.7	1/12	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	やや密。2mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	やや良	口縁部赤色塗彩

第3章 調査の成果

表19 土器・土製品観察表

遺構層位	挿図PL	器種	器高(cm) 口径(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
S18 3層	第39図	土師器 甕	4.8 12.6	1/4	外面：調整不明 内面：調整不明	普通。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	普通	
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 甕	5.5 21.6	1/5	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ	密。1mm以下の石英・輝石・雲母を含む	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	良好	
S18 3層	第39図 PL.34	土師器 甕	4.7 15.5	1/3	外面：調整不明 内面：調整不明	密。2mm以下の長石，石英を含む	外面：赤褐色 内面：橙色	良好	内外面赤変
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 甕	4.3 13.8	1/4	外面：口縁部・頸部ヨコナデ 内面：調整不明	密。3mm以下の石英，雲母片，長石を含む	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 甕	5.2 16.0	1/6	外面：調整不明 内面：口縁部調整不明，頸部ケズリ	やや密。2mm以下の石英を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良	
S18 7層	第39図 PL.33	土師器 甕	5.2 16.0	1/6	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	密。1mm以下の長石・石英・雲母片を微含	外面：浅黄褐色 内面：橙色	良好	
S18 3層，床面直上	第39図 PL.34	土師器 甕	7.1 13.4	1/4	外面：調整不明 内面：口縁部・頸部ヨコナデ，体部ヘラケズリ，指押え	やや密。2mm以下の石英・長石・雲母片を含む	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面頸部赤彩痕
S18 床面直上	第39図 PL.33	土師器 甕	5.2 15.5	1/8	外面：調整不明 内面：調整不明	やや密。2mm以下の長石・石英・雲母片・輝石を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	やや良	
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 甕	5.15 13.5	口縁部1/5	外面：口縁部ヨコナデ，平行沈線後ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	やや密。2mm以下の石英・長石，雲母片を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
S18 床面直上	第39図 PL.33	土師器 壺	4.5 12.4	1/8	外面：調整不明 内面：口縁部調整不明，頸部ケズリ	やや密。1mm以下の石英を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	普通	
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 高坏	4.55 18.5	1/5	外面：調整不明 内面：調整不明	やや密。1mm以下の輝石を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	普通	
S18 7層	第39図 PL.33	土師器 高坏	5.1 13.2	1/5	外面：ヨコナデ 内面：調整不明	密。1mm以下の石英を微含	外面：橙色 内面：橙色	良好	
S18 3層	第39図	土師器 低脚坏	5.5 14.0	1/4	外面：ヨコナデ，脚部ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ，脚部ナデ	やや密。1mm以下の長石・石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S18 7層	第39図 PL.33	土師器 高坏	6.0	肩部上部3/4	外面：坏部ナデ後ミガキ，肩部ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	密。1mm以下の長石・石英・雲母片を微含	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	三方の透かし孔あり
S18 床面直上	第39図 PL.33	土師器 低脚坏	3.4 底径 6.4	1/3	外面：調整不明 内面：調整不明	やや密。1mm以下の石英，長石を微含	外面：淡黄色 内面：淡黄色	普通	
S18 8層	第39図 PL.33	土師器 低脚坏	2.3 -	2/3	外面：調整不明 内面：坏部底面ナデ，その他の調整不明	やや密。2mm以下の長石・石英を微含	外面：浅黄色 内面：浅黄色	普通	
S18 9層	第39図 PL.34	土師器 鼓形器台	7.4 21.6	1/9	外面：調整不明 内面：調整不明	普通。1mm以下の長石を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	やや粗	
S18 3層	第39図 PL.33	土師器 鼓形器台	4.5 底径 17.1	1/5	外面：脚部ヨコナデ 内面：脚部ナデ・ケズリ。調整不明	密。2mm以下の石英を微含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	やや良	
S18 5層	第39図 PL.33	円盤形土製品	6.3 -	完存	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	普通。1mm以下石英・長石を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S18 3層	第39図 PL.33	土錘	最大長：2.1 最大幅：3.3 最大厚：1.5	ほぼ完存	外面：ハケ状工具？によるハケメ	4mm以下の白色・橙色の砂粒を多含	外面：黒褐	良好	
S18 2層	第40図 PL.34	土師器 甕	9.25 底径 39.2	底部1/8	外面：ナデ，一部指押え 内面：ケズリ後ナデ，一部指押え	密。2mm以下の長石・石英・輝石，雲母片を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	内外面スス付着
S18 7層	第40図 PL.33	弥生土器 甕	4.3 16.4	1/8	外面：口縁部多条平行沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ミガキ，頸部ケズリ	やや密。0.5mm以下の長石，石英を多含	外面：褐灰色～灰黄褐色 内面：明黄褐色，灰色	良好	外面スス付着，黒斑あり
S18 7層	第40図 PL.33	弥生土器 甕	3.7 16.3	1/8	外面：口縁部ヨコナデ～4条以上の沈線後ナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ケズリ	密。1mm以下の長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S18 埋土	第40図 PL.33	弥生土器 甕	3.25 15.05	1/5	外面：口縁部多条平行沈線後ヨコナデ，頸部ナデ 内面：口縁部・頸部ミガキ後ヨコナデ	密。2mm以下の長石・石英・雲母片をわずかに含む。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面頸部スス付着
S18 7層	第40図 PL.33, 35	須恵器 坏身	3.3 11.4	1/3	外面：口縁部・体部回転ナデ，底部ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	密。1mm以下の長石を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
S18 3層	第40図 PL.33	須恵器 坏身	- 13.2	1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密。1mm以下の長石を微含	外面：黄灰色 内面：灰色	良好	
S18 3層	第40図 PL.35	須恵器 坏身	3.75 12.6	1/8	外面：回転ナデ，底部回転糸切り 内面：回転ナデ，底部ナデ	密。2mm以下の長石を含む	外面：灰オリブ色 内面：灰オリブ色	良好	
S18 7層	第40図 PL.33	須恵器 坏身	4.1 13.0	1/7	外面： 内面：	密。2mm以下の白色砂粒を含む。	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
S19 床面直上	第44図	土師器 甕	22.4 16.5	8/9	外面：口縁部・頸部ヨコナデ，胴部ハケメ 内面：胴部ケズリ～指押え	密。2mm以下の長石・石英，輝石を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	良好	内外面スス付着
S19 床面直上	第44図 PL.36	土師器 甕	13.6 14.1	1/2	外面：口縁部ヨコナデ，胴部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，胴部指押え～ナデ，ヘラケズリ	やや密。2mm以下の石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：橙色	良好	胴部外面スス付着
S19 8層	第44図 PL.35	土師器 甕	11.0 15.8	1/4	外面：ヨコナデ～ハケ後ナデ 内面：ヨコナデ～ケズリ	密。3mm以下の長石・石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S19 埋土	第44図 PL.35	土師器 甕	13.0 18.0	上部1/4	外面：口縁部ヨコナデ，胴部ハケメ 内面：調整不明	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：明黄褐色 内面：橙	良好	
S19 床面直上	第44図 PL.36	土師器 甕	14.5 17.2	上部ほぼ完存	外面：口縁部ヨコナデ，胴部ミガキ～波状文～ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，胴部ケズリ	密。3mm以下の石英・長石を多含	外面：黄褐色～浅黄褐色 内面：浅黄褐色～にぶい黄褐色	良好	
S19 床面直上	第44図 PL.35, 36	土師器 甕	11.5 15.8	上部1/4	外面：ヨコナデ 内面：ケズリ	密。2mm以下の輝石・雲母片を含む	外面：浅黄褐色 内面：橙色	良好	
S19 床面直上	第44図 PL.36	土師器 甕	13.3 14.4	全体3/4	外面：口縁部ヨコナデ，胴部波状文～ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ	密。	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S19 2層，8層	第44図 PL.35	土師器 甕	5.6 15.1	2/3	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ヨコナデ 内面：口縁部・頸部ヨコナデ，体部ケズリ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：浅黄褐色 内面：黄褐色	良好	口縁部一部スス付着
S19 8層	第44図 PL.35	土師器 坏	3.5 17.4	1/5	外面：体部ナデ 内面：体部ナデ(一部風化により調整不明)	密。1mm以下の長石と石英の砂粒を多く含む。	外面：浅黄色～橙色 内面：浅黄色～橙色	良好	
S110 埋土	第47図 PL.37	土師器 甕	14.1 13.1	1/2	外面：口縁部ナデ，胴部タテハケ～ナデ 内面：口縁部ナデ，胴部左方向のヘラケズリ	やや密。3mm以下の長石・石英を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	外面一部スス付着
S110 4層	第47図 PL.37	土師器 甕	11.4 12.7	全体1/3	外面：口縁部ヨコナデ，胴部ハケメ，ナデ，底部ナデ 内面：口縁部ナデ，胴部～底部ケズリ	密。2mm以下の白色砂粒を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	外面スス付着
S110 4層	第47図 PL.37	土師器 甕	8.6 15.6	口縁部1/4	外面：口縁部・頸部ナデ，胴部ハケメ，指押え 内面：口縁部ナデ，頸部～胴部ケズリ後ナデ	密。2mm以下の長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：灰黄褐色～にぶい黄褐色	良好	外面黒斑あり
S110 1層	第47図 PL.38	土師器 甕	4.6 16.5	1/4	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ヨコナデ，頸部ヘラケズリ	密。3mm以下の石英・長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
S110 1層	第47図 PL.38	土師器 甕	5.9 12.9	1/8	外面：口縁部ナデ，頸部～体部ハケメ 内面：口縁部ナデ，頸部～体部左方向のヘラケズリ	密。2mm以下の長石を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	口縁部内部赤彩痕あり 全体にスス付着
S110 床面直上	第47図 PL.37	土師器 甕	5.5 12.8	7/12	外面：口縁部ナデ，頸部～体部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部～体部ヘラケズリ	密。2mm以下の長石(白色砂粒)を多含	外面： 内面：	良好	
S110 4層	第47図 PL.38	土師器 甕	5.7 13.8	1/6	外面：口縁部ナデ，頸部ハケメ～ナデ 内面：口縁部ナデ，頸部ケズリ	密。3mm以下の石英・長石を多含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
S110 埋土	第47図 PL.38	土師器 甕	4.4 15.0	1/8未満	外面：口縁部ヨコナデ，頸部ハケメ後ミガキ 内面：口縁部調整不明，頸部ヘラケズリ	密。1mm以下の石英・長石を多含	外面：褐灰色 内面：褐灰色～にぶい黄褐色	良好	外面黒斑あり
S110 1層	第47図 PL.38	須恵器 坏蓋	3.9 11.6	口縁部1/4	外面：回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密。	外面：灰色 内面：灰色	良好	

表20 土器・土製品観察表

遺構・地区・層位名	挿図・PL	器種	器高(cm) 口径(cm)	残存率	調整・文様	胎土	色調	焼成	備考
183	S10 2層	第47図 PL.37 須恵器 坏蓋	3.4 12.9	1/5	外面：回転ナデ。天井部回転ヘラ切り未調整 内面：回転ナデ。天井部不整方向のナデ	密。2mm以下の白色砂粒を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
184	S10 2層	第47図 PL.38 須恵器 坏身	3.6 10.2	口縁部1/4	外面：回転ナデ～回転ケズリ 内面：回転ナデ後不定方向のナデ	密。2mm以下の白色砂粒を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
185	S10 2層	第47図 PL.38 須恵器 坏身	1.8 13.2	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密。2mm以下の白色砂粒を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
186	S10 1層	第47図 PL.38 須恵器 坏蓋	— 12.3	1/3	外面：ケズリ～回転ナデ 内面：回転ナデ	密。3mm以下の石英を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
187	S10 5層	第47図 PL.38 須恵器 坏身	2.3 11.9	口縁部1/8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密。1mm以下の白色砂粒を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
188	S10 2層	第47図 PL.38 須恵器 坏身	1.8 9.5	口縁部1/5	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密。2mm以下の長石・石英を微含	外面：灰色 内面：灰色	良好	
189	S10 埋土	第47図 PL.38 弥生土器 壺	6.1 18.0	1/8	外面：調整不明 内面：口縁部・頸部ナデ	普通。1mm以下の長石・石英を含む	外面：黄褐色 内面：黄褐色	不良	
190	S10 2層	第47図 PL.38 弥生土器 甕	4.6 16.4	口縁部1/5	外面：口縁部平行沈線後ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ミカキケズリ	密。3mm以下の白色砂粒を多含	外面：橙色 内面：橙色	良好	外面赤彩痕、スス付着あり
191	S10 2層	第47図 PL.38 弥生土器 甕	6.4 17.5	1/10	外面：口縁部多条平行沈線、頸部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ケズリ後ナデ	密。2mm以下の石英を多含	外面：浅黄色 内面：浅黄色	良好	外面スス付着
192	S10 攪乱土	第47図 PL.38 弥生土器 甕	4.6 15.6	1/8	外面：口縁部13条の多条平行沈線～ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部工具によるヨコナデ、頸部左方向へのヘラケズリ	密。1mm以下の石英を多含	外面：浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
193	S10 貼床内	第47図 PL.38 弥生土器 甕	4.3 16.0	1/4	外面：口縁部平行沈線後ナデ消し、頸部ナデ 内面：口縁部ナデ、頸部ケズリ	密。1mm以下の長石を多含	外面：灰黄褐色～浅黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	外面スス少量付着
194	S10 1層	第47図 PL.40 縄文土器 深鉢	2.9 —	1/8以下	外面：貼付突帯 内面：—	密。2mm以下の白色砂粒を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	普通	
195	S11 6層	第50図 PL.39 土師器 甕	21.1 23.8	ほぼ完存	外面：口縁部～頸部ナデ、胴部ハケメ後ナデ 内面：口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ	密。2mm以下の長石・石英を含む	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	良好	
196	S11 床面直上	第50図 PL.39 土師器 甕	15.0 22.0	1/3	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	やや密。5mm以下の長石・石英を多含	外面：黄褐色 内面：にぶい黄褐色～黄褐色	やや良	内面黒斑あり
197	S11 4層	第50図 PL.39 土師器 甕	9.0 14.4	3/8	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ 内面：口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ後ヘラミカキ	やや密。2mm以下の長石・石英を多含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	やや良	口縁部内面一部黒斑あり
198	S11 6層	第50図 PL.40 須恵器 坏身	4.0 12.5	全体1/5	外面：回転ナデ～回転ヘラケズリ、底部ヘラギリ未調整 内面：回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	密。1mm以下の白色砂粒を微含	外面：灰白色 内面：灰白色	良好	
199	S11 4層	第50図 PL.40 須恵器 坏身	1.1 10.6	1/4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密。	外面：灰オリーブ色 内面：灰色	良好	
200	S11 5層	第50図 PL.40 須恵器 坏身	1.8 底径3.2	底部1/2	外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密。1mm以下の長石・石英を多含	外面：褐灰色 内面：褐灰色	良好	
201	SS1 2層	第54図 PL.40 土師器 甕	5.0 11.8	口縁部1/6	外面：ヨコナデ～ハケメ 内面：調整不明～ケズリ	密。1mm以下の長石・石英を含む	外面：橙色 内面：浅黄褐色	やや良	
202	SS1 5層	第54図 PL.40 須恵器 蓋	2.6 —	約1/4	外面：左方向の回転ヘラケズリ～回転ナデ 内面：回転ナデ	やや密。1mm以下の白色砂粒を微含	外面：橙色 内面：橙色	不良	
203	SS1 2層	第54図 PL.40 須恵器 坏身	器高4.75 口径12.4 底径3.9	約1/2	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密。	外面：灰色 内面：灰色	良好	
204	SS1 埋土	第54図 PL.40 須恵器 高台坏	器高4.45 口径13.7 底径7.8	1/3	外面：回転ナデ、底部切り離し後ナデ 内面：内面回転ナデ	密。	外面：灰色 内面：灰色	良好	
205	SB5 1層	第56図 PL.40 土師器 壺	7.2 20.3	口縁部1/5	外面：ヨコナデ、口縁部2条の平行沈線 内面：ヨコナデ～ケズリ後ナデ	密。2mm以下の長石・石英、雲母片を含む	外面：明黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
206	SK14 2層	第69図 PL.40 弥生土器 甕	5.1 —	口縁部1/8	外面：口縁部5条の平行沈線 内面：ケズリ	密。長石・石英(1mm以下)を含む	外面：灰色 内面：橙色	良好	
207	SK14 2層	第69図 PL.40 縄文土器 深鉢	2.8 —	—	外面：刻み～縄文～連続爪形刺突文、口縁部刺突文 内面：縄文～ナデ	密。2mm以下の石英を微含	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
208	SK14 2層	第69図 PL.40 縄文土器 深鉢	4.3 —	1/12	外面：刻み～縄文～連続刺突(爪形文) 3条、口縁部刺突文 内面：縄文～ナデ	密。2mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
209	SK14 2層	第69図 PL.40 縄文土器 深鉢	7.3 —	胴部	外面：縄文～連続爪形刺突文 内面：ナデ	密。1mm以下の石英を含む	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	良好	
210	P76 埋土	第73図 PL.40 弥生土器 甕	7.25 23.9	口縁部1/6	外面：口縁部13条の多条平行沈線、頸部貝殻履線による押引刺突文 内面：ヨコナデ～ケズリ	密。1mm以下の長石・石英・輝石を微含	外面：明黄褐色 内面：浅黄褐色	良好	
211	P76 1層	第73図 PL.40 弥生土器 甕	3.95 —	口縁部1/10	外面：口縁部7条の多条平行沈線 内面：調整不明	密。2mm以下の長石・石英・輝石を含む	外面：灰白色 内面：浅黄色	良好	
212	P76 埋土	第73図 PL.40 弥生土器 底部	6.0 底径6.8	1/4	外面：ミカキ 内面：ケズリ、指押え	密。1mm以下の白色砂粒を多含	外面：褐灰色 内面：にぶい黄褐色	良好	
213	P128 埋土	第73図 PL.40 弥生土器 甕	3.4 11.2	口縁部1/8	外面：ナデ 内面：ナデ	密。3mm以下の石英を含む	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄色	良好	
214	C4D3 暗褐色土	第73図 PL.40 須恵器 高台坏	器高4.25 口径12.4 底径7.2	1/4	外面：回転ナデ、底部切り離し後ナデ 内面：回転ナデ	密。	外面：灰色 内面：灰色	良好	

表21 石器観察表

遺構・地区・層位名	挿図・PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考	
S1	S11 2層	第12図 PL.42	敲石	10.3	9.35	6.6	75.0	上下左右側面に敲打痕あり	
S2	S11 2層	第12図 PL.42	敲石	10.4	4.0	2.1	130.0		
S3	S12 1層	第13図 PL.42	敲石	8.6	4.0	2.7	130.0	上下両側面に敲打痕あり	
S4	S13 3層	第20図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.55	1.2	0.34	0.4	
S5	S13 28層	第20図 PL.42	砥石	角閃石安山岩	8.2	5.6	4.85	330.0	表裏面、下側面、左側面に磨り面、右半部欠損
S6	S13 3層	第20図 PL.42	敲石	7.2	6.1	2.4	150.0	上下両側面に磨り面	
S7	S14 埋土	第21図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.6	1.25	0.3	0.4	
S8	S14 46層	第21図 PL.41	楔形石器	黒曜石	1.75	1.25	0.4	1.1	
S9	S14 48層	第21図 PL.43	石鏃	5.6	4.7	1.7	53.5	上下両端部に打ち欠きあり	
S10	S14 46層	第21図 PL.43	石鏃	5.4	4.15	1.1	40.4	上下両端部に打ち欠きあり	
S11	S14 46層	第21図 PL.43	石鏃	7.0	6.69	1.5	89.5	上下両端部に打ち欠きあり	
S12	S15 埋土	第25図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.55	1.2	0.23	0.2	

第3章 調査の成果

表22 石器観察表

	遺構・地区・層位名	挿図・PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S13	S15 埋土	第25図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.62	1.6	0.37	0.5	
S14	S15 3層	第25図 PL.41	石鏃	サヌカイト	2.2	1.1	0.32	0.6	
S15	S15 1層	第25図 PL.41	二次加工痕のある剥片	黒曜石	2.2	1.1	0.45	1.2	左右副縁に二次加工を施す
S16	S15 4層	第25図 PL.41	楔形石器	黒曜石	4.2	3.7	1.15	14.0	上下両側面に敲打痕あり
S17	S15 埋土	第25図 PL.42	敲石		15.1	9.9	4.1	944.0	下側面に擦痕あり
S18	S15 2層	第25図 PL.42	敲石		22.4	10.2	5.4	1816.0	表面、下側面に敲打痕あり
S19	S15 床面直上	第25図 PL.42	敲石		17.1	8.05	6.9	1350.0	上下両側面に敲打痕あり
S20	S15 3層	第25図 PL.42	磨石		13.7	13.5	4.6	1291.0	下側面に磨り面あり
S21	S15 3層	第25図 PL.42	敲石		11.5	8.1	5.6	589.0	表面、下側面に敲打痕あり、右半部欠損
S22	S15 埋土	第25図 PL.42	敲石		14.3	7.1	4.8	681.0	上下両側面に敲打痕あり
S23	S15 17層	第25図 PL.43	敲石		6.1	5.0	4.9	200.0	下側面に敲打痕あり
S24	S15 埋土	第26図 PL.42	石錘		6.0	4.2	1.9	67.0	上下両端部に打ち欠きあり
S25	S15 埋土	第26図	台石		14.1	10.1	9.3	2550.0	表面に被熱痕跡、敲打痕が残る
S26	S15 3層	第29図	砥石	珪質頁岩	11.7	3.4	3.3	217.0	直方形の各側面に擦痕あり、下端部からの剥離は整形によるもの
S27	S15 3層	第29図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.63	1.7	0.35	1.0	
S28	#REF! 埋土	第29図 PL.41	二次加工痕のある剥片	黒曜石	1.78	1.91	0.6	2.1	右半部欠損
S29	S16 埋土	第29図	石錘		5.4	4.5	1.6	57.0	上下両端部に打ち欠きあり
S30	S16 3層	第29図 PL.42	被熱礫	角閃石安山岩	6.9	8.0	6.4	522.0	表面に擦痕あり、裏面は被熱による剥離痕が残る
S31	S16 3層	第29図 PL.42	敲石		9.5	4.15	2.5	131.0	上下両側面に敲打痕あり
S32	S16 18層	第29図 PL.42	敲石		9.65	9.0	5.05	630.0	上下両側面に敲打痕あり
S33	S16 埋土	第29図 PL.42	敲石	安山岩質凝灰岩	19.3	6.5	4.8	920.0	表面、左側面に擦痕あり、左側面は上端部を中心に被熱。下側面に
S34	S16 3層	第30図 PL.42	敲石	安山岩溶岩	10.0	6.8	5.1	392.0	上半部を欠損。下側面に敲打痕あり
S35	S16 3層	第30図 PL.42	磨石		7.9	9.5	9.3	1317.0	下半部を欠損。表面、上、左右側面に磨り面あり
S36	S16 3層	第32図 PL.41	磨石		17.4	10.9	4.0	1146.0	表面に磨り面あり
S37	S17 攪乱土	第32図 PL.42	石鏃	サヌカイト	2.3	1.5	0.3	0.8	
S38	S17 1層	第32図	敲石	角閃石安山岩	6.7	10.9	2.6	290.0	上半部を欠損。下側面に敲打痕が残る
S39	S17 2層	第32図	被熱礫		10.7	9.1	7.2	770.0	表面に被熱による剥離痕が残る
S40	S18 3層	第40図 PL.41	石鏃	サヌカイト	1.92	1.40	0.21	0.6	
S41	S18 12層	第40図 PL.41	石鏃	サヌカイト	1.8	1.4	0.36	0.7	
S42	S18 3層	第40図 PL.41	楔形石器	黒曜石	3.6	3.0	0.7	6.2	上下両端部に潰れあり
S43	S18 3層	第40図 PL.41	二次加工痕のある剥片	黒曜石	1.99	2.77	0.65	2.8	
S44	S18 3層	第41図 PL.42	石斧		5.3	7.7	5.6	339.0	下半部欠損。上側面には敲打痕が残る。
S45	S18 床面直上	第41図 PL.42	敲石		9.3	3.9	2.8	109.0	上下両側面に敲打痕あり
S46	S18 7層	第41図 PL.42	敲石		12.6	5.4	3.1	313.0	上下両側面に磨り面あり
S47	S18 7層	第41図 PL.42	敲石		8.0	7.0	4.3	372.0	上半部欠損。下側面は磨り面
S48	S18 床面直上	第41図 PL.42	敲石		14.5	7.9	6.1	745.0	表面、上下、左右側面に敲打痕あり
S49	S18 5層	第41図 PL.42	磨石		13.0	5.6	4.6	502.0	直方形の各側面に擦痕あり、下側面には敲打痕あり
S50	S19 7層	第44図	砥石	流紋岩質凝灰岩	7.5	2.8	2.4	33.8	
S51	S110 2層	第48図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.45	0.9	0.38	0.4	左脚部欠損
S52	S110 4層	第48図	石鏃	黒曜石	1.5	1.38	0.33	0.6	右脚部欠損
S53	S110 4層	第48図 PL.41	スクレイパー	黒曜石	1.2	3.3	0.5	1.2	
S54	S110 4層	第48図 PL.41	スクレイパー	黒曜石	3.01	1.95	0.34	1.6	
S55	S110 4層	第48図 PL.41	二次加工痕のある剥片	黒曜石	2.12	2.36	0.4	1.7	
S56	S110 2層	第48図 PL.41	二次加工痕のある剥片	黒曜石	2.6	3.5	0.65	5.9	
S57	S111 埋土	第50図 PL.43	砥石	流紋岩質凝灰岩	7.6	3.7	3.0	112.0	
S58	SS1 攪乱土	第54図 PL.43	石斧		6.3	4.8	2.5	114.0	表面に擦痕あり
S59	SS1 2層	第54図	石錘		6.8	5.0	1.9	73.0	上下両端部を中心に打ち欠きあり
S60	SK7 埋土	第65図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.85	1.45	0.4	0.9	

表23 石器観察表

	遺構・地区・層位名	挿図・PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	備考
S62	SK14 埋土	第69図 PL.41	石錐	黒曜石	4.6	1.7	0.55	9.0	先端部に一部磨耗痕あり
S63	遺構外 暗褐色土	第73図 PL.41	石鏃	黒曜石	3.0	2.5	0.6	3.1	右脚端部欠損
S64	遺構外 暗褐色土	第73図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.79	1.6	1.19	0.5	
S65	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	石鏃	黒曜石	1.61	1.31	0.21	0.3	
S66	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	石鏃	黒曜石	2.13	1.64	0.35	0.7	
S67	遺構外 暗褐色土	第73図	石鏃	黒曜石	2.4	1.5	0.39	0.4	
S68	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	スクレイパー	黒曜石	4.35	3.5	1.05	15.7	左右両側面に背面から二次加工を施す
S69	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	楔形石器	黒曜石	2.9	2.4	1.8	8.0	裏面上半部に打撃痕あり
S70	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	楔形石器	黒曜石	2.5	1.85	0.8	3.8	上下両端部に潰れあり
S71	遺構外 攪乱土	第73図 PL.41	楔形石器	黒曜石	5.1	4.1	1.5	27.6	上下両端部に潰れあり、右側面は折断によるもの

表24 鉄器観察表

	遺構・地区・層位名	挿図・PL	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
F1	S11 2層	第12図 PL.44	板状鉄製品	5.5	5.1	1.7	55.0	錆膨れにより一部肥厚
F2	S11 4層	第12図 PL.44	不明	2.5	4.7	1.2	19.6	
F3	S12 床直	第13図 PL.45	棒状鉄製品	4.5	0.7	0.5	1.8	上下両端部を欠損
F4	S13 5層	第20図 PL.44	鏃	6.0	1.7	1.2	15.2	上半部を折り返して整形
F5	S13 焼土中	第20図 PL.45	不明鉄器片	2.80	1.2	0.7	1.4	下半部を折り曲げる
F6	S14 埋土	第21図 PL.45	棒状鉄製品	2.6	0.8	0.7	2.4	上下両端部を欠損
F7	S14 54層	第21図 PL.45	不明鉄器片	2.1	2.1	1.0	4.7	
F8	S14 57層	第21図 PL.45	不明鉄器片	2.4	1.7	0.3	7.8	上下両端部を欠損
F9	S14 46層	第21図 PL.45	不明鉄器片	1.8	1.2	0.9	2.0	上下両端部を欠損
F10	S15 埋土	第26図 PL.44	鏃	11.0	1.8	1.9	31.5	板状素材を折り曲げて棒状に整形、下端部を欠損
F11	S15 床直	第26図 PL.45	鏃	4.2	1.2	0.8	3.7	木質が一部残存
F12	S15 床直	第26図 PL.44	棒状鉄製品	4.6	1.1	1.0	9.2	下半部を欠損
F13	S16 3層	第30図 PL.46	ヤリガンナ	2.7	2.0	0.7	3.8	先端部、下端部を欠損
F14	S16 3層	第30図 PL.46	鏃	3.5	2.8	1.3	13.4	左右両側面を折り曲げて整形
F15	S16 3層	第30図 PL.46	棒状鉄製品	4.0	0.6	0.5	2.8	上半部を欠損
F16	S16 3層	第30図 PL.47	棒状鉄製品	3.7	0.8	0.8	2.4	上下両端部を欠損
F17	S16 3層	第30図 PL.46	棒状鉄製品	3.9	1.5	1.2	7.6	
F18	S16 3層	第30図 PL.46	不明鉄器片	3.3	2.0	0.8	5.2	
F19	S16 3層	第30図 PL.47	不明鉄器片	1.9	2.0	0.4	3.2	
F20	S18 床直	第41図 PL.46	ヘラ状鉄器	4.0	1.2	0.9	5.6	上端部を欠損、一部木質が残存
F21	S18 3層	第41図 PL.46	不明鉄器片	3.6	1.1	0.7	4.1	
F22	S18 3層	第41図 PL.47	不明鉄器片	1.4	1.9	1.0	3.9	
F23	S18 埋土	第41図 PL.46	板状鉄製品	3.5	2.2	1.5	14.6	
F24	S18 7層	第41図 PL.47	棒状鉄製品	2.1	0.8	0.4	1.5	下端部欠損。木質が一部残存
F25	S18 7層	第41図 PL.46	不明鉄器片	5.2	2.3	1.1	7.8	
F26	S19 埋土	第44図 PL.47	不明鉄器片	2.2	1.7	0.7	4.9	
F27	S110 4層	第48図	棒状鉄製品	3.9	1.1	0.7	7.8	